



serena.com

SERENA[®]

PVCS[®] VERSION MANAGER[™] 8.1.4

インストールガイド
Serena が著作権を所有する機密情報

 **SERENA[™]**

Copyright © 1985-2007 Serena Software, Inc. All rights reserved.

本マニュアルとここで説明されているソフトウェアは、ライセンス下で提供されており、ライセンスの条件に従ってのみ使用またはコピーすることが許可されています。ライセンスで許可されていない限り、本書のいかなる部分も、Serena の文書による事前許可なく、いかなる形式または電子的、機械的記録方法で、複製、保存システムへの保管、転送することはできません。複製されたドキュメントには、全部または一部であるかにかかわらず、この著作権の記述すべてが、変更されることなく含まれていなければなりません。

このドキュメントは、著作権および機密情報に関して記載されており、Serena Software の明示的許可なく、本ドキュメントに含まれるいかなる情報を複製または流布することはできません。

このドキュメントの内容は、情報提供のみを目的としており、予告なしに変更される可能性があり、Serena による確約と解釈されるべきものではありません。Serena は、本書のエラーまたは不正確性についていかなる責任も義務も負うことはありません。

商標

Serena、TeamTrack、StarTool、PVCS、Collage、Comparex、Dimensions、RTM、Change Governance、および ChangeMan は、Serena Software, Inc. の登録商標です。Serena ロゴ、Professional、Version Manager、Builder、Meritage、Command Center、Composer、Reviewer、Mariner、および Mover は、Serena Software, Inc. の商標です。

その他のすべての製品または企業名は、識別する目的でのみ使用されており、それぞれの所有者の商標である場合があります。

米国政府の権利

米国政府、その機関、および手段に代わり、本同意書のもとでライセンスより取得されたすべてのソフトウェア製品は、FAR によって定義されている「商用ソフトウェア」です。米国政府による使用、複製、公開は、ソフトウェアを取得したライセンスによる制限の対象となります。製造元：Serena Software, Inc., 2755 Campus Drive, San Mateo, CA 94403。

部品番号：MA-VMINST-J04

発行日：2007 年 3 月

目次

	Version Manager へようこそ	11
	技術サポートへのお問い合わせ.	11
	表記上の規則.	12
	マニュアルの使用方法.	13
パート 1	インストールの実行プランとライセンスの設定 . . .	15
	チェックリスト	16
第 1 章	インストールの前に	17
	インストールオプション.	18
	必要なシステム構成.	18
	サポートされている UNIX およびクロスプラットフォームネットワーク	19
	Version Manager のライセンス設定	19
	インストールの実行プラン.	20
	5.3/6.0 プロジェクトルートのアップグレード	20
	5.3/6.0 プロジェクトルートでサポートされている機能と制限されている機能	21
	Windows でのネットワークインストールのプラン	21
	クロスプラットフォームインストールの実行プラン	23
	Windows での IDE クライアントインストールの実行プラン	24
	Linux での Eclipse プラグインのインストールプラン	24
	Version Manager Web サーバインストールの実行プラン	26
	WebDAV Server インストールの実行プラン	26
	Version Manager のオンライン登録.	27
第 2 章	Serena License Manager を使用した Version Manager のライセンス管理	29
	Serena License Manager の使用.	30

License Manager のインストール	30
さまざまなライセンスモデル	30
指名ユーザライセンス	31
同時使用ライセンス	31
2 つのライセンスモデルの併用	31
作業場所が異なるユーザのライセンス管理	32
パッケージライセンスの使用	32
ライセンスプロセス	32
ライセンスプロセスの概要	33
License Manager のインストール	34
License Manager のアップグレードについて	34
License Manager を Windows 上にインストールする場合	35
License Manager を UNIX 上にインストールする場合	35
インストール後の作業	36
製品のライセンス管理	36
ライセンスの取得	37
ライセンスの追加	40
License Manager サーバの起動	41
License Manager をサービスとして実行	41
ライセンス設定後の作業	42
指名ユーザライセンスのユーザ名の管理	43
ライセンスに関する問題の通知設定	44
ライセンスおよびサーバの管理	45
ワークステーションインストールのライセンスの設定	45
使用可能なライセンスの確認	46
License Manager サーバの移動	47
License Manager サーバの切り替え	47
Version Manager でのライセンスの使用	48
評価版ライセンスのアップグレード	48
リダンダント License Manager サーバのセットアップ	49
パート 2	
Version Manager のインストール	51
チェックリスト	52
第 3 章	
Windows 版 Version Manager の	
インストール	53
インストールの前に	54

	NT サービスの削除	54
	Windows での Version Manager Application Server の停止	54
	デフォルトのインストールディレクトリ構造	55
	DVD-ROM からの Version Manager のインストール	55
	ワークステーションインストールの準備	61
	ワークステーションのセットアップ	64
	ワークステーションでのセットアッププログラムの実行	65
第 4 章	UNIX 版 Version Manager の	
	インストール	67
	インストールの前に	68
	Exceed やその他の X サーバのフォント置換の 無効化	68
	UNIX での Version Manager Application Server の停止	69
	setuid によるセキュリティの強化	69
	デフォルトのインストールディレクトリ構造	71
	Version Manager のユーザアカウントの作成	71
	DVD-ROM からの Version Manager のインストール	73
	Solaris、AIX、および Linux での setuid モードの使用	76
	クロスプラットフォーム環境での setuid の使用	77
	Samba での setuid の使用	78
	NFS での setuid の使用	79
第 5 章	インストール後の作業	81
	ログインソースの設定	82
	デスクトップクライアントの使用	84
	コマンドラインインターフェイスの使用	86
	プログラムファイルとプロジェクトデータの保護	86
	プロジェクトデータベースについて	87
	UNIX 上でのプログラムファイルとプロジェクトデータの保護	88
	Windows 上でのプログラムファイルとプロジェクト データの保護	89
	Version Manager に必要な UNIX 環境	90
	UNIX での Adobe Acrobat Reader および HTML ブラウザの設定	93
	UNIX での Adobe Acrobat Reader の設定	93
	UNIX 上でのブラウザの設定	94
	次のステップ	94

パート 3	Version Manager Web サーバのインストール	97
	チェックリスト	98
第 6 章	Version Manager Web サーバの概要	101
	Version Manager Web サーバについて	102
	Version Manager Web サーバのコンポーネント	102
	Version Manager コンポーネントの統合	105
	インストールの前に	106
	readme ファイルの確認	106
	必要なシステム構成	107
	インストール後の作業	107
	Web ブラウザの設定	107
第 7 章	Windows への Web サーバのインストール	109
	概要	110
	Windows 環境でのセットアッププログラムの実行	111
	仮想 Web ディレクトリの設定	113
第 8 章	UNIX への Web サーバのインストール	117
	UNIX への Version Manager Web サーバのインストールの概要	118
	UNIX への Version Manager Web サーバのインストール	119
	インストール後の手順	121
	既存の NFSMAP ファイルの使用	122
第 9 章	Version Manager プロジェクトデータベースの作成	123
	概要	124
	プロジェクトデータベースの操作	124
	新規プロジェクトデータベースの設定	124
	既存のプロジェクトデータベースの使用	125
	プロジェクトデータベースの削除	125
	プロジェクトデータベースの設定	126
	ユーザと権限の設定	126
	アクセスコントロールの使用	126

	Version Manager Web クライアントのユーザ名	127
	デフォルトのパスワードの使用	127
第 10 章	Web サーバサブレットの設定	129
	Version Manager Web サーバサブレットについて	130
	Version Manager Web サーバサブレットの コンフィグレーション設定	130
	サブレット名	130
	説明	131
	サブレット URL	131
	プロジェクトデータベース / ルート (Windows) と rootPath (UNIX)	131
	サーバ (Windows) と serverName (UNIX)	132
	Web Server Application URL (Windows) と trackerName および trackServerType (UNIX)	132
	デフォルトパスワード (Windows) と defaultPassword (UNIX)	132
	ログインタイムアウト (Windows) と logtimeout (UNIX)	133
	日付 / 時間の形式 (Windows) と DateTimeFormat (UNIX)	133
	Windows でのサブレットの設定	134
	Windows 上での Version Manager Application Server Admin の起動	134
	Windows でのサブレットの追加	134
	Windows でのサブレットの変更	137
	Windows でのサブレットの削除	138
	UNIX での Version Manager Web サーバ サブレットの設定	139
	UNIX でのサブレットの追加	139
	UNIX でのサブレットコンフィグレーション設定の変更	142
	UNIX でのサブレットの削除	143
	サブレットへのアクセス	144
第 11 章	Web サーバのインストールと実行	145
	Web サーバソフトウェアのインストール	146
	Apache Web サーバを使用するには動的共有 オブジェクトのサポートが必要	146
	Web サーバソフトウェアの設定	147
	Web サーバセキュリティの設定	147

	Web サーバインスタンスの起動と停止	148
	iPlanet Web Server での Web サーバの起動と 停止	148
	Microsoft Internet Information Services の起動と停止	150
	Apache Web サーバの起動と停止.	151
第 12 章	Version Manager Web サーバの実行	153
	Windows での Web サーバの起動と停止	154
	UNIX での Web サーバの起動または停止.	155
	ユーザの接続	156
第 13 章	セキュリティの管理	157
	アクセスコントロールの使用	158
	SSL の使用	158
	SSL の設定	158
	ユーザの接続	159
	ファイアウォールの使用	159
第 14 章	パフォーマンスの管理	161
	システムの考慮事項	162
	ネットワークポロジの考慮事項	162
	プロジェクトファイルの格納場所	162
	アーカイブの格納場所とネットワーク速度	163
	Version Manager Web サーバデーモンプロセスに ついて	163
	デーモンのプロセス数の設定	163
	デーモンを無効にする場合	164
	Web サーバの考慮事項	166
	推奨構成	166
	最適なパフォーマンスの維持	167
	Web サーバのテンポラリファイルの管理.	167
	Version Manager のテンポラリファイルの管理	167
	大規模ファイルのデルタ生成の管理	168
	ファイル転送時の圧縮を使用した Web サーバ パフォーマンスの管理	168

第 15 章	Version Manager Web サーバの アンインストール	171
	Windows からの Web サーバのアンインストール	172
	iPlanet Web Server を使用している場合	172
	Microsoft Internet Information Services を使用している場合	173
	UNIX からの Web サーバのアンインストール	174
パート 4	その他の Version Manager インターフェイスの インストール	177
	チェックリスト	178
第 16 章	IDE クライアントのインストール	179
	IDE クライアントについて	180
	必要なシステム構成	181
	IDE クライアントのマニュアル	181
	Windows への IDE クライアントのインストール	182
	Linux への Eclipse プラグインのインストール	184
	プラグインをインストールする前に	184
	プラグインのインストール	184
	プラグインのインストール後に	185
	Web サーバへのインストール	186
	サポートされる Web サーバの設定	187
	FrontPage Server Extensions のインストール	187
	Version Manager IDE クライアントの インストール	187
	クライアントワークステーションへの FrontPage または Visual InterDev のインストール	189
第 17 章	Version Manager Developer's Toolkit のインストール	191
	Developer's Toolkit について	192
	必要なシステム構成	192
	DTK のマニュアル	192
	Developer's Toolkit のインストール	192
	Windows への DTK のインストール	192
	Windows 上の DLL の場所	193
	UNIX への DTK のインストール	193
	Developer's Toolkit のライセンス	194

	Version Manager の機能の配布	194
	Serena Configuration Builder の機能の配布	194
第 18 章	WebDAV Server のインストール	195
	はじめに	196
	インストールの前に	196
	サポートされている Web サーバの設定	197
	WebDAV Server のアップグレード	197
	Windows への WebDAV Server のインストール	197
	UNIX への WebDAV Server のインストール	198
	WebDAV Server のアンインストール	199
	WebDAV Server の起動と停止	200
	サービスとしての Tomcat の実行	202
	Microsoft IIS Web サーバの設定	202
	ISAPI リダイレクタの設定	202
	セキュリティの設定	204
	iPlanet Web Server の設定	205
	iPlanet obj.conf ファイルの編集	205
	UNIX での Apache Web サーバの設定	207
	Web サーバアダプタのインストール	208
	Apache コンフィグレーションファイルの編集	208
	Web サーバのテスト	210
第 19 章	Meritage のインストール	213
	はじめに	214
	インストールの前に	214
	Meritage Admin Wizard	215
	エンドユーザプロジェクト定義の更新	216
	Meritage エンドユーザの設定	217
	インストール後の作業	218
	Serena Meritage の基本操作	218
	索引	219

Version Manager へようこそ

ソフトウェアの開発方法に革命をもたらす、用途の広い強力なバージョン管理システム、Serena PVCS Version Manager を選択いただき、ありがとうございます。Version Manager では、個々のファイルに対する変更の保存や追跡から、開発サイクル全体の管理および監視に至るまでのすべてのレベルにおいて、ソフトウェア開発プロジェクトを編成、管理、および保護することができます。

このマニュアルの
内容

このマニュアルでは、Version Manager を Windows オペレーティングシステムと UNIX オペレーティングシステムにインストールする方法について説明します。このマニュアルは、ネットワーク環境で使用できるようにソフトウェアをインストールし、設定する管理者、およびワークステーションへのインストールを実行するユーザを対象としています。

詳細情報

Version Manager のマニュアル類、Version Manager の操作方法の概要、およびオンラインヘルプの使用方法については、『Serena PVCS Version Manager 入門ガイド』を参照してください。

対応バージョン

このマニュアルの内容は、Version Manager バージョン 8.1.4（日本語版）以降を対象としています。この版によって、このマニュアルの旧版は廃版となります。

技術サポートへのお問い合わせ

Serena では、この製品のすべての登録ユーザを対象に技術サポートを提供しています。これには、30 日間限定のインストールサポートが含まれます。この期間を過ぎた後のサポートをご希望の場合は、次の URL の Serena Online Services を参照してください。

<http://support.serena.com/>

特定言語でのサポートは、各地域の営業時間内でのみご利用できます。それ以外の時間の技術サポートは、英語で提供されます。

Serena Online Services では、以下のことを行うことができます。

- 障害の報告や質問の送信
- オンラインサービスを利用するユーザ向けに提供されているツールや情報の取得
- 使用方法やキーワードで技術情報を検索することもできるナレッジベースへのアクセス

表記上の規則

オンラインマニュアルおよびオンラインヘルプでは、以下の表記上の規則を使用しています。これらの表記上の規則は、ドキュメントを利用しやすくするためのものです。さまざまな製品コンポーネントやホストオペレーティングシステムで使用されている標準的な表記上の規則を否定したり、変更したりするものではありません。

表記例	意味
大文字	使用できるキーまたはキーの組み合わせを示します。たとえば、「ENTER キーを押します」などと表記されます。
モノスペース	構文例、ユーザ指定が可能な値、システムから返される結果値などを表します。
モノスペース斜体	ユーザが特定の値を指定する箇所を表します (例: <i>filename</i>)。
モノスペース太字	構文例の中のコマンドおよびコマンドオプションの名前を表します。また、実行されたコマンドの結果も表します。
縦線 ()	メニューとそれに関連付けられたコマンドを区切ります。たとえば、[File (ファイル)] [Copy (コピー)] は、[File (ファイル)] メニューの [Copy (コピー)] を選択することを意味します。また、コマンド構文でどちらか一方を選択する必要がある情報を区切ります。
中かっこ { }	コマンド構文で、いずれか 1 つを選択する項目のリストを囲みます。各項目間は縦線で区切られます。たとえば、{ <i>version</i> <i>from_ver*to_ver</i> } と示されます。
角括弧 []	指定が必須ではないオプションの項目を示します。たとえば、SELECT [DISTINCT] の DISTINCT は省略可能なキーワードです。
...	コマンドの単一インスタンスで複数回使用できるコマンド引数を示します。
	クリックするショートカットアイコンを示します。ショートカットアイコンは余白に置かれます。

マニュアルの使用方法

Serena® PVCS® Version Manager™ のマニュアルは、Adobe Portable Document Format (PDF) を使用します。PDF ファイルを表示するには、www.adobe.com から無料で入手可能な Adobe® Reader® を使用してください。



注：フルバージョンの Reader をダウンロードします。ベーシックバージョンには、検索機能が含まれていません。

このセクションでは、Reader の主な機能のいくつかを説明します。詳細は、Adobe Reader のオンラインヘルプシステムを参照してください。

PDF マニュアルには、以下の機能が含まれています。

- **しおり：**すべてのマニュアルにはしおりが設定されており、これを使って特定のトピックにすばやく簡単にジャンプすることができます。デフォルトでは、各オンラインマニュアル画面の左側にしおりが表示されます。
- **リンク：**マニュアル内の相互参照リンクによって、マウスをクリックするだけで、そのマニュアルのほかのセクションやほかのマニュアルにジャンプすることができます。これらのリンクは青色で表示されます。
- **印刷：**マニュアルを表示しているときに、現在のページ、複数ページ、マニュアル全体を印刷できます。
- **高度な検索：**Adobe Reader のバージョン 6 から、指定したディレクトリ内の複数の PDF ファイルを検索できる、高度な検索機能が含まれるようになりました。次の手順を参照してください。

複数の PDF 文書を一度に検索するには、次の手順を実行します (Adobe Reader バージョン 6 以降が必要です)。

- 1 Adobe Reader で、[Edit (編集)] - [Search (検索)] を選択します (または CTRL+F を押します)。
- 2 テキストボックスに、検索する言葉や文章を入力します。
- 3 <All PDF Documents in (すべての PDF 文書)> オプションを選択し、検索するフォルダを参照して選択します。
- 4 オプションで、<Whole words only (完全に一致する語のみ)> や <Case-Sensitive (大文字と小文字を区別)> などの追加検索オプションを 1 つ以上選択します。

5 【Search (検索)】 ボタンをクリックします。



注：より強力な追加検索オプションを有効にするには、Reader のウィンドウの右下隅にある〈Use Advanced Search Options (高度な検索オプションを使用)〉リンクをクリックします。

(リンクに〈Use Basic Search Options (基本的な検索オプションを使用)〉と表示されている場合は、高度な検索オプションはすでに有効になっています。) 詳細については、Adobe Reader のオンラインヘルプを参照してください。

パート 1

インストールの実行プランとライセンスの設定

『パート 1：インストールの実行プランとライセンスの設定』は、以下の章で構成されています。

[インストールの前に](#) 17

[Serena License Manager を使用した Version Manager のライセンス管理](#) 29

チェックリスト

Serena PVCS Version Manager のインストールプランを立て、ライセンスを設定するには、次の作業を行う必要があります。

<input type="checkbox"/>	さまざまなインストール方法について理解する (18 ページ)
<input type="checkbox"/>	UNIX およびプロジェクト間ネットワークについて、システム要件とガイドラインを確認する (18 ページ)
<input type="checkbox"/>	インストールプランについてのガイドラインを確認する (20 ページ) すでに Serena License Server をインストールしており、Version Manager のライセンス設定が済んでいる場合は、51 ページの『Version Manager のインストール』に進んでください。
<input type="checkbox"/>	ライセンスサーバとライセンスプロセスを確認する (30 ページ)
<input type="checkbox"/>	License Manager ツールをインストールする (34 ページ)
<input type="checkbox"/>	ライセンスを取得する (37 ページ)
<input type="checkbox"/>	指名ユーザライセンスモデルのみ：有効な Version Manager ユーザ ID を使用して、License Manager に指名ユーザを設定する (43 ページ)
<input type="checkbox"/>	ライセンスに関する問題が通知されるように設定する (44 ページ)

第 1 章

インストールの前に

インストールオプション	18
必要なシステム構成	18
Version Manager のライセンス設定	19
インストールの実行プラン	20

インストールオプション

Version Manager の機能

Version Manager のインストールプログラムでは、以下の機能をインストールできます。

- デスクトップクライアント
- SCC/COM IDE クライアント (Windows のみ)
- Eclipse 2 および 3 用のプラグイン (Windows のみ)
- Eclipse 3 用のプラグイン (リッチな統合) (Windows または Linux)
- VS .NET 用のプラグイン (リッチな統合) (Windows のみ)
- Web Server Application
- Developer's Toolkit
- Version Manager WebDAV
- ドキュメント
- ワークステーションインストール (Windows のみ)
- サンプルプロジェクトデータベース
- コマンドラインインターフェイス
- File Server



注：Web Server Application、File Server、または Serena WebDAV をインストールする場合、サンプルプロジェクトデータベースは必須であり、選択解除できません。

必要なシステム構成

Version Manager デスクトップクライアント、コマンドラインインターフェイス、プロジェクトコマンドラインインターフェイス、および Web クライアントは、Windows プラットフォームと UNIX プラットフォームの両方でサポートされています。UNIX では、X Windows システムと Motif または共通デスクトップ環境 (CDE) の下でデスクトップクライアントを実行できます。IDE クライアントは Windows でサポートされています。

サポートされているプラットフォーム、バージョン情報、必要なディスク容量については、[readme ファイル](#)を参照してください。

サポートされている UNIX およびクロスプラットフォームネットワーク

Version Manager は、UNIX ファイルシステム (UFS) やネットワークファイルシステム (NFS) など、書き込み可能な UNIX ファイルシステム上で動作します。

Version Manager のアーカイブとプロジェクトは、NFS または Samba を使用した同じ UNIX ファイルシステムを利用している複数の Windows ユーザで共有できます。以下をサポートしている、32 ビットの NFS パッケージを使用することをお勧めします。

- 長いファイル名
- 大文字と小文字の区別
- デスクトップインターフェイスとコマンドラインインターフェイス
- ファイル権限または `umask` の設定機能

UNIX システムと Windows ローカルエリアネットワーク間でアーカイブおよびプロジェクトを共有する方法については、[77 ページ](#)の『[クロスプラットフォーム環境での `setuid` の使用](#)』および『[Version Manager 管理者ガイド](#)』を参照してください。

Version Manager のライセンス設定

Version Manager のプロジェクトにログインしたり、サンプルデータベースを使用したりするには、最初にライセンスサーバでライセンスを設定する必要があります。通常は、インストール時にライセンス情報を入力できるように、Version Manager をインストールする前にライセンスサーバを設定します。有効なライセンスを使用してライセンスを設定する方法については、[32 ページ](#)の『[ライセンスプロセス](#)』を参照してください。

インストールの実行プラン

Version Manager をインストールする前に、以下のセクションの説明をお読みください。

- ネットワークインストールの実行プラン (21 ページ)
- クロスプラットフォームインストールの実行プラン (23 ページ)
- IDE クライアントインストールの実行プラン (24 ページ)
- Version Manager Server のインストールプラン (26 ページ)
- WebDAV Server のインストールプラン (26 ページ)
- Version Manager の登録 (27 ページ)
- 必要に応じて、5.3/6.0 プロジェクトルートをアップグレードするタイミング (20 ページ)



注：Version Manager のマニュアル全体に、5.3/6.0 プロジェクトルートについての記述があります。バージョン 5.2 のプロジェクトルートについては記述されていませんが、5.3/6.0 プロジェクトルートについて記述されているすべての機能は 5.2 プロジェクトルートにも適用されます。

5.3/6.0 プロジェクトルートのアップグレード

最新バージョンの Version Manager では、『Version Manager 入門ガイド』で説明されている機能を利用できます。これらの機能は Version Manager の以前のバージョンよりさらに強化され、使いやすくなっています。5.3/6.0 プロジェクトルートを、最新のプロジェクトデータベース形式へアップグレードすることをお勧めします。

プロジェクトデータベースへコピーすることによって 5.3/6.0 プロジェクトルートをアップグレードする方法については、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』の『プロジェクトデータベースの計画』を参照してください。

5.3/6.0 プロジェクトルートでサポートされている機能と制限されている機能

バージョン 5.3/6.0 のプロジェクトルートをプロジェクトデータベースフォーマットにアップグレードせずに、新しい Version Manager デスクトップクライアントの多数の機能を使用することができます。このリリースの Version Manager は、作業ファイルの追加、作業ファイルのチェックイン、リビジョンのチェックアウト、バージョンラベルの割り当てなど、Version Manager の基本的なタスクをすべてサポートします。これらすべてのタスクは、Version Manager 6.0 デスクトップクライアントを使用する場合よりも簡単に完了できます。

ただし、一部の操作には対応していません。Version Manager で 5.3/6.0 プロジェクトルートを開いた場合は、次の作業を行えません。

- バージョン 5.3/6.0 のプロジェクトルートで新規プロジェクトを作成する
- バージョン 5.3/6.0 のプロジェクトルートからプロジェクトを削除する
- プロジェクト、サブプロジェクト、またはバージョン管理ファイルを、プロジェクトデータベースからバージョン 5.3/6.0 のプロジェクトルートへコピーする
- バージョン 5.3/6.0 のプロジェクトルートを設定する
- 5.3/6.0 プロジェクトルートのセキュリティを定義または変更する

これらのタスクを行うには、既存のプロジェクトを新しいプロジェクトフォーマットにアップグレードするか、Version Manager 6.0 デスクトップクライアントを使用します。このリリースの Version Manager では、変更が考慮されます。

Windows でのネットワークインストールのプラン

Version Manager のネットワークインストールを実行すると、ユーザは、ネットワーク上からこのプログラムを実行できるようになります。したがって、ローカルワークステーションのディスク容量を節約できると同時に、全ユーザが同じバージョンの Version Manager を実行できます。

ネットワークインストールを実行すると、以下の処理が行われます。

インストールのタイプ	Version Manager . . .
ワークステーション	<ul style="list-style-type: none"> ■ オペレーティングシステムのディレクトリ (\WINDOWS など) で ISLV.INI を作成または変更する。 ■ Version Manager アイコンをユーザのワークステーションに追加する。 ■ 共有の実行ディレクトリを指すようにパスを変更する。 ■ IDE クライアントをインストールする場合は、IDE クライアントのデフォルトプロジェクトデータベースを作成する。 ■ (選択した場合のみ) Version Manager のオンラインマニュアルをインストールする。
サーバ	<ul style="list-style-type: none"> ■ Version Manager 実行ファイルをインストールする。 ■ サンプルプロジェクトデータベースをインストールする。 ■ (選択した場合のみ) IDE クライアントの実行ファイルをインストールする。 ■ (選択した場合のみ) デフォルトの IDE クライアントプロジェクトデータベースをインストールする。 ■ (選択した場合のみ) Version Manager のオンラインマニュアルをインストールする。 ■ オペレーティングシステムのディレクトリ (\WINDOWS など) で ISLV.INI を作成または変更する。 ■ インストールを実行したワークステーションに Version Manager のアイコンを追加する。 ■ 共有の実行ディレクトリを指すようにパスを変更する。

ネットワークインストールを計画するには、次の操作を行います。

- 1 インストールを開始する前に、ワークステーションまたはサーバの場所を決定し、Version Manager のインストール場所に対してすべてのユーザがネットワーク権限を持っていることを確認します。
 - 「ワークステーション」は、ユーザのワークステーションを指しています。
 - 「サーバ」は、すべての共有ファイルを含むネットワークサーバディスクボリューム上のディレクトリです。

- 2 ネットワーク上の場所に対して全ユーザが同じドライブマッピングを使用しており、ネットワークコピーのインストール元となるワークステーションでも同じドライブマッピングが使用されていることを確認します。たとえば、P:\serena にマッピングされたネットワーク上の場所にワークステーションのセットアッププログラムをインストールする場合は、すべてのユーザがその場所を P:\serena にマッピングする必要があります。
- 3 指示に従って、ワークステーションからネットワーク上に Version Manager をインストールします (55 ページの『DVD-ROM からの Version Manager のインストール』を参照してください)。ワークステーションで、Version Manager のインストールに対応したオペレーティングシステムを実行していることを確認してください。



重要 : Version Manager のワークステーションインストールをセットアップするときは、ローカルワークステーションからネットワーク上に Version Manager をインストールする必要があります。ネットワークサーバのコンソールで、Version Manager を直接インストールしないでください。その後、ユーザは、ネットワークから各自のローカルワークステーションに Version Manager をインストールします。

クロスプラットフォームインストールの実行プラン

UNIX ユーザと Windows ユーザがアーカイブを共有できるようにする場合は、次の作業を行う必要があります。

- Windows システムと UNIX システムの両方に Version Manager をインストールします。
- NFS または Samba を使用して、UNIX と Windows 間でファイルシステムを共有します。Version Manager は、nfsmap ファイルのユニバーサル命名規則 (UNC) をサポートしています。

Windows と UNIX の両方に Version Manager をインストールした後で、クロスプラットフォーム環境をセットアップする方法については、『Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

Windows での IDE クライアントインストールの実行プラン

Version Manager IDE クライアントをインストールすると、統合開発環境 (IDE) 内から Version Manager のさまざまな機能を使用できます。開発環境から離れることなく、ファイルを取得したり、ファイルのチェックインやチェックアウトを行えます。

IDE クライアントは、以下のいずれかで使用できます。

- サポートされているソースコード管理 (SCC) インターフェイス準拠の IDE のプロジェクト。Microsoft.NET、Sybase PowerBuilder、Rational Rose Enterprise などがあります。
- サポートされている COM インターフェイス準拠の IDE (Microsoft FrontPage など) の Web プロジェクト。
- サポートされている Eclipse インターフェイス準拠の IDE (IBM WebSphere Studio Application Developer など) のプロジェクト。



注：上記のほかにもサポートされている IDE があります。サポートされているすべての IDE とそのバージョン番号については、[readme ファイル](#)を参照してください。



重要：UNC パスでは Eclipse は正常に機能しません。UNC パスではなく、Version Manager インストールに対してマップされたドライブ、および Eclipse ベースの IDE で使用される Version Manager File Server パスを使用します。

IDE クライアントのインストールプランの詳細については、[第 16 章、179 ページの『IDE クライアントのインストール』](#)を参照してください。

Linux での Eclipse プラグインのインストールプラン

Eclipse のリッチな統合は、Windows プラットフォームに加えて Linux でもサポートされています。

その統合をインストールする準備段階では、次のことに注意してください。

- Version Manager インストールを実行するユーザは、必ず Version Manager および Eclipse インストールディレクトリに対する権限の読み込み、書き込み、実行を行わなくてはなりません。

Version Manager をインストールする際の権限の設定に関する詳細は、[71 ページの『Version Manager のユーザアカウントの作成』](#)を参照してください。

- 統合では setuid モードを利用できないため、Eclipse ユーザが Version Manager のアーカイブにアクセスするには、以下のアプローチの中から 1 つを選択してください。
 - Version Manager のファイルサーバを設定し、そのサーバからアーカイブにアクセスする。

Version Manager のファイルサーバの設定と使用に関する情報は、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』の第 4 章を参照してください。

- Version Manager のプロジェクトデータベースディレクトリの OS 権限をセットして、Eclipse 統合のユーザすべてによってディレクトリが読み込みおよび書き込み可能になるようにする。すべてのユーザが、同一のプライマリグループを持ち、002 の umask で Eclipse を実行する必要があります。

作業設定には、作業ファイルの場所、デフォルトバージョン、ベースバージョンおよびブランチバージョンが含まれます。[88 ページの『UNIX 上でのプログラムファイルとプロジェクトデータの保護』](#)を参照してください。

これらの決定をインストール開始前に行うことによって、どの Version Manager コンポーネントをインストールしなくてはならないかが分かります。

Linux での Eclipse プラグインのインストールの詳細については、[184 ページの『Linux への Eclipse プラグインのインストール』](#)を参照してください。

Version Manager Web サーバインストールの実行プラン

Version Manager Web クライアントを使用すると、インターネットまたはイントラネット上で使用可能なブラウザベースのインターフェイスでバージョン管理タスクを実行できます。Version Manager Web クライアントは、管理機能にアクセスする必要がないリモートまたはモバイル環境のユーザに適しています。

Web クライアントは、Version Manager Web サーバインストールのコンポーネントです。サポートされている Web サーバを実行するマシンに、Web クライアントをインストールします。Version Manager Server をインストールして、プロジェクトデータベースを設定すると、ユーザが Web ブラウザを使用してサーバに接続し、クライアントインターフェイスをダウンロードできるようになります。

Version Manager Web サーバのインストールと設定については、[101 ページの『Version Manager Web サーバの概要』](#)を参照してください。

WebDAV Server インストールの実行プラン

WebDAV Server を使用すると、サポートされている WebDAV クライアントから Version Manager プロジェクトデータベースにアクセスできるようになります。アクセスしたプロジェクトデータベースに対してファイルのチェックアウトやチェックインを行うほか、Version Manager の一般的な作業も実行できます。たとえば、WebDAV と Microsoft Office を統合することによって、Office アプリケーションからリビジョンを開き、そのファイルを Version Manager から自動的にチェックアウトできます。その後、内容を変更してファイルを閉じると、Version Manager へ再びチェックインされます。

WebDAV Server は、Serena Meritage の必須コンポーネントです。Serena Meritage のインストールを計画している場合は、最新バージョンの WebDAV Server を先にインストールする必要があります。

WebDAV Server は、Version Manager Web サーバインストールのコンポーネントです。WebDAV Server のインストールと設定については、[第 18 章、195 ページの『WebDAV Server のインストール』](#)を参照してください。

Version Manager のオンライン登録

Version Manager をインストールする際、この製品のオンライン登録を実行できます。オンライン登録には次のような利点があります。

- Serena アンサーラインへの連絡時に、お客様が効率的にサポートを受けられるよう、テクニカルサポートアカウントをアクティブにします。
- Serena の製品開発に関する最新情報が記載されたニュースレターを毎月、電子メールで受け取ることができます。
- 技術パートナーサイトやチャットセッションなど、Serena Web サイトからアクセスできるオンラインリソースについての説明を参照できます。

オンライン登録を選択すると、デフォルトの HTML ブラウザに登録用 Web ページが自動的に表示されます。

第 2 章

Serena License Manager を使用した Version Manager のライセンス管理

Serena License Manager の使用	30
さまざまなライセンスモデル	30
ライセンスプロセス	32
License Manager のインストール	34
製品のライセンス管理	36
License Manager サーバの起動	41
ライセンス設定後の作業	42
指名ユーザライセンスのユーザ名の管理	43
ライセンスに関する問題の通知設定	44
ライセンスおよびサーバの管理	45
Version Manager でのライセンスの使用	48
評価版ライセンスのアップグレード	48
リダンダント License Manager サーバのセットアップ	49

Serena License Manager の使用

Serena License Manager を使用すると、さまざまな開発環境を対象としたライセンス管理を一元化することができます。有効なライセンス、および使用しているソフトウェアのバージョンを管理するためのライセンスツールが備わっています。

ライセンスの使用状況がわかれば、その組織に適したライセンスのタイプを判断し、コストを削減することができます。このライセンス管理ツールでは、ライセンスの使用状況を確認したり、各ユーザが使用しているバージョンとライセンスを手動で管理したりできます。

License Manager のインストール

Serena License Manager をインストールするサーバを指定します。このシステムから、ライセンスの取得および管理や、問題が発生した場合の通知の設定を行います。

選択した機能のライセンス手続きを行うには、インストール時に License Manager サーバへアクセスする必要があります。製品または製品の機能のライセンス手続きを正しく行うため、製品をインストールする際、License Manager サーバマシンの名前または IP アドレスを入力するよう求められます。

License Manager のユーティリティは、最小限の CPU 使用率で実行できます。

さまざまなライセンスモデル

Version Manager の機能を組織内でライセンス管理する場合、Version Manager 全体または Web サーバを対象として、指名ユーザライセンスまたは同時使用ライセンスを取得できます。

ライセンスモデルの種類の違いを理解するには、これらのライセンスモデルをレストランのテーブルにたとえてみるとよいでしょう。指名ユーザライセンスは、予約テーブルに相当します。同時使用ライセンスモデルは、「来店した順番に使用できる」空きテーブルです。

指名ユーザライセンス

指名ユーザライセンスは、License Manager を実行しているマシンに入力されたユーザ名に基づいてライセンスを予約します。これらのユーザは、Serena License Manager ツールの「Products (製品)」タブで管理します。このツールで名前が指定されているユーザだけが Version Manager にログインできます。管理者は、購入したライセンスと同じ数だけユーザを指定できます。

指名ユーザライセンスについては、以下の点に注意してください。

- ユーザ名は一意である必要はありません。License Manager ツールと同じユーザ名を複数回入力することによって、複数の指名ユーザライセンスを同じユーザ名に割り当てることができます。
- 1 人のユーザが同じ指名ユーザライセンスを使用して、同時に複数のシステムからログインすることはできません。同じユーザ名で、同時に複数のシステムからログインできるのは、そのユーザ名に複数のライセンスが割り当てられている場合のみです。1 人のユーザが複数のシステムからログインを試みる際に、余分な指名ユーザライセンスがない場合、同時使用ライセンスが使用されます（同時使用ライセンスが使用可能な場合）。
- ライセンスが各ユーザ名に割り当てられている場合、1 人のユーザが別々のユーザ名を使用して、同じシステムから複数回ログインできます。

同時使用ライセンス

同時使用ライセンス（フローティングライセンス）では、購入したライセンスをどのユーザでも使用できます。組織が複数のタイムゾーンにまたがっている場合、または Version Manager をあまり使用しないユーザがいる場合は、指名ユーザライセンスより、複数のユーザが同じライセンスを使用できる同時使用ライセンスが適しています。

2 つのライセンスモデルの併用

Version Manager を一部の時間のみ使用するユーザと、一日中排他的に使用するユーザの両方が環境に含まれる場合もあります。両方のタイプのライセンスモデルを購入すれば、それら両方の利用タイプに対応できます。

作業場所が異なるユーザのライセンス管理

ライセンス対象のユーザがそれぞれ異なる場所で作業しており、ネットワークが低速な場合は、ローカルのライセンスサーバマシンに License Manager をインストールし、場所ごとにユーザを設定します。この場合、各場所のサーバに License Manager をインストールする必要があります。ネットワークが高速な場合は、1 台の中央ネットワークマシンに License Manager をインストールし、すべての Version Manager ユーザがそのサーバにアクセスするようにします。

パッケージライセンスの使用

Serena Professional スイートを購入すると、Professional パッケージライセンスを取得できます。パッケージライセンスは、指名ユーザライセンスや同時使用ライセンスのほかのライセンスタイプとほぼ同じですが、パッケージライセンスの場合、各ライセンスで、Professional スイート内のすべての製品に同時にログインできます。たとえば、1 つの指名 Professional パッケージライセンスがあり、そのライセンスを Joe というユーザに割り当てた場合、Joe は、Professional スイートのすべて製品に一度にログインできます。

ライセンスプロセス

組織に適したライセンスを購入するには、Version Manager のユーザ、ユーザが使用するインターフェイス、ユーザが Version Manager を使用する頻度を把握する必要があります。このデータを集めると、組織に最も適したライセンスモデルを選択できるようになります。

ライセンスモデルを実装するにはさまざまな方法があるため、組織に最も適したライセンスを購入して導入するための計画を立てる必要があります。

ライセンスプロセスの概要



手順	アクション
ユーザに必要なライセンスの選択	組織で使用するライセンスの数とタイプを選択します。
ライセンスの購入	Serena または販売代理店に連絡し、ユーザに必要なライセンスを購入します。
License Manager のインストール	Version Manager ユーザのマシンからアクセスできるマシンに License Manager をインストールします。異なる複数の場所でライセンスを使用する場合は、ライセンスを必要とする各場所に License Manager ソフトウェアをインストールします。
ライセンスの取得	License Manager ツールを起動し、Web フルフィルメントシステムを使用して、購入した数量およびタイプのライセンスキーを取得します。
License Manager の起動	License Manager を起動し、ライセンス管理を有効にします。
Version Manager のインストール	Version Manager をインストールし、License Manager マシンのホスト名または IP アドレスを入力します。

License Manager のインストール

Serena 製品用のサーバに Serena License Manager をインストールします。License Manager セットアップにより、サーバ上で License Manager を実行するために必要な機能がインストールされます。

License Manager サーバに Version Manager をインストールする必要はありません。Version Manager をインストールする際、サーバの場所を指定するよう求められます。

License Manager のアップグレードについて

License Manager の既存のインストールをアップグレードするには、インストール手順に従い、次の点に注意します。

- インストールの前に、License Manager サービスを停止します。
- インストールの場所を選択するための画面が表示されたら、License Manager がインストールされているディレクトリを選択します。既存の License Manager コンポーネントがアンインストールされ、新しい License Manager コンポーネントに置き換えられます。



注：インストールしている Version Manager と互換性のある Serena License Manager のリリース情報については、Version Manager インストールの readme を参照してください。

- Windows では、[スタート] メニューのプログラムグループが、現在のバージョンの License Manager を反映するようにアップグレードされます。
- 現在のライセンス設定を保持するかどうかを選択するよう要求されたら、【Yes (はい)】をクリックします。
- License Manager を再起動します。

License Manager を Windows 上にインストールする場合

License Manager をインストールするには

- 1 Serena Professional DVD を DVD-ROM ドライブにセットし、すべてのアプリケーションを終了します。Serena Web サイトから Serena License Manager をダウンロードすることもできます。
- 2 次のプログラムを起動します。

<ドライブ>:\Serena License Manager\win32\setup.exe

- 3 画面の指示に従って、インストールを完了します。

License Manager を UNIX 上にインストールする場合

UNIX 上にインストールするには

- 1 Serena Professional DVD を DVD-ROM ドライブにセットし、すべてのアプリケーションを終了します。ワークステーションの設定によっては DVD-ROM ドライブが自動的にマウントされます。DVD-ROM ドライブがマウントされない場合は、先に進む前にマウントする必要があります。詳細は、OS に付属のマニュアルを参照してください。
- 2 次のように入力して、セットアッププログラムに移動します。
`cd <cd_root>/licensemanager/unix`
- 3 次のように入力して、セットアッププログラムを実行します。
`./lminst`
- 4 License Manager をインストールする場所を入力し、画面の指示に従ってインストールを完了します。

インストール後の作業

Serena License Manager をインストールした後、次の作業を行う必要があります。

- ユーザのライセンスを取得します。作業設定には、作業ファイルの場所、デフォルトバージョン、ベースバージョンおよびブランチバージョンが含まれます。37 ページの『[ライセンスの取得](#)』を参照してください。
- Version Manager の有効なユーザ ID と一致する指名ユーザライセンスのユーザ ID を追加します。作業設定には、作業ファイルの場所、デフォルトバージョン、ベースバージョンおよびブランチバージョンが含まれます。43 ページの『[指名ユーザライセンスのユーザ名の管理](#)』を参照してください。
- License Manager サーバを起動します（自動的に起動しなかった場合）。作業設定には、作業ファイルの場所、デフォルトバージョン、ベースバージョンおよびブランチバージョンが含まれます。41 ページの『[License Manager サーバの起動](#)』を参照してください。
- Version Manager をインストールします。
- ライセンスに関するエラーが通知されるように設定します。

製品のライセンス管理

License Manager を使用して、Serena からライセンスを取得するためのプロセスを自動化します。

License Manager ツールを開くには

- Windows では、[スタート] – [プログラム] – [Serena] – [License Manager] – [License Manager] の順に選択します。
- Unix では、License Manager をインストールした場所を探して `serenaln` を実行します。

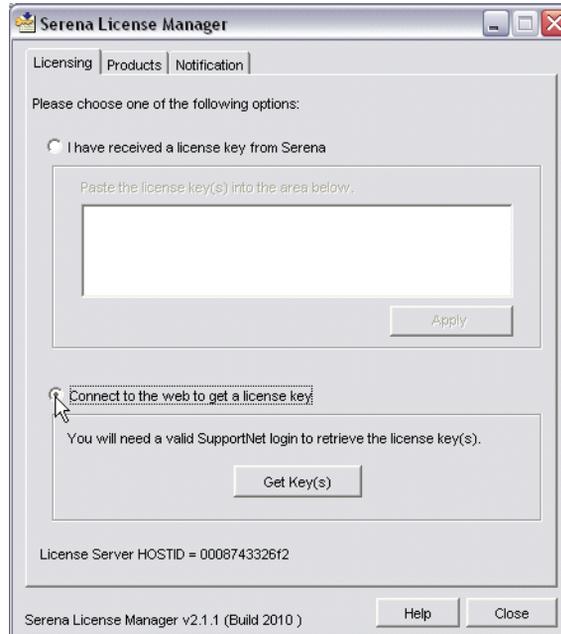
Serena からすでにライセンスキーを取得している場合は、(I have received a license key from Serena (Serena からライセンスキーを取得しています)) オプションを選択し、License Manager ツールの所定のフィールドにキー文字列を貼り付けます。

ライセンスの取得

ライセンスを取得するには、License Manager ツールを使用して Serena の Web サイトにアクセスします。

License Manager ツールを使用して Serena からライセンスを取得するには

- 1 [Licensing (ライセンス)] タブの <Connect to the Web to get a license key (Web に接続してライセンスキーを取得)> オプションを選択し、【Get Key(s) (キーの取得)】 ボタンをクリックします。



- 2 Serena サポート Web ページが表示されます。この Web ページからキーを取得するには、次のように操作します。
 - a アカウントのユーザ名とパスワードを入力してログインします。アカウントを持っていない場合、製品のシリアル番号を使用して登録を行う必要があります。有効なシリアル番号がない場合、Serena の販売担当者にお問い合わせください。
 - b ツールバーで [Licensing (ライセンス)] - [Generate Key (キーの生成)] の順に選択します。
 - c ライセンスを取得する製品を選択し、次のページに進みます。

- d 次のページで、ライセンスを取得する製品のシリアル番号が選択されていること、および License Manager をインストールしたサーバのホスト ID が正しく入力されていることを確認します。製品に複数のシリアル番号が示されている場合、正しいシリアル番号を選択してください。



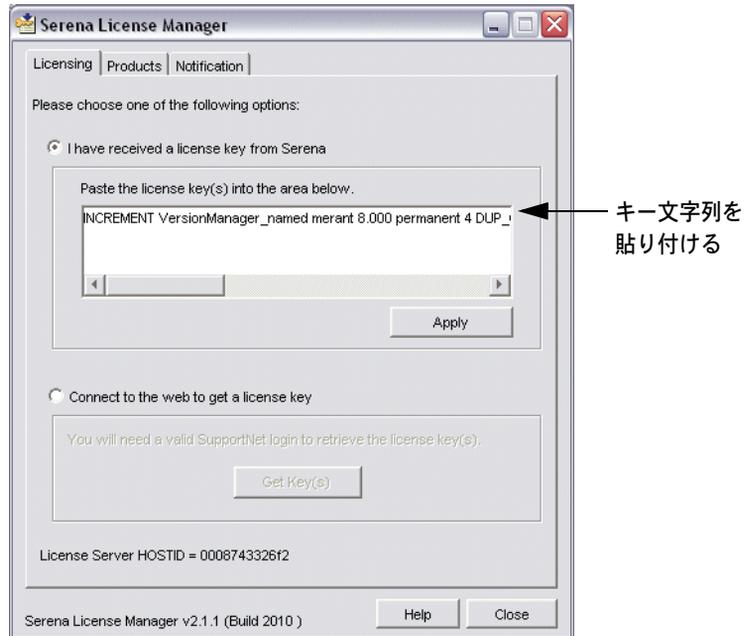
注：ライセンスサーバ以外のマシンから Web サイトへアクセスした場合は、所定のフィールドにライセンスサーバのホスト ID を入力する必要があります。ライセンスサーバのホスト ID を取得するには、Serena Licenses Manager ディレクトリで、コマンドプロンプトに `lmutil lmhostid` と入力します。

- e 次のページで、各製品または製品コンポーネントに対して必要なライセンス数を入力し、次に進みます。使用可能なライセンス（指名ユーザライセンスおよび同時使用ライセンス）の総数が表示されます。
- f 次のページで、選択したライセンスを確認し、ライセンスプロセスに慣れるために使用できる 30 日間のグレースキーを使用するかどうかを選択します。この評価ライセンスキーにより、実際に必要となるライセンス数を確認することができます（1 回に限る）。グレースキーを生成するかどうかを選択します。ライセンスの選択が正しい場合、次に進みます。
- g Serena マスタ使用権許諾契約の内容を確認し、同意する場合は 〈I Agree〉を選択します。
- h 次のページで、影の付いた領域にあるライセンス文字列全体をコピーします。余分なスペースをコピーしないようにしてください。余分なスペースが含まれていると無効なキーと見なされます。



注：キーは通知メールでも受け取ります。

- License Manager ツールに戻り、〈I have received a license key from Serena (Serena からライセンスキーを取得しています)〉オプションを選択し、フィールドにキーを貼り付けます。



- 【Apply (適用)】をクリックします。



重要： 指名ユーザライセンスを使用する場合は、Version Manager へログインする前に、1 つ以上の有効なユーザ ID を License Manager ツールに追加するか、ユーザ名が自動的に追加されるように License Manager を設定する必要があります。作業設定には、作業ファイルの場所、デフォルトバージョン、ベースバージョンおよびランチャバージョンが含まれます。
[43 ページの『指名ユーザライセンスのユーザ名の管理』](#)を参照してください。

License Manager サーバが自動的に起動します。License Manager サーバが実行中の場合は、再起動するよう求められます。License Manager サーバが自動的に起動しない場合は、手動で起動できます。詳細は、[41 ページの『License Manager サーバの起動』](#)を参照してください。

サーバから Web サイトにアクセスできない場合に、Serena からライセンスを取得するには、次の操作を行います。

- 1 Web にアクセスできる別のコンピュータを使用して、サポート Web サイトにアクセスします。製品のシリアル番号とライセンスサーバマシンのホスト ID を Web フルフィルメントシステムに入力できるように確認しておいてください。

ライセンスサーバマシンのホスト ID は、[License Manager] ダイアログボックスの [Licensing (ライセンス)] タブの下部に表示されます。

- 2 キー文字列が表示されている Web ページにアクセスしたら、そのキー文字列をテキストエディタにコピーします。ファイルをフロッピーディスクに保存するか、ライセンスサーバマシンからアクセスできるネットワーク上の場所にコピーします。
- 3 サーバマシンにフロッピーディスクを挿入するか、ファイルを保存したネットワーク上の場所に移動します。ファイルを開いてキー文字列をコピーし、〈I have received a license key from Serena (Serena からライセンスキーを取得しています)〉オプションを選択し、License Manager ツールの所定のフィールドにキー文字列を貼り付けます。

ライセンスの追加

購入したライセンスのうち、まだ使用していないライセンスがある場合は、License Manager ツールを使用して、それらのライセンスキーを追加することができます。

購入したライセンス数では足りない場合は、Serena または販売代理店に連絡して追加のライセンスを購入し、シリアル番号に追加してください。

最初に購入したライセンスのライセンスキーを追加するには、次の操作を行います。

- 1 上記の 37 ページの『License Manager ツールを使用して Serena からライセンスを取得するには』の手順に従います。
- 2 【Apply (適用)】をクリックして、ライセンスサーバを起動します。

追加のライセンスを購入し、既存のライセンスに追加するには、次の操作を行います。

Serena または販売代理店に連絡して、追加のライセンスを購入します。追加ライセンス用のシリアル番号を更新したら、上記の手順にしたがって、追加のライセンスを取得します。

License Manager サーバの起動

ライセンスの取得後にライセンスサーバが自動的に起動しない場合は、ほかの Serena 製品をインストールする前に、ライセンスサーバを手動で起動する必要があります。

Windows の場合 **License Manager サーバを起動および停止するには、次の操作を行います。**

[スタート] – [プログラム] – [Serena] – [License Manager] – [Start License Manager Service (License Manager サービスの起動)] の順に選択します。

License Manager サーバを停止するには、次の操作を行います。

[スタート] – [プログラム] – [Serena] – [License Manager] – [Stop License Manager Service (License Manager サービスの停止)] の順に選択します。

UNIX の場合 **UNIX 上で License Manager サーバを起動するには、次の操作を行います。**

コマンドプロンプトで、次のコマンドを実行します。

```
/usr/serena/license_manager/<os>/start_license_server
```

License Manager サーバを停止するには、次の操作を行います。

コマンドプロンプトで、次のコマンドを実行します。

```
/usr/serena/license_manager/<os>/stop_license_server
```

License Manager をサービスとして実行

License Manager をサービスとして実行した場合、サーバを再起動すると、License Manager も自動的に再起動されます。

License Manager をサービスとして実行するには、次の操作を行います。

- Windows の場合
- 1 Serena License Manager をインストールしたディレクトリに移動し、lmttools.exe をダブルクリックして開きます。
 - 2 [Config Services (サービスの設定)] タブを選択し、〈Use Services (サービスを使用する)〉チェックボックスを選択します。このサービスを自動的に起動する場合は、〈Start Server at Power Up (電源投入時にサーバを起動する)〉チェックボックスを選択します。

UNIX の場合 UNIX プラットフォームで License Manager をサービスとして実行する方法の詳細については、『FLEXIm End Users Guide』の『6.2 Starting the License Manager Daemon on UNIX Platforms』を参照してください。このファイルは次の場所にあります。

<インストールディレクトリ>/doc/enduser.pdf

License Manager サーバをサービスとして自動的に起動する方法については、セクション 6.2.2 を参照してください。



注：License Manager サービスを UNIX 上で設定する場合、start_license_manager スタートアップスクリプトのパスは完全修飾パスである必要があります。

ライセンス設定後の作業

Version Manager
をインストールして
いない場合

ライセンスを取得した後、Version Manager またはその他の Serena 製品をインストールできます。指名ユーザライセンスモデルを使用する場合、デフォルトでは、Version Manager にログインしたユーザにライセンスが自動的に割り当てられます。ユーザ ID を License Manager へ自動的に追加しない場合は、[43 ページの『指名ユーザライセンスのユーザ名の管理』](#)の説明に従って、ユーザ ID を手動で設定してください。

ワークステーションインストーラを使用して Version Manager をユーザに配布する場合、ワークステーションインストーラのセットアップ時に、License Manager サーバ情報をあらかじめ設定しておくことができます。License Manager サーバ情報を設定しておけば、インストールまたはログインするとき、ユーザは License Manager マシンの IP アドレスを指定する必要がありません。詳細は、[45 ページの『ワークステーションインストーラのライセンスの設定』](#)を参照してください。

それ以外の場合は、ユーザが Version Manager をインストールできるよう、License Manager サーバマシンの名前または IP アドレスを通知する必要があります。

Version Manager
をインストールして
いる場合

Version Manager またはその他の Serena 製品をすでにインストールしている場合は、その製品を最初に起動する時点で License Manager サーバの場所を入力することができます。

指名ユーザライセンスのユーザ名の管理

指名ユーザライセンスを購入した場合、ユーザが Version Manager プロジェクトにログインできるようにするには、Version Manager のユーザ ID、および使用を許可する機能を License Manager に指定しておく必要があります。ユーザのアクセスを自動的に管理することも、License Manager でユーザ ID を入力して管理することもできます。指名ユーザライセンスを使用する別のシナリオについては、[31 ページの『指名ユーザライセンス』](#)を参照してください。

ユーザに対する機能の割り当て、再割り当て、削除を行うには、次の操作を行います。

- 1 [Products (製品)] タブの <Product Licenses (製品ライセンス)> リストで機能を選択し、【Manage User IDs (ユーザ ID の管理)】 ボタンをクリックします。
- 2 [User Management (ユーザ管理)] ダイアログボックスが開きます。以下のいずれかを実行します。
 - 【Add User (ユーザの追加)】 をクリックし、ユーザ ID を入力して、1 人または複数のユーザを追加します。ID をスペースで区切って、必要に応じて何人でもユーザを追加できます。ユーザを追加する際、以下の点に注意してください。
 - ユーザ名では大文字と小文字は区別されません。
 - 同じユーザ名に複数のライセンスを割り当てることができます。これにより、このユーザは、同じユーザ名を使用して複数のシステムからログインできます。
 - 【Remove User (ユーザの削除)】 をクリックし、選択したユーザをリストから削除します。

ユーザの要求に応じて指名ユーザライセンスを自動的に割り当てるには、次の操作を行います。

〔Products（製品）〕タブの〈Product Licenses（製品ライセンス）〉リストで機能を選択し、〈Auto-add user IDs for named licenses（指名ユーザライセンスのユーザ ID を自動的に追加）〉を選択します。これにより、ユーザが Version Manager にログインすると自動的にユーザ ID が指名ユーザライセンスのリストに追加されます。このオプションはデフォルトで設定されています。

ユーザが製品にログインすると、ライセンスサーバは、そのユーザが使用しようとしている機能のライセンスが存在するかどうかを確認します。ライセンスが存在する場合は、そのユーザのユーザ ID をユーザリストに書き込み、要求された機能を使用するための指名ユーザライセンスをユーザに割り当てます。

以下の場合、複数のライセンスが同じユーザ名に自動的に割り当てられます。

- 指名ユーザライセンスが割り当てられているユーザ名を使用して、ユーザがログインしようとした
- 既存のライセンスが別のシステムで現在使用されている
- 余分な指名ユーザライセンスがある

ライセンスに関する問題の通知設定

〔Notification（通知）〕タブでは、License Manager から通知が送信されるように設定できます。ライセンスに関する問題が電子メールで通知されるようにするには、SMTP サーバのアドレスと電子メールアドレスを指定する必要があります。

次のような状況が発生したとき、通知を受け取ることができます。

- ライセンスが足りなくなったとき
- サーバに存在しないライセンスをユーザが要求したとき
- 指名ユーザリストに登録されていないため、ユーザのライセンス要求が拒否されたとき

ライセンスに関する問題が通知されるように設定するには、次の操作を行います。

- 1 電子メールサーバとアドレスを指定します。
 - License Manager の SMTP サーバ IP/ ホスト名を入力します。
 - 〈From address〉フィールドに、送信元アドレスとして表示される電子メールアドレスを入力します。

- 〈To address〉フィールドに、通知の送信先となる電子メールアドレスを入力します。
- 自分の電子メールアドレスを入力します。
- 〈Send email notification of licensing issues (ライセンスに関する問題を電子メールで通知)〉を選択して、通知を有効にします。通知を中止する場合は、このオプションの選択を解除します。

2 【Apply Changes (変更の適用)】をクリックします。

ライセンスおよびサーバの管理

License Manager ツールをインストールしてユーザのライセンスキーを取得した後、Serena License Manager とライセンスユーティリティを併用して、ライセンスサーバとライセンスを管理することができます。

ワークステーションインストールのライセンスの設定

ワークステーションインストールイメージのライセンスを設定するには、ISLV.INI ファイルを更新し、License Manager サーバのホスト名と IP アドレスをインストールイメージに追加します。詳細は、[64 ページの『ワークステーションのセットアップ』](#)を参照してください。

UNIX ワークステーションのライセンスの設定

UNIX 上でエンドユーザワークステーションに対するライセンスをセットアップするため、vmreg というシェルスクリプトによって、\$PVCS_BINDIR ディレクトリにある license.ini ファイルまたはエンドユーザのホームディレクトリにある .islvrc ファイル (あるいはその両方) が更新されます。vmreg スクリプトは、Version Manager のインストールスクリプトおよび起動スクリプトによって自動的に実行されますが、管理者やユーザが手動で実行することもできます。たとえば、管理者は現在のコンフィグレーションファイル情報を \$PVCS_BINDIR/license.ini ファイルに保存できます。その後各ユーザは、vmreg スクリプトを実行することにより、その情報を自分の .islvrc ファイルに移動できます。コマンドラインを使っているが PCLI またはデスクトップクライアントを使っていないエンドユーザは、コマンドラインを使う前に vmreg スクリプトを 1 回実行する必要があります。

次の方法でスクリプトを呼び出すことができます。

- `vmreg [server]` コマンドを実行すると、`$PVCS_BINDIR/license.ini` ファイル内のライセンス情報が `.islvrnc` ファイルにコピーされます。`server` 引数を指定した場合、`$PVCS_BINDIR/license.ini` ファイル内のサーバ名が使われるのではなく、引数のサーバ名が使われます。このコマンドは、ユーザがコマンドラインから実行します。
- `vmreg -t` は、`.islvrnc` にサーバ定義が存在しない場合のみ、`$PVCS_BINDIR/license.ini` のライセンス情報を `.islvrnc` にコピーします。PCLI およびデスクトップクライアントのランチャは、起動時にこのコマンドを自動的に実行します。
- `vmreg -m <server>` は、サーバの名前に基づいて `$PVCS_BINDIR/license.ini` を更新し、そのデータを `.islvrnc` にコピーします。Version Manager インストールスクリプトおよび管理者がこのコマンドを実行します。
- `vmreg -h` は、使用状況に関する情報を表示します。
- `vmreg -v` は、バージョン情報を表示します。

使用可能なライセンスの確認

指名ユーザ
ライセンス

指名ユーザライセンスを使用している場合は、[Products (製品)] タブを使用して、使用可能なライセンスの総数と、使用可能な残りのライセンス数を確認できます。

同時使用ライセンス
(Windows)

同時使用ライセンスを使用している場合は、製品または機能を選択し、[Products (製品)] タブの【Concurrent Usage (同時使用)】ボタンをクリックすると、ライセンスの使用状況が表示されます。



注： Serena PVCS Professional 用の同時使用ライセンスを所有している場合、Professional のライセンスを選択しても使用状況の情報は表示されません。これは、使用中のライセンスが TeamTrack、Tracker、Builder、および Version Manager のライセンスとしてそれぞれの総数に算入されるためです。TeamTrack、Tracker、Builder、または Version Manager のライセンスを所有している場合は、各アプリケーションの使用ライセンス数を合計することで Professional の使用総数を確認できます。

同時使用ライセンス
(UNIX)

同時使用ライセンスを使用している場合、コマンドラインからログファイルを確認する必要があります。アクティビティログの取得方法については、『FLEXlm End Users Guide』を参照してください。このファイルは次の場所にあります。

< インストールディレクトリ >/doc/enduser.pdf

License Manager サーバの移動

License Manager を別のサーバに移動する場合、新しいライセンスキーを取得する必要があります。License Manager サーバを移動する場合は、Serena の販売担当者にお問い合わせください。

License Manager サーバの切り替え

ユーザが Version Manager にログインした後に有効な License Manager サーバを切り替える必要がある場合は、ISLV.INI ファイルを手動で編集するか、ChangeLicenseServer ユーティリティを使用して編集します。



注: ISLV.INI ファイルは Windows OS ディレクトリにあります。(\\WINNT や \\Windows など)。

ISLV.INI ファイルを手動で編集するには、次の操作を行います。

- 1 テキストエディタで ISLV.INI ファイルを開き、[Licensing] で始まるセクションを探します。以下に例を示します。

```
[Licensing]
SERVER=@< サーバ名 >
```

- 2 SERVER 定義を編集し、正しいサーバを指定します。
- 3 Version Manager を再起動します (Version Manager Web サーバを使用している場合は Web サーバも再起動します)。

ChangeLicenseServer ユーティリティを使用して ISLV.INI ファイルを編集するには、次の操作を行います。

- 1 [Serena] – [ChangeMan Version Manager] – [Change License Server (ライセンスサーバの変更)] を選択します。
[ChangeLicenseServer] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 <License Server (ライセンスサーバ)> フィールドに License Manager サーバの名前を入力します。
- 3 【OK】をクリックします。
- 4 Version Manager を再起動します (Version Manager Web サーバを使用している場合は Web サーバも再起動します)。

Version Manager でのライセンスの使用

- | | |
|---------------------|--|
| ユーザのシステムが異常終了した場合 | ユーザのマシンが異常終了した場合、ライセンスは 30 分間チェックアウトされたままとなります。その後、ユーザが 30 分以内に Version Manager へ再度ログインしない場合は、ライセンスがサーバに返されます。 |
| ユーザが複数のマシンにログインした場合 | 組織内のユーザが複数のマシンにログインし、同時使用ライセンスを使用している場合、ログインした各マシンでライセンスが必要となります。 |
| | 指名ユーザライセンスが設定された複数のマシンにユーザがログインした場合、ログインした各マシンで指名ユーザライセンスが必要となります。複数のマシンから同じユーザが一度にログインする必要がある場合、または同じユーザ名を持つ複数のユーザが複数のマシンから一度にログインする必要がある場合、同じユーザ名に対して、指定ユーザライセンスを必要だけ割り当てることができます。 |

評価版ライセンスのアップグレード

Version Manager の評価版ライセンスを取得した場合は、30 日間そのままお使いいただけます。30 日が経過した時点で、評価版ライセンスを正式ライセンスにアップグレードする必要があります。



注：この手順は、License Manager サーバなしで Version Manager を評価した場合にのみ完了する必要があります。すでに License Manager を使用している場合（たとえば、一時ライセンスキーが含まれる拡張評価版を使用していた場合）、必要な作業は正式なライセンスキーを追加することのみです。

正式ライセンスへアップグレードするには

- 1 License Manager を設定し、正式なライセンスキーを取得します。作業設定には、作業ファイルの場所、デフォルトバージョン、ベースバージョンおよびブランチバージョンが含まれます。36 ページの『製品のライセンス管理』を参照してください。
- 2 Windows システムで、ライセンスの対象となる各マシンに対して以下のいずれかを行います。
 - [Serena] – [ChangeMan Version Manager] – [Change License Server (ライセンスサーバの変更)] を選択します。画面の指示に従って License Manager サーバの名前を入力し、【OK】をクリックします。

- または、ISLV.INI ファイルをテキストエディタで開き、次を入力します。

```
[Licensing]
SERVER=@<License Manager サーバ名 >
```

<License Manager サーバ名 > は、設定したライセンスサーバの名前です。

3 UNIX システムでは、以下を行います。

- a 次のディレクトリに移動します。
<Version Manager インストールディレクトリ >/vm/<OS>/bin
- b このディレクトリから次のコマンドを実行します。

```
vmreg <License Manager サーバ名 >
```

次にその例を示します。

```
./vmreg lmserver
```

- c すべてのユーザのホームディレクトリで、.islvrc ファイルを開き、次を入力します。

```
[Licensing]
SERVER=@<License Manager サーバ名 >
```

<License Manager サーバ名 > は、設定したライセンスサーバの名前です。

リダンダント License Manager サーバのセットアップ

License Manager サーバに障害が発生した場合にも常にライセンスが使用できるように、リダンダント License Manager サーバをセットアップできます。このシナリオでは、いずれかのサーバで障害が発生したり、ネットワーク接続が失われたりした場合でも、ユーザが問題なくログインできるように、残りのサーバでユーザにライセンスを提供することができます。

リダンダントサーバをセットアップするには、以下のことを行います。

- Serena サポート担当部署にリダンダントサーバのライセンスキーを要求します。リダンダントサーバのライセンスキーは、リダンダントサーバ間で共有できる特殊なライセンスを有効にします。このキーを使用して、3 つのサーバ間で共通のライセンス情報が共有され、いずれかのサーバがダウンしたときでも、残りのサーバで代行できる状態になります。

リダンダントサーバのライセンスキーが提供される際、リダンダントサーバのセットアップ方法およびライセンスキーのインストール方法と使用方法についての詳しいインストラクションも配布されます。

- 3 つの独立したシステムに License Manager サーバをインストールします。これらのシステムは、信頼性の高い高品質のネットワークで常時互いに接続されている必要があります。サーバの 1 つが使用できなくなった場合、残りの 2 つがライセンスを提供します。3 つのサーバのうち 2 つが使用できなくなった場合には、ライセンスは提供されなくなります。
- インストールされている各製品を、リダンダントライセンスサーバを使用するように設定します。そのための手順は製品によって異なります。ライセンスキーが提供される際、リダンダントサーバを使用するように製品を設定する方法についての詳しいインストラクションも配布されます。このインストラクションには、新しい指名ユーザを自動追加するための正しい設定に関する情報も含まれています。

パート 2

Version Manager のインストール

『パート 2 : Version Manager のインストール』は、以下の章で構成されています。

Windows 版 Version Manager の インストール	53
UNIX 版 Version Manager の インストール	67
インストール後の作業	81

チェックリスト

Windows または UNIX、あるいはその両方に Serena PVCS Version Manager をインストールするには、次の作業を行う必要があります。

<input type="checkbox"/>	Windows : Version Manager をインストールする (55 ページ)
<input type="checkbox"/>	Windows ネットワークインストール : ワークステーションインストールの準備を行う (61 ページ)
<input type="checkbox"/>	Windows ネットワークインストール : ワークステーションをセットアップする (64 ページ)
<input type="checkbox"/>	Windows ネットワークインストール : ワークステーションのセットアッププログラムを実行する (65 ページ)
<input type="checkbox"/>	UNIX : :setuid を使用してセキュリティを強化する (68 ページ)
<input type="checkbox"/>	UNIX : ユーザアカウントを作成する (71 ページ)
<input type="checkbox"/>	UNIX : Version Manager をインストールする (73 ページ)
<input type="checkbox"/>	Solaris、AIX、Linux : setuid モードのガイドラインと説明を確認する (76 ページ)
<input type="checkbox"/>	クロスプラットフォームインストール : setuid モードを使用する (77 ページ)
<input type="checkbox"/>	ログインソースを設定する (82 ページ)
<input type="checkbox"/>	プログラムファイルとデータを保護する (86 ページ)
<input type="checkbox"/>	UNIX : 環境変数を設定する (90 ページ)
<input type="checkbox"/>	UNIX : HTML ブラウザと Acrobat Reader を設定する (93 ページ)

第 3 章

Windows 版 Version Manager のインストール

インストールの前に	54
デフォルトのインストールディレクトリ構造	55
DVD-ROM からの Version Manager のインストール	55
ワークステーションインストールの準備	61
ワークステーションのセットアップ	64
ワークステーションでのセットアッププログラムの実行	65

インストールの前に

以下のいずれかをインストールしている場合

- Version Manager File Server
- Web サーバ
- WebDAV Server

以下の作業が必要です。

- Version Manager Application Server を NT サービスとしてインストールしている場合、NT サービスを削除します。
- Version Manager Application Server を実行していれば、停止します。

NT サービスの削除

NT サービスを削除するには

- 1 [スタート] – [プログラム] – [Serena] – [ChangeMan Version Manager] – [Version Manager Application Server] の順に選択して、Version Manager Application Server Admin を起動します。Version Manager Application Server Admin が表示されます。
- 2 【Remove NT Service (NT サービスの削除)】 ボタンをクリックします。
- 3 コンピュータを再起動します。

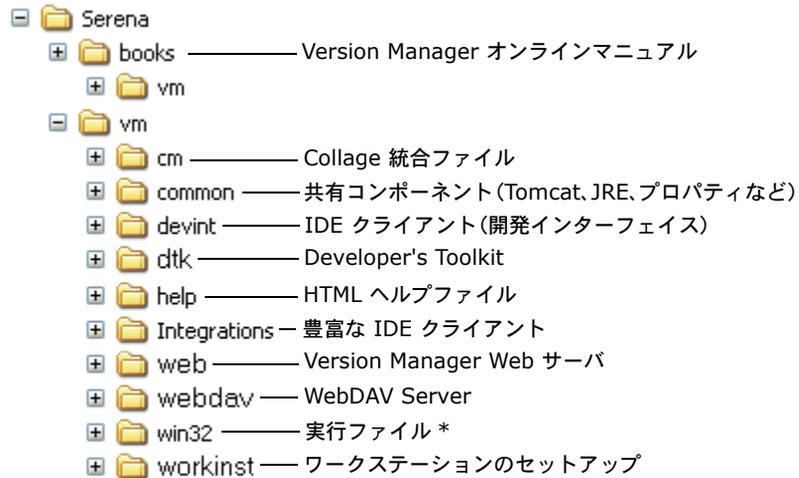
Windows での Version Manager Application Server の停止

Application Server を Windows で停止するには

- 1 [スタート] – [プログラム] – [Serena] – [ChangeMan Version Manager] – [Version Manager Application Server] の順に選択して、Version Manager Application Server Admin を起動します。Version Manager Application Server Admin が表示されます。
- 2 【Stop (停止)】 ボタンをクリックします。

デフォルトのインストールディレクトリ構造

以下の図は、Version Manager を Windows プラットフォーム上にインストールしたとき、Program Files ディレクトリの下に作成されるデフォルトのインストールディレクトリを示しています。



* 実行ファイルには、Version Manager デスクトップクライアント、コマンドラインインターフェイス、プロジェクトコマンドラインインターフェイス、および IDE クライアント (インストールした場合のみ) のアプリケーションファイルが含まれます。

DVD-ROM からの Version Manager のインストール

ここでは、Serena PVCS Professional スイート DVD から、ローカルドライブ、ネットワーク上の場所、または Web サーバシステムに Version Manager をインストールする方法について説明します。ネットワークインストールを実行した後は、ユーザがワークステーションインストールを実行して、ネットワーク上にインストールされた共有バージョンの Version Manager コンポーネントを実行できます。ワークステーションインストールの実行方法については、[61 ページの『ワークステーションインストールの準備』](#)を参照してください。

ネットワーク上にインストールした場合、そのワークステーションから各ユーザのマシンへ Version Manager をインストールして実行できるよう、自動的にセットアップされます。

IDE クライアントのインストール方法については、[第 16 章、179 ページの『IDE クライアントのインストール』](#)を参照してください。

DVD-ROM からインストールするには

- 1 Serena PVCS Professional スイート DVD を DVD-ROM ドライブにセットします。

DVD-ROM ドライブがネットワーク上にある場合は、DVD をマウントし、DVD-ROM ドライブへのマッピングを作成してください。

インストール時の DVD-ROM のマッピングは、ユニバーサル命名規則 (UNC) を使用しないで作成してください。

- 2 自動実行機能を使用するか、または [スタート] メニューの [ファイル名を指定して実行] を選択します。
- 3 自動実行機能を使用しない場合は、DVD-ROM_drive:\vm\win32\setup.exe に移動して、【OK】をクリックします。
- 4 起動メッセージのダイアログボックスで、【Next (次へ)】をクリックします。
- 5 [Choose License Server (License Server の選択)] ウィンドウで、次のいずれかを行います。
 - ライセンスサーバの場所がわかっている場合は、(Specify License Server (ライセンスサーバの指定)) オプションを選択して (Host Name (ホスト名)) フィールドにライセンスサーバの名前または IP アドレスを入力し、【Next (次へ)】をクリックします。
 - 評価版をインストールする場合は、(Install a 30 day evaluation license (30 日間の評価版インストール)) オプションを選択して、【Next (次へ)】をクリックします。

IDE クライアントをインストールする場合は、[第 16 章、182 ページの『Windows への IDE クライアントのインストール』](#)に記載されている重要なインストール情報を参照してください。

- 6 [Setup Type (セットアップタイプ)] ウィンドウで、インストールのタイプを選択します。
- Local (ローカル) : Serena PVCS Version Manager の各機能をローカルマシンにインストールします。
 - Network (ネットワーク) : Serena PVCS Version Manager の各機能をインストールし、ワークステーションインストールを可能にします。
 - Web Server (Web サーバ) : Serena PVCS Version Manager Web Server Application および Serena PVCS Version Manager WebDAV を含む、Serena PVCS Version Manager の機能をこの Web サーバにインストールします。

- 7 デフォルトディレクトリ (*drive:\Program Files\Serena*, *drive* はデフォルトの Windows ドライブ) をそのまま使用するか、別の場所を入力して【Next (次へ)】をクリックします。

Version Manager をネットワーク上にインストールして、ほかのユーザがワークステーションインストールを実行できるようにする場合は、各ユーザと同じ定義のドライブマッピングを使用してください。たとえば、ユーザがこのディレクトリを P:\serena にマッピングしている場合は、同様に P:\serena にマッピングする必要があります。

この場所にインストールされるファイルと作成されるディレクトリについては、55 ページの『デフォルトのインストールディレクトリ構造』を参照してください。

- 8 画面の指示に従い、インストールする Version Manager のコンポーネントを選択して、【Next (次へ)】をクリックします。次のコンポーネントを選択できます。
- Desktop Client (デスクトップクライアント) : Serena PVCS Version Manager グラフィカルユーザインターフェイス。
 - SCC/COM IDE Client (SCC/COM IDE クライアント) : SCC/COM 準拠の統合開発環境 (IDE) 内でのバージョン管理のための、Serena PVCS Version Manager Development Interface。IDE クライアントのインストール方法については、177 ページの『その他の Version Manager インターフェイスのインストール』を参照してください。

- Plugin for Eclipse 2and 3 (Eclipse 2 および 3 用のプラグイン) : IBM WebSphere Studio Application Developer (WSAD) などの Eclipse ベースの IDE のバージョン 2 および 3 用の Serena PVCS Version Manager Development Interface。このプラグインは、TeamTrack SourceBridge および Tracker TrackerLink 経由で Serena Issue 管理と統合します。Eclipse プラグインのインストールの詳細については、[177 ページの『その他の Version Manager インターフェイスのインストール』](#)を参照してください。
- Plugin for Eclipse 3 (rich integration) (Eclipse 3 用のプラグイン (リッチな統合)) : IBM Rational Application Developer (RAD) などの Eclipse ベースの IDE のバージョン 3 用の Serena PVCS Version Manager のリッチな統合。このプラグインは Serena TeamTrack Issue 管理と直接統合でき、Eclipse 2 および 3 用のプラグインより高度なソース管理統合を実現します。Eclipse プラグインのインストールの詳細については、[177 ページの『その他の Version Manager インターフェイスのインストール』](#)を参照してください。
- Plugin for VS .Net (rich integration) (VS .Net 用プラグイン (リッチな統合)) : Microsoft Visual Studio .NET 2003 用の Serena PVCS Version Manager Development のリッチな統合。このプラグインは Serena TeamTrack Issue 管理と直接統合でき、SCC を使用する場合より、高度なソース管理統合を実現します。Visual Studio プラグインのインストールの詳細については、[177 ページの『その他の Version Manager インターフェイスのインストール』](#)を参照してください。
- Web Server Application : (Web サーバインストールを選択した場合のみ) Serena PVCS Version Manager Web インターフェイス。Version Manager Web サーバのインストール方法については、[第 7 章、109 ページの『Windows への Web サーバのインストール』](#)を参照してください。
- Developer's Toolkit : Serena PVCS Version Manager の機能を使用したアプリケーションを開発するためのパブリック API。DTK のインストール方法については、[第 17 章、191 ページの『Version Manager Developer's Toolkit のインストール』](#)を参照してください。
- Version Manager WebDAV : (Web サーバインストールを選択した場合のみ) Serena PVCS Version Manager WebDAV サーバ。WebDAV Server のインストールの詳細については、[第 18 章、195 ページの『WebDAV Server のインストール』](#)を参照してください。
- Documentation (ドキュメント) : Serena PVCS Version Manager のマニュアル一式。

- Workstation Install (ワークステーションインストール) : (ネットワークインストール専用) ネットワーク上の Serena PVCS Version Manager に即座にアクセスし、インストールすることができます。ワークステーションインストールの詳細については、[61 ページの『ワークステーションインストールの準備』](#)を参照してください。

(Workstation Install (ワークステーションインストール)) のインストールを選択すると、インストール時に選択したコンポーネントとプログラムグループを記録する `setup.iss` という名前のファイルが作成されます。これらの選択は、以降に、ユーザが何も選択する必要のないサイレントワークステーションインストールで使用することができます。ワークステーションインストールの詳細については、[61 ページの『ワークステーションインストールの準備』](#)を参照してください。
- Sample Project Database (サンプルプロジェクトデータベース) : Serena PVCS Version Manager プロジェクトデータベースのサンプル。すべてのインターフェイスに対応しています。
- Command-Line Interface (コマンドラインインターフェイス) : Serena PVCS Version Manager の各機能にコマンドラインからアクセスできます。
- File Server (ファイルサーバ) : Serena PVCS Version Manager Web File Server を含みます。

- 9 IDE クライアントをインストールする場合は、IDE クライアントプロジェクト用のデフォルトプロジェクトデータベースを選択するよう求められます。デフォルトでは、IDE Project Database というデフォルトプロジェクトデータベースが `<VM_Install_Dir>\vm\common\vmdevint` ディレクトリに作成されます。【Next (次へ)】をクリックしてデフォルトのデータベースをそのまま使用するか、【Browse (...)】をクリックして別のデータベースを選択します。ユニバーサル命名規則 (UNC) を使用して、デフォルトプロジェクトデータベースの場所を指定することはできません。IDE クライアントのインストール方法については、[第 16 章、179 ページの『IDE クライアントのインストール』](#)を参照してください。



重要 : IDE クライアントをインストールして、Microsoft FrontPage の Web プロジェクトで使用する場合は、Web サーバ上のローカルドライブにデフォルトプロジェクトデータベースを配置する必要があります。詳細は、[186 ページの『Web サーバへのインストール』](#)を参照してください。

- 10** 〈Plugin for Eclipse 2and 3 (Eclipse 2 および 3 用のプラグイン)〉または〈Plugin for Eclipse 3 (rich integration) (Eclipse 3 用のプラグイン (リッチな統合))〉を選択した場合、ダイアログボックスが表示されます。次のいずれかを行って、Eclipse ベースの IDE の場所を指定して、【Next (次へ)】ボタンをクリックします。
- リストにインストールパスを追加するには、【Add (追加)】ボタンをクリックし、表示されるダイアログボックスを使用して IDE のインストール場所に移動します。
 - リストからインストールパスを削除するには、該当するインストールパスを選択して、【Remove (削除)】ボタンをクリックします。



注：インストールされている WebSphere Studio 5 および Rational Application Developer 6 は、このリストに自動的に表示されます。WebSphere Studio 4 および Eclipse をリストに追加する場合は、【Add (追加)】ボタンを使用します。

- 11** プログラムフォルダを選択する画面で、デフォルト値 (Serena ChangeMan Version Manager) をそのまま使用するか、別のフォルダを入力して、【Next (次へ)】をクリックします。
- 12** 現在の設定が正しい場合は、【Next (次へ)】をクリックしてファイルのコピーを開始します。または、【Back (戻る)】をクリックして〔Select Program Folders (プログラムフォルダの選択)〕ダイアログボックスに戻ります。
- 13** コンポーネントのインストールが完了すると、Version Manager をオンライン登録する画面が表示されます。オンライン登録を行うと Serena アンサーラインに登録され、必要なとき、すぐにサポートを受けられるようになります。また、Serena の製品開発に関する最新情報を電子メールで毎月知らせるニュースレターを購読したり、Serena Web サイトからアクセスできるオンラインリソースを参照することもできます。

Version Manager のユーザ登録を行うには、〈Register Now (ユーザ登録)〉オプションを選択して、【Next (次へ)】をクリックします。登録用の Web ページが、システムのデフォルトの HTML ブラウザに表示されます。このページに、ユーザの名前と登録番号が自動的に表示されます。ページの指示に従って登録を完了します。

14 画面の指示に従って、インストールを完了します。

ネットワークインストールを実行して、ユーザのワークステーションまたは Web サーバを準備する必要がない場合は、[スタート] - [プログラム] - [Serena] - [Serena ChangeMan Version Manager] - [Serena ChangeMan Version Manager] の順に選択して Version Manager を開きます。

IDE クライアント IDE クライアントをインストールした場合、サポートされている開発環境を次に起動したとき、その IDE クライアントにアクセスすることができます。FrontPage など、COM ベースの IDE で作業する場合は、[186 ページの『Web サーバへのインストール』](#)の説明を参照してください。IDE クライアントの使用方法については、『Serena PVCS Version Manager IDE クライアント操作ガイド』を参照してください。

ワークステーションインストールの準備

ワークステーションインストールにより、ユーザは、ネットワーク上に配置された共有バージョンの Version Manager を実行できます。つまり、共通の Version Manager アプリケーションおよびドキュメントにアクセスできます。ユーザが共有できる Version Manager のコンポーネントは次のとおりです。

- デスクトップクライアント
- IDE クライアント

Developer's Toolkit (DTK) は共有できません。

ネットワーク上の IDE クライアント IDE クライアントのインストールを選択すると、ワークステーションインストールに IDE クライアントコンポーネントが含まれます。IDE クライアントワークステーションインストールのコンポーネントをセットアップするには、Version Manager と IDE クライアントをネットワーク上にインストールします。

FrontPage の Web プロジェクトで IDE クライアントを使用する場合は、このインターフェイスを Web サーバに直接インストールする必要があります。そのため、ワークステーションインストールコンポーネントのネットワークサーバ上へのインストールと、Web サーバで使用する IDE クライアントのインストールを同時に行うことはできません。IDE クライアントのインストールの詳細については、[第 16 章、179 ページの『IDE クライアントのインストール』](#)を参照してください。

ワークステーションのサイレントインストール
Version Manager のネットワークインストールが完了したら、ワークステーションのサイレントセットアップ用テンプレートを作成して、各ユーザのセットアップ作業を簡略化することができます。ワークステーションのサイレントインストールを実行すれば、ユーザは、事前に定義されたオプションを使用して各自のワークステーションをセットアップできます。

サイレントセットアップを行うには、最初に、ネットワーク上でワークステーションセットアッププログラムを実行して、応答ファイルを作成する必要があります。Windows ディレクトリに保存されたすべてのインストールオプションを使用して `setup.iss` テンプレートを作成するには、`/r` フラグを使用します。セットアッププログラムの実行が完了したら、`setup.iss` ファイルをネットワーク上のワークステーションセットアップディレクトリにコピーし、以下のコマンドラインオプションを使用して各自のワークステーションからセットアッププログラムを実行するようユーザに指示します。

```
<VM_Install_Dir>\vm\workinst\setup.exe /s
```

ワークステーションインストールのファイルサーバアクセス
Version Manager File Server を使用する場合、`SERVERS.INI` ファイルに対応するネットワーク上の場所を事前定義しておくことによって、クライアントを簡単にセットアップできます。`ISLV.INI` ファイルの `[PVCSGUI_6.5]` セクションで、`pvcs.fileserver.path=` エントリを探してください。Version Manager File Server の詳細については、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

ファイルのローカルコピー
多数のユーザがネットワーク経由で Version Manager にアクセスする場合、一部のファイルをローカルにコピーすることでパフォーマンスを向上できます。たとえば、Java パッケージは、ユーザのワークステーション上の任意の場所にコピーできます。ファイルをローカルにコピーするには、ワークステーションインストール時に `<Local Copy of Java Packages (Java パッケージのローカルコピー)>` オプションを選択し、ファイルのコピー先のディレクトリを指定します。



注：ワークステーションのサイレントインストールを予定しており、ファイルをローカルにコピーする場合は、Java パッケージのコピー先ディレクトリがユーザのワークステーション上に存在することを確認してください。

ワークステーションインストールを準備するには

- 1 55 ページの『DVD-ROM からの Version Manager のインストール』の説明に従って、ネットワーク上に Version Manager をインストールし、インストールするコンポーネントとして〈Workstation Install (ワークステーションインストール)〉を選択します。



注：管理者による Version Manager のインストール先と、ユーザによる Version Manager のインストール元は、同じドライブにマッピングされているか、UNC パスが指定されている必要があります。たとえば、管理者による Version Manager のインストール先が P:\Serena にマッピングされている場合は、ユーザもその場所を P:\Serena にマッピングする必要があります。

- 2 次のプログラムを起動します。

```
<VM_Install_Dir>\vm\workinst\setup /r
```

- 3 セットアッププログラムを使用して、ユーザに適したインストールオプションを設定します。設定内容は、テンプレートファイル (setup.iss) に保存されます。このファイルは、%WINDIR% 変数で指定されている場所にあります。
- 4 以下のいずれかを実行します。
 - ワークステーションのサイレントインストールを実行する場合は、setup.iss を <VM_Install_Dir>\vm\workinst ディレクトリにコピーします。このファイルをコピーすると、ユーザはインストール時に何も選択する必要がなくなります。ネットワークインストール時に管理者が選択した設定に従って、インストールが実行されます。
 - setup.iss ファイルをコピーしないで、次のステップに進みます。この場合、ワークステーションインストール時に、ユーザは自分で設定を選択する必要があります。
- 5 この後の『ワークステーションのセットアップ』、および 65 ページの『ワークステーションでのセットアッププログラムの実行』に進みます。

ワークステーションのセットアップ

管理者によってワークステーションインストールが準備されている場合、各ユーザは、ネットワーク上の Version Manager をインストールして実行することができます。

カスタム設定の維持

ワークステーションインストールの場合、ネットワーク上の Version Manager を複数のユーザで共有しますが、各ユーザは、ウィンドウのサイズ、ダイアログボックスの自動終了、最後に開いたプロジェクトデータベースの表示など、独自の設定をそのまま使用することができます。これらのカスタム設定は ISLV.INI ファイルに格納されます。ワークステーションのセットアッププログラムは、ISLV.INI を以下のいずれかのディレクトリに自動的に格納します。このファイルはほかのユーザと共有しないでください。

オペレーティングシステム	ほかのユーザと共有するディレクトリ	結果
Windows 2000	\WINNT	ワークステーションのセットアッププログラムを実行する前に、ISLVINI 環境変数にローカルディレクトリを指定する必要があります。
Windows XP	\Windows	

このファイルをほかのユーザと共有しないようにするには、ISLVINI 環境変数にローカルディレクトリを指定します。これによって、ほかのユーザが Version Manager を変更し、その変更が ISLV.INI ファイルに書き込まれた場合でも、この初期化ファイルが上書きされなくなります。たとえば、ISLV.INI ファイルを C:\Serena に保存するには、次の操作を行います。

- 1 タスクバーの [スタート] メニューから、[設定] - [コントロールパネル] の順に選択します。
- 2 [システム] アイコンをダブルクリックします。
- 3 [Advanced (詳細)] タブを選択します。
- 4 **【環境変数】** ボタンをクリックします。
- 5 ユーザ環境変数がまだ存在しない場合は、新しいユーザ環境変数を作成します。
- 6 〈変数名〉フィールドに、ISLVINI と入力します。
- 7 〈Variable value (変数値)〉フィールドに、C:\Serena と入力します。

- 8 【OK】をクリックします。
- 9 システムを再起動して、変更を有効にします。

ワークステーションでのセットアッププログラムの実行

管理者がネットワーク上の 1 つ以上の場所に Version Manager をインストールした後、ユーザは、各自のワークステーションをセットアップすることができます。

ワークステーションのセットアッププログラムを実行するには

- 1 以下のいずれかを実行します。
 - 管理者がサイレントインストールを準備した場合は、`setup.exe /s` コマンドを実行します。
 - それ以外の場合は、`<VM_Install_Dir>\vm\workinst` ディレクトリから `setup.exe` コマンドを実行します。
- 2 サイレントインストールを使用しない場合は、画面に指示に従ってインストールを完了します。

第 4 章

UNIX 版 Version Manager の インストール

インストールの前に	68
setuid によるセキュリティの強化	69
デフォルトのインストールディレクトリ構造	71
Version Manager のユーザアカウントの作成	71
DVD-ROM からの Version Manager のインストール	73
Solaris、AIX、および Linux での setuid モードの使用	76
クロスプラットフォーム環境での setuid の使用	77

インストールの前に

以下のいずれかをインストールしている場合

- Version Manager File Server
- Web サーバ
- WebDAV Server

Version Manager Application Server を実行していれば、停止する必要があります。

Exceed やその他の X サーバのフォント置換の無効化

Exceed を使用する場合は、フォント置換を使用しないように設定する必要があります。フォント置換が有効になっていると、多くのダイアログコントロールが正しく表示されません。使用できなくなるものもあります。

Exceed をインストールすると、デフォルトでフォント置換が有効になります。その他の X サーバソフトウェアでも同様の場合があります。

Exceed でフォント置換を無効にするには、次の操作を行います。

- 1 Xconfig を起動します。
- 2 [Font Management (フォント管理)] を選択します。
- 3 [Advanced Settings (詳細設定)] タブを選択します。
- 4 <Automatic Font Substitution (自動フォント置換)> チェックボックスの選択を解除します。



注： 次の 2 つの手順は省略可能ですが、実行することをお勧めします。

- 5 <Local Fonts First (ローカルフォントを優先)> チェックボックスを選択します。

- 6 〈Optimize for Java VM (Java VM に最適化)〉 チェックボックスを選択します。



注：上の手順は Exceed 10 を対象としています。その他のバージョンやその他の X サーバソフトウェアの手順については、製品マニュアルを参照してください。

UNIX での Version Manager Application Server の停止

Application Server を UNIX で停止するには

- 1 次のディレクトリに移動します。
`/VM_Install_Dir/vm/common/bin`
- 2 次のコマンドを入力します。
`./pvcsstop.sh`

setuid によるセキュリティの強化

アーカイブを高レベルのセキュリティで保護するため、Serena PVCS Version Manager のファイルは setuid モードでインストールされます。UNIX で Version Manager を起動するために実行するスクリプト (pvcsvmux) では、setuid 権限と setgid 権限がデフォルトで有効になっている pvcsvmsuid プログラムが呼び出されます。このスクリプトは、Version Manager インストールディレクトリの bin ディレクトリにあります。



注：setuid を無効にする手順については、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

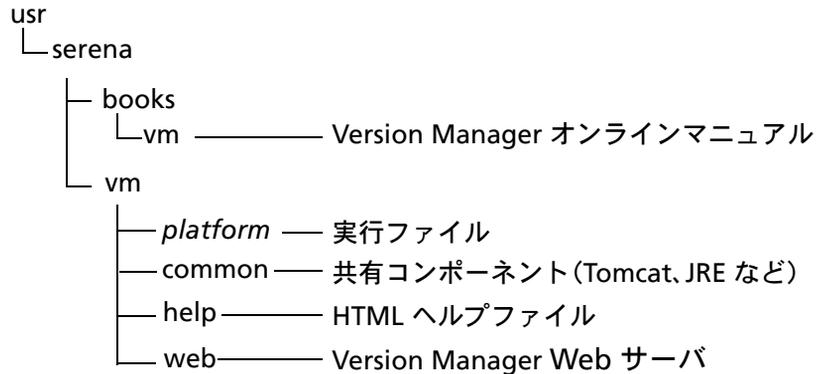
setuid では、ユーザは自分自身としてログインしますが、Version Manager は実行ファイルを所有するユーザとしてパブリックアーカイブを作成します。この目的では、pvcs という名前のユーザを作成することをお勧めします。このユーザが、アーカイブを読み書きできる唯一のユーザとなります。

setuid モードで実行すると、作業ファイル、テンポラリファイル、\$HOME/.islvrsrc を除くすべてのファイルがユーザ pvcs により作成されます。アクセスコントロール権限は、Version Manager アクセスコントロールデータベースによって管理されます。pvcs でない個々のユーザは、Version Manager のコマンドを使用しないかぎり、ファイルやディレクトリを変更、追加、削除することができません。

- 特記事項
- setuid を実装しない場合、アーカイブディレクトリへのアクセス権を持っていれどどのユーザでも、基本的な UNIX コマンドを使用して、アーカイブの移動、名前変更、破壊、削除を行うことができます。
 - 権限を rwxrwxr_x (775) にリセットした場合のみ、setuid モードと nonsetuid モードを切り替えることができます。この場合、すべてのユーザが同じプライマリグループに属している必要があります。また、ディレクトリまたは実行ファイルの権限を rwxrwsr_x (2775) にリセットして、モードを切り替えることもできます。この場合は、ユーザのプライマリグループが同じである必要はありませんが、pvcsgrp がセカンダリグループであることが条件となります。詳細は、71 ページの『Version Manager のユーザアカウントの作成』を参照してください。
 - クロスプラットフォーム環境（Windows と UNIX）で作業している場合は、setuid モードを使用できません。作業設定には、作業ファイルの場所、デフォルトバージョン、ベースバージョンおよびブランチバージョンが含まれます。77 ページの『クロスプラットフォーム環境での setuid の使用』を参照してください。
 - Version Manager 6.6 以降の setuid は 6.5 の setuid と競合します。Version Manager 6.6 以降がインストールされているワークステーションに Version Manager 6.5 もインストールされている場合は、6.6 以降の setuid を無効にしてください。6.5 より前のリリースと同じワークステーションにインストールする場合には、setuid の互換性の問題は発生しません。
 - Solaris、AIX、および Linux で Version Manager を setuid モードで実行するには、インストール後にスクリプトを実行してシンボリックリンクを作成する必要があります。作業設定には、作業ファイルの場所、デフォルトバージョン、ベースバージョンおよびブランチバージョンが含まれます。76 ページの『Solaris、AIX、および Linux での setuid モードの使用』を参照してください。

デフォルトのインストールディレクトリ構造

次の図は、インストールプログラムによってデフォルトで作成されるディレクトリを示しています。



Version Manager のユーザアカウントの作成

Version Manager をインストールする前に、ユーザ `pvc` とグループ `pvcgrp` を作成することをお勧めします。これによって、Version Manager をより簡単に管理できるようになります。この手順を実行するには、`root` としてログインする必要があります。



重要：以前のインストール時と同じユーザ ID を使用して Version Manager にインストールしてください。別のユーザ ID でインストールすると、`setuid` モードが設定されている既存のアーカイブの権限と競合する可能性があります。

ユーザとグループの作成の詳細については、ご使用のオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

Version Manager のユーザアカウントを作成するには、次の操作を行います。

- 1 root としてログインし、次のようなインストールディレクトリを作成します。
`/usr/serena`



注：複数のプラットフォーム用に Version Manager をインストールする場合は、プログラムファイルの上書きを避けるため、次のようにプラットフォームごとに別のディレクトリ構造を作成してください。
`/usr/serena/aix`

- 2 実行ファイルを所有するユーザ (pvcs など) を作成します。
`/usr/serena`
これはユーザのホームディレクトリで、システム管理者が指定します。
- 3 新しく作成したグループ (pvcsgrp など) または既存のグループを、すべての Version Manager ユーザのプライマリグループとして設定します。
UNIX のみの環境を使用していて、Version Manager 実行ファイルを setuid モードで実行する場合でも、ユーザは pvcsgrp グループのメンバーである必要があります。ただし、pvcsgrp グループをユーザのプライマリグループにする必要はありません。pvcsgrp グループ名がプライマリグループになっている必要があるのは pvcs ユーザだけです。
- 4 `/usr/serena` の所有者を pvcs に変更します。
`chown pvcs /usr/serena`
- 5 `/usr/serena` のグループを pvcsgrp に変更します。
`chgrp pvcsgrp /usr/serena`
- 6 次の表を参照し、必要に応じてディレクトリ権限を変更します。

User (ユーザ)	権限
ユーザ pvcs	読み込み、書き込み、実行 (7 または u=rwx)
グループ pvcsgrp	setuid : 読み込みと実行 (5 または g=rx) nonsetuid : 読み込み、書き込み、実行 (7 または g=rwx)
ほかのユーザ	読み込みと実行 (5 または o=rx)

以下に例を示します。

```
chmod 755 /usr/serena
```

または、

```
chmod u=rwx,g=rx,o=rx /usr/serena
```

DVD-ROM からの Version Manager のインストール

Version Manager をインストールするには、次の操作を行います。

- 1 Version Manager の readme ファイルを参照し、UNIX に関する記述を確認します。
- 2 pvcs としてログインし、作業ディレクトリをインストールディレクトリ (/usr/serena など) に変更します。



重要：以前のインストール時と同じユーザ ID を使用して Version Manager にインストールしてください。別のユーザ ID でインストールすると、setuid モードが設定されている既存のアーカイブの権限と競合する可能性があります。

ユーザ pvcs として Version Manager を UNIX にインストールし、このユーザをグループ ppvcsgroup のメンバーにすることをお勧めします。

- 3 Serena PVCS Professional スイート DVD を DVD-ROM ドライブにセットします。ワークステーションの設定によっては DVD-ROM ドライブが自動的にマウントされます。DVD-ROM ドライブがマウントされない場合は、先に進む前にマウントする必要があります。詳細は、OS に付属のマニュアルを参照してください。
- 4 次のように入力して、セットアッププログラムが格納されている場所に移動します。

```
cd cdrom_path/vm/unix
```

- 5 次のように入力して、セットアッププログラムを実行します。

```
./vminst
```

製品使用権許諾契約が表示されます。

- 6 インストールを続行するには、ENTER キーを押して製品使用権許諾契約に同意します。N と入力するとインストールは中止されます。
- 7 現在のユーザとグループを確認します。ユーザ pvcs とグループ pvcsgrp または pvcs としてインストールすることをお勧めします。ENTER キーを押して続行します。
- 8 ライセンスサーバ情報を入力します。ライセンスサーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

30 日間の評価版ライセンスを使用する場合は、このフィールドに何も入力しないでください。評価期間中はいつでもライセンスサーバを指定できます。
- 9 画面の指示に従い、インストールする Version Manager のコンポーネントを選択または選択解除して、【Next (次へ)】をクリックします。次のコンポーネントを選択できます。
 - Desktop Client for UNIX (UNIX 版デスクトップクライアント) : Serena PVCS Version Manager デスクトップクライアントを含みます。
 - Web Server (Web サーバ) : Serena PVCS Version Manager Web インターフェイスを含みます。Version Manager Web サーバのインストール方法については、[第 8 章、117 ページの『UNIX への Web サーバのインストール』](#)を参照してください。
 - Version Manager WebDAV for UNIX (UNIX 版 Version Manager WebDAV) : Serena PVCS Version Manager WebDAV サーバを含みます。WebDAV Server のインストールの詳細については、[第 18 章、198 ページの『UNIX への WebDAV Server のインストール』](#)を参照してください。
 - Plugin for Eclipse 3 (rich integration) (Eclipse 3 用のプラグイン (リッチな統合)) : Eclipse ベースの IDE のバージョン 3 用の Serena PVCS Version Manager のリッチな統合。Eclipse プラグインのインストールの詳細については、[184 ページの『Linux への Eclipse プラグインのインストール』](#)を参照してください。
 - Documentation (ドキュメント) : Serena PVCS Version Manager のマニュアル一式。
 - Developer's Toolkit : Serena PVCS Version Manager の機能を使用したアプリケーションを開発するためのパブリック API。DTK のインストール方法については、[第 17 章、192 ページの『Developer's Toolkit のインストール』](#)を参照してください。
 - Sample Project database (サンプルプロジェクトデータベース) : Version Manager プロジェクトデータベースのサンプル。すべてのインターフェイスに対応しています。

『Serena PVCS Version Manager 入門ガイド』のチュートリアルを使用するには、サンプルプロジェクトデータベースをインストールする必要があります。

- 10** インストールするコンポーネントを選択した後、次のいずれかの操作を行います。
 - ENTER キーを押して、インストールを続行します。
 - N と入力して ENTER キーを押し、コンポーネントを再度選択します。
使用している UNIX オペレーティングシステムが自動的に検出されます。
- 11** 以下のいずれかを実行します。
 - ENTER キーを押して、検出されたオペレーティングシステム上でのインストールを続行します。
 - 2 と入力して、別のオペレーティングシステムを選択します。同じサーバ上に、異なるオペレーティングシステム用の Version Manager をインストールできます。

対応するオペレーティングシステムが異なる複数の Version Manager について、それぞれサンプルプロジェクトデータベースを作成することはできません。
 - 3 と入力して、インストールプログラムを終了します。
- 12** 次のいずれかを行って、インストールディレクトリを指定します。
 - ENTER キーを押して、デフォルトの /usr/serena をそのまま使用します。
 - インストールディレクトリを入力して、デフォルト以外の場所にインストールします。

この場所にインストールされるファイルと作成されるディレクトリについては、71 ページの『デフォルトのインストールディレクトリ構造』を参照してください。
- 13** ENTER キーを押して、インストールディレクトリのパスを確認します。ディレクトリが存在しない場合は、そのディレクトリを作成するかどうかを確認するメッセージが表示されます。
- 14** 以下のいずれかを実行します。
 - ENTER キーを押して、選択したプラットフォームとインストールディレクトリを確認します。インストールの進行状況が示され、インストールが完了したことを知らせるメッセージが表示されます。
 - E と入力して ENTER キーを押し、セットアッププログラムを終了します。

- 15** Version Manager Web サーバをインストールするよう選択した場合、Version Manager Web サーバ用としてどの Web サーバを使用するかを指定する必要があります。ENTER キーを押してデフォルト設定をそのまま使用するか、N と入力して別の Web サーバを選択します。



注：インストールが完了した後、別途、Web サーバの設定を行う必要があります。手順については、[121 ページの『インストール後の手順』](#)を参照してください。

- 16** インストールが完了すると、Version Manager をオンライン登録する画面が表示されます。オンライン登録を行うと Serena アンサーラインに登録され、必要なとき、すぐにサポートを受けられるようになります。また、Serena の製品開発に関する最新情報を電子メールで毎月知らせるニュースレターを購読したり、Serena Web サイトからアクセスできるオンラインリソースを参照することもできます。

Version Manager のユーザ登録を行うには ENTER キーを押します。登録用の Web ページが、システムのデフォルトの HTML ブラウザに表示されます。このページに、ユーザの名前と登録番号が自動的に表示されます。ページの指示に従って登録を完了します。

Solaris、AIX、および Linux での setuid モードの使用

Solaris、AIX、および Linux の場合、Version Manager を setuid モード（インストール時のデフォルト設定）で実行するには、Version Manager の共有ライブラリへのシンボリックリンクを各オペレーティングシステム上で作成する必要があります。これらのリンクは、ディレクトリ /usr/lib または /usr/lib/secure にインストールされます（ディレクトリは OS によって異なります）。

これは、OS のセキュリティ上必要な操作で、setuid モードでのアプリケーションの実行時に、不特定の場所から共有ライブラリが使用されるのを防ぐためのものです。リンクは、Version Manager を実行するすべてのシステム上に作成する必要があります。

使用している OS に適したシンボリックリンクを作成するスクリプトが用意されています。

リンクを作成するには、次の操作を行います。

次のコマンドを root で実行します。

```
<VM_Install_dir>/vm/<os>/bin/vmlinklibs -add
```

例：

```
/usr/serena/vm/solaris/bin/vmlinklibs -add  
/usr/serena/vm/aix/bin/vmlinklibs -add
```

-add オプションの代わりに -verify オプションを使用すると、正しいリンクがすでにインストールされているかどうかをチェックできます。また、以前に作成されたリンクを削除する場合は -delete オプションを使用します。

あるいは、次のコマンドを実行して、Version Manager の setuid モードを無効にすることもできます。

```
<VM_Install_Dir>/vm/<os>/bin/vmsetsuid -unset
```

Version Manager をインストールしたユーザとして実行してください。関連するすべての Version Manager 実行ファイルで setuid モードが無効になります。setuid モードは、次のコマンドを実行することによって簡単に再び有効にすることができます。

```
<VM_Install_Dir>/vm/<os>/bin/vmsetsuid -set
```

リンクを確認するには

すべての実行ファイルが setuid モードであるかどうかを確認するには、次のコマンドを実行します。

```
<VM_Install_Dir>/vm/<os>/bin/vmsetsuid -verify
```

HP-UX では、setuid モードでの実行にこれらのリンクは必要ありません。Version Manager を setuid モードで実行する理由については、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

クロスプラットフォーム環境での setuid の使用

UNIX と Windows 間でのファイルのマッピング方法によっては、setuid をクロスプラットフォーム環境で使用できます。

Samba での setuid の使用

Samba コンフィグレーションファイル（通常は `SMB.CONF`）に次のような行を追加するか、または行を編集します。

```
[serenavm]
path = VM_Path
force user = VM_ID
force group = VM_Group
read only = No
```

設定値の内容は以下のとおりです。

- `VM_Path` : UNIX システム上にある Version Manager プロジェクトデータベースの場所です。
- `VM_ID` : UNIX システムに Version Manager をインストールしたときの UNIX ID です。
- `VM_Group` : Version Manager をインストールしたときのユーザグループです。



重要 : 以前のインストール時と同じユーザ ID を使用して Version Manager にインストールしてください。別のユーザ ID でインストールすると、setuid モードが設定されている既存のアーカイブの権限と競合する可能性があります。

ユーザ `pvcs` として Version Manager を UNIX にインストールし、このユーザをグループ `pvcsgrp` のメンバーにすることをお勧めします。



注 : この例は、特定の共有でのみ使用できます。Samba コンフィグレーションファイルの `[global]` セクションでこれらの設定を使用する方法については、Samba のマニュアルを参照してください。

NFS での setuid の使用

NFS クライアントでユーザ ID とユーザグループをマッピングできない場合は、UNIX で setuid を使用できません。UNIX で setuid を使用するには、認証が完了した後、VM_ID および VM_Group によるアクセスを許可するように NFS クライアントを設定する必要があります（前に説明したように、VM_ID と VM_Group は、それぞれ Version Manager を UNIX にインストールしたときのユーザ ID とユーザグループです）。



重要：以前のインストール時と同じユーザ ID を使用して Version Manager にインストールしてください。別のユーザ ID でインストールすると、setuid モードが設定されている既存のアーカイブの権限と競合する可能性があります。

ユーザ pvcs として Version Manager を UNIX にインストールし、このユーザをグループ pvcsgrp のメンバーにすることをお勧めします。

ユーザ ID とグループのマッピングについては、NFS クライアントのマニュアルを参照してください。

第 5 章

インストール後の作業

ログインソースの設定	82
プログラムファイルとプロジェクトデータの保護	86
Version Manager に必要な UNIX 環境	90
UNIX での Adobe Acrobat Reader および HTML ブラウザの設定	93
次のステップ	94

ログインソースの設定

ユーザが Serena PVCS Version Manager を使用する前に、ログインソースからユーザ ID を取得するよう Version Manager を設定する必要があります。ログインソースとは、ユーザ ID を取得するために Version Manager で使用するオペレーティングシステム、ネットワーク、またはユーティリティです。Version Manager では、アーカイブ操作の作成者として取得したユーザ ID が使用されます。

Version Manager コマンドを使用する際、Version Manager で指定した各ログインソースから、ユーザ ID が取得されます。ユーザ ID を取得できない場合はエラーメッセージが表示され、Version Manager が終了します。ユーザ ID が取得され、アクセスコントロールデータベースが有効でない場合は、すべてのユーザがアーカイブにアクセスできます。

有効なログインソースは、以下のとおりです。

- Host ID ホストオペレーティングシステム。このソースは、UNIX や Windows 2000 などユーザ識別機能が備わっているシステム、または複数のネットワークが使用されている環境で使用します。このオプションのディレクティブは、LogIn=HOST です。
- LDAP ID Lightweight Directory Access Protocol (LDAP)。LDAP サーバでユーザ ID とパスワードによる認証を行う場合に、このソースを使用します。LDAP で認証された後、ユーザ ID が有効であれば、そのユーザ ID がアクセスコントロールデータベースに渡されます。アクセスコントロールデータベースのパスワードは無視されます。このオプションにより使用されるディレクティブは LogIn=LDAP です。

LDAP はコマンドラインインターフェイス (CLI) からは使用できません。LDAP が最初のログインソースとして指定されている場合は、CLI はその次のログインソースを使用します。LDAP 以外のログインソースが指定されていない場合、その CLI コマンドは失敗します。

- [Login (ログイン)] ダイアログボックス。Version Manager デスクトップクライアントのログインユーティリティ。このソースでは、Version Manager を使用する前にユーザにパスワードの入力が要求されます。パスワード保護を使用するには、アクセスコントロールデータベースを定義する必要があります。このログインソースは、デスクトップクライアントの操作にのみ適用されます。このオプションのディレクティブは、LogIn=VLOGIN です。
- Netware ID Novell NetWare (Windows のみ)。この場合、Windows 2000 や Windows XP ではなく、Novell NetWare サーバからユーザ ID が取得されます。このオプションのディレクティブは、LogIn=NETWARE です。

- VCS IDVersion Manager により VCSID 環境変数の値から取得されるユーザの Serena ID。このオプションのディレクティブは、LogIn=VCSID です。
ユーザ ID のソースとして VCSID を使用した場合、安全性が低下することに注意してください。別のユーザとしてログインするか、または VCSID 環境変数の値をリセットすることによって、セキュリティを回避できるためです。
- WNet IDMicrosoft Windows ネットワーク。Microsoft WNET API からユーザ ID が取得されます。このオプションのディレクティブは、LogIn=WNET です。

Version Manager を実行すると、ログインソースを指定した順序でユーザ ID が検索されます。したがって、ログインソースの順序を指定するときは、オペレーティングシステムとログインソースのセキュリティを考慮する必要があります。



注：VLOGIN または LDAP をログインソースとして設定した場合は、[Login (ログイン)] ダイアログボックスが表示されます。ここで【Cancel (キャンセル)】をクリックすると、ログイン操作がキャンセルされます。ほかのログインソースは検索されず、プロジェクトデータベースやプロジェクトにログインできません。

たとえば、LDAP サーバが使用できず、ユーザが Windows および HP-UX を実行している場合、使用可能なログイン ソースは VCS ID、ホスト ID、および Netware ID です。Version Manager は、UNIX ユーザに対しては、ホスト ID ログインソースを使用します。

UNIX ユーザの場合：UNIX デスクトップクライアントと PCLI では、ログインソースとしてホスト ID、LDAP ID、[Login (ログイン)] ダイアログボックス、VCS ID のみを使用できます ([Login (ログイン)] ダイアログボックスの場合、PCLI ではダイアログボックスではなく、PCLI_ID 環境変数または -id スイッチが使用されます)。UNIX CLI では、ホスト ID と VCS ID のみを使用できます。デフォルト値はホスト ID です。

デスクトップクライアントユーザの場合：ユーザ ID を取得した後、Version Manager は、そのユーザ ID がアクセスコントロールデータベースに存在するかどうかを確認します。ユーザ ID が登録されていない場合は、アクセスコントロールデータベース内にユーザ ID を自動的に作成し、ユーザに権限を割り当てるように Version Manager を設定できます。

これは、アクセスコントロールデータベースを使用するかどうかをまだ決定していない場合に便利です。アクセスコントロールデータベース内にユーザ ID が自動的に作成されるように Version Manager を設定しておけば、後でアクセスコントロールを導入するとき、すでにユーザが定義されているので、セキュリティを設定するための時間を節約できます。また、権限が限定されたゲストアカウントも簡単に設定できます。

ユーザ ID では、大文字と小文字を区別するどうかを設定することができます。ただし、大文字と小文字の差以外はまったく同じである複数のユーザ ID を定義することはできません。大文字と小文字の区別を制御するディレクティブは、CASE です。

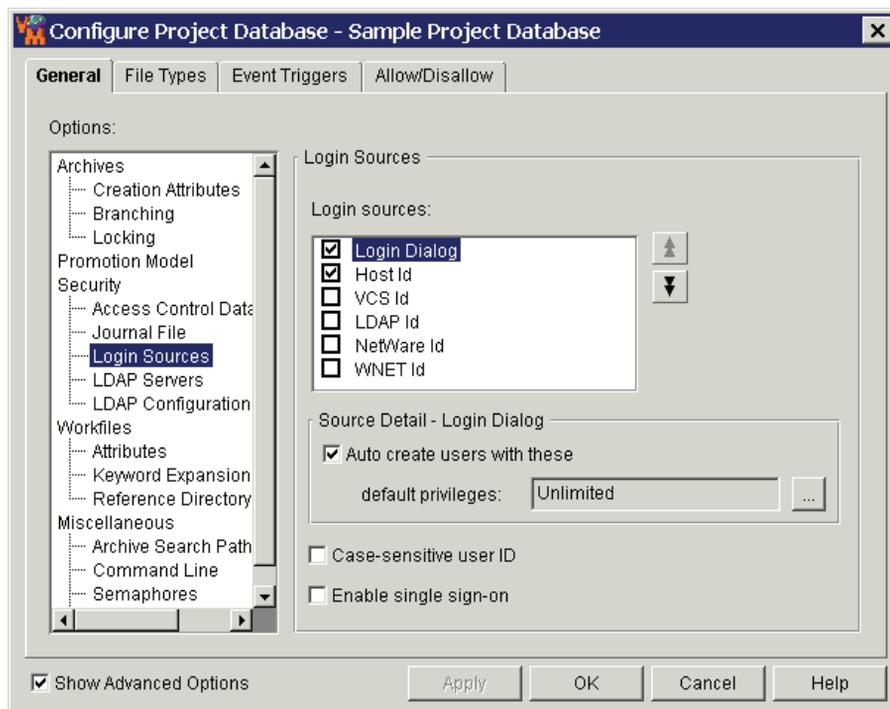
デスクトップクライアントの使用

ログインソースを設定する前に、設定対象のプロジェクトデータベースまたはプロジェクトをコンフィグレーションファイルに関連付ける必要があります。[File (ファイル)] – [Properties (プロパティ)] を選択して、選択したプロジェクトデータベースまたはプロジェクトとコンフィグレーションファイルを関連付けます。

デスクトップクライアントでこれらのオプションを設定するには、次の操作を行います。

- 1 ログインソースを定義するプロジェクトデータベースまたはプロジェクトを選択します。プロジェクトデータベースおよびプロジェクトの設定については、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。
- 2 [Admin (管理)] – [Configure Project (詳細設定)] を選択します。[Configure Project (プロジェクトの詳細設定)] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 〈Show Advanced Options (高度な設定)〉チェックボックスがまだ選択されていない場合は選択します。

- 4 〈Security (セキュリティ)〉の下の〈Login Sources (ログインソース)〉を選択します。〈Login Sources (ログインソース)〉グループボックスが右側に表示されます。各オプションについて表示される値は、プロジェクトデータベースまたはプロジェクトに関連付けたコンフィグレーションファイルで現在定義されている設定です。



- 5 適切なログインソースを選択します。
- デフォルトでは、プロジェクトデータベースを作成したとき、マスターコンフィグレーションファイル内にホスト ID ログインソースが自動的に定義されます。
- 6 上下の矢印を使用して、ログインソースを正しい順序に並べ替えます。ここで定義した順序でユーザ ID が検索されます。
- 7 選択したログインソースを設定して、アクセスコントロールデータベース内にユーザ ID を自動的に作成するには、次の手順に従ってください。
- a ログインソースを選択します。
 - b 〈Auto create users with these default privileges (以下の権限で自動的にユーザを作成する)〉チェックボックスを選択します。このオプションは、プロジェクトデータベースおよびプロジェクトに適用されます。

- c ユーザに割り当てるデフォルト権限を指定します。権限の詳細については、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

デフォルトでは、ホスト ID ログインソースにより、プロジェクトデータベースまたはプロジェクトのアクセスコントロールデータベース内にユーザが自動的に作成され、Unlimited 権限セットが割り当てられます。

- 8 ユーザ ID で大文字と小文字が区別されるようにするには〈Case Sensitive User ID (ユーザ ID で大文字と小文字を区別)〉チェックボックスを選択します。デスクトップクライアントのデフォルトでは、ユーザ ID の大文字と小文字は区別されません。
- 9 オプションの定義を終えたら【OK】をクリックするか、【Apply (適用)】をクリックして設定を保存し、ほかのオプションの定義を続けます。

コマンドラインインターフェイスの使用

コマンドラインインターフェイスおよびプロジェクトコマンドラインインターフェイス (PCLI) では、次のディレクティブでログインソースオプションを定義します。

- LogIn. 有効な値は、HOST、LDAP (CLI ではサポートされません)、NETWARE、VCSID、および WNET です。HOST はすべてのプラットフォームに対してデフォルトです。
- Case. デフォルトでは、ユーザ ID の大文字と小文字が区別されます。

これらのディレクティブの詳細については、『Serena PVCS Version Manager コマンドラインリファレンスガイド』を参照してください。

プログラムファイルとプロジェクトデータの保護

ネットワーク権限によるアクセスの制限

この後のセクションでは、Version Manager 実行ファイル、プログラムファイル、およびプロジェクトデータファイルを含むディレクトリに対しての推奨される権限について説明します。特定のディレクトリについてのユーザの権限を制限することにより、これらの重要なファイルの不注意による削除や変更を防ぐことができます。

プロジェクトデータベースについて

「プロジェクトデータベース」は、一群のプロジェクト、サブプロジェクト、およびバージョン管理されたファイルを階層化したものです。プロジェクトデータベースには、すべてのプロジェクト、サブプロジェクト、およびバージョン管理ファイルを対象としたコンフィグレーション設定も格納されています。

オペレーティングシステムまたはファイルシステム上で、プロジェクトデータベースとして定義されたディレクトリには、プロジェクトファイル、pvcsuser ディレクトリ、プロジェクトディレクトリ、lib ディレクトリ、および場合によっては archives ディレクトリと work ディレクトリを含むサブディレクトリとファイルが格納されます。archive ディレクトリと work ディレクトリのデフォルトの場所は、プロジェクトデータベースの作成時に変更できます。ただし、プロジェクトデータベースのデフォルト構造を変更しない場合は、プロジェクトデータベースは次のような構成になります。

```
project database\  
  \archives  
  \lib  
  \project.prj  
  \pvcsuser  
  \work
```

これらのディレクトリとファイルは重要なので、保護する必要があります。これらの情報を保護する方法については、88 ページの『UNIX 上でのプログラムファイルとプロジェクトデータの保護』および 89 ページの『Windows 上でのプログラムファイルとプロジェクトデータの保護』を参照してください。

UNIX 上でのプログラムファイルとプロジェクトデータの保護

pvcs ユーザアカウントは、次の表に示すすべてのファイルとディレクトリを所有します。ファイルの場所については、71 ページの『デフォルトのインストールディレクトリ構造』を参照してください。

ディレクトリとファイル	所有者の権限	Setuid グループ の権限	その他 の権限	Nonsetuid グループ の権限
プログラムファイルとセキュリティファイル /usr/serena/vm/<os>/bin	All (すべて)	読み込み、 実行	読み込み、 実行	読み込み、 実行
プロジェクトデータベースディレクトリ	All (すべて)	読み込み、 実行	読み込み、 実行	All (すべて)
archives ディレクトリ (プロジェクトデータベースディレクトリ以外の場所に定義されている場合)	All (すべて)	読み込み、 実行	読み込み、 実行	All (すべて)
work ディレクトリ (プロジェクトデータベースディレクトリ以外の場所に定義されている場合)	All (すべて)	読み込み、 書き込み、 実行	読み込み、 実行	All (すべて)
プロジェクトデータベースコンフィグレーションファイル (マスターコンフィグレーションファイル。通常はアーカイブディレクトリのルートに格納)	All (すべて)	読み込み	読み込み	All (すべて)
テンプレート (コンフィグレーションおよびアクセスコントロールデータベース) ファイル /usr/serena/vm/common/pvcsprop/ pvcs/vm	All (すべて)	読み込み、 実行	読み込み、 実行	All (すべて)
管理用ファイル /usr/serena/vm/<os>/bin/admin	読み込み、 書き込み	読み込み、 書き込み	なし	なし

セキュリティの定義の詳細については、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

- 特記事項**
- nonsetuid モードで Version Manager を実行する場合は、プロジェクトデータベースとプロジェクトデータベースのコンフィグレーションファイルに対して、グループの書き込み権限が必要です。

- ユーザ pvcs は、すべての実行ファイルの所有者になります。setuid モードで実行する場合は、Version Manager の bin ディレクトリに配置されているすべての実行ファイルに setuid ビットが設定されている必要があります。



重要：以前のインストール時と同じユーザ ID を使用して Version Manager にインストールしてください。別のユーザ ID でインストールすると、setuid モードが設定されている既存のアーカイブの権限と競合する可能性があります。

ユーザ pvcs として Version Manager を UNIX にインストールし、このユーザをグループ pvcsgrp のメンバーにすることをお勧めします。

Windows 上でのプログラムファイルとプロジェクトデータの保護

Version Manager ファイルの配置場所の詳細については、55 ページの『[デフォルトのインストールディレクトリ構造](#)』を参照してください。



重要：ファイルアロケーションテーブル（FAT）システムを使用するドライブ上の共有ディレクトリに Version Manager をインストールしている場合は、その共有ディレクトリ下のすべてのファイルとフォルダにも、その共有ディレクトリと同じ権限が割り当てられます。

ディレクトリとファイル	デフォルトの場所	User (ユーザ) の権限	管理者の権限
プログラムファイルとセキュリティファイル	Serena\vm\Win32\bin	読み込み、実行	All (すべて)
管理用ファイル	Serena\vm\Win32\bin\admin	なし	All (すべて)
ワークステーションのセットアップ	Serena\vm\workinst	読み込み、実行	All (すべて)
プロジェクトデータベースディレクトリ	プロジェクトデータベースの配置場所は、プロジェクト表示部のプロジェクトデータベース名の後に表示されます。	ディレクトリ作成、読み込み、書き込み	All (すべて)
archives ディレクトリ	プロジェクトデータベースディレクトリ内	ディレクトリ作成、読み込み、書き込み、削除	All (すべて)

ディレクトリとファイル	デフォルトの場所	User (ユーザ) の権限	管理者の権限
work ディレクトリ	プロジェクトデータベースディレクトリ内	ディレクトリ作成、読み込み、書き込み	All (すべて)
プロジェクトデータベース コンフィグレーション ファイル	archives ディレクトリ内	読み込み	All (すべて)
テンプレートファイル (コンフィグレーションおよびアクセスコントロールデータベース)	Serena\vm\common\ pvcsprop\pvcs\vm	読み込み、実行	All (すべて)

Version Manager に必要な UNIX 環境

Version Manager をインストールした後、UNIX 管理者は、Version Manager を使用する前に UNIX 環境を設定する必要があります。

UNIX の環境変数を設定するには、次の操作を行います。

- 1 Version Manager のコマンドラインインターフェイス (CLI) を使用するには、インストール時に生成された Version Manager プロファイルファイルの 1 つをソースとして使用する必要があります。プロファイルファイルを使用すると、現在のシェルの環境変数が追加または変更され、CLI が使用可能になります。

使用可能なプロファイルは、`vmprofile` と `vmcshrc` の 2 つです。どちらのプロファイルを使用するかは、実行しているシェルによって異なります。これらのファイルは、オペレーティングシステム名が付いたディレクトリの下にある `bin` ディレクトリに配置されます (`<VM_Install_Directory>/vm/<OS>/bin`)。

シェル	使用する構文
-----	--------

C	<code>source <VM_Install_Directory>/vm/<os>/bin/vmcshrc</code>
Bash、 Bourne、 Korn	<code>· <VM_Install_Directory>/vm/<os>/bin/vmprofile</code> 注：ピリオド (.) は、これらのシェルでは「ソース」コマンドとして機能します。したがって先頭のピリオドとスペースは必須です。

ソースプロファイルはログイン間で保持されないため、スタートアップスクリプトにソースコマンドを追加することをお勧めします (.cshrc または .profile)。これにより、CLI を使用するシェルにログインするたびにソースコマンドを手動で実行する必要がなくなります。

- 2 デスクトップクライアントを使用している場合は、次の手順に従って環境を設定します。
 - a DISPLAY 環境変数に、Version Manager の表示に使用するシステムのホスト名または IP アドレスが設定されていることを確認します。自動的に設定されない場合は、次のように指定します。

シェル	使用する構文
C	<code>setenv DISPLAY host_name:0.0 または setenv DISPLAY ip_address:0.0</code>
Korn	<code>export DISPLAY=host_name:0.0 または export DISPLAY=ip_address:0.0</code>
Bourne	<code>DISPLAY=host_name:0.0 または DISPLAY=ip_address:0.0 export DISPLAY</code>

- b 各ユーザのスタートアップスクリプト (.cshrc または .profile) の PATH 環境変数を次のように編集します。

使用する UNIX システム	操作
Solaris	OpenWindows の bin ディレクトリを PATH に追加します (例: <code>\$PATH:/usr/openwin/bin</code>)。
その他	X11R6 bin ディレクトリにパスを追加します (例: <code>\$PATH:/usr/bin/X11</code>)。

- c Solaris のみ：環境変数 OPENWINHOME、LD_LIBRARY_PATH、および XFILESEARCHPATH を次のように設定します。

シェル	使用する構文
C	<pre>setenv OPENWINHOME <i>openwindows_directory</i> setenv LD_LIBRARY_PATH \$OPENWINHOME/ lib:\$LD_LIBRARY_PATH setenv XFILESEARCHPATH \$OPENWINHOME/lib/ %T/%N/%S</pre>
Korn または Bourne	<pre>OPENWINHOME=<i>openwindows_directory</i> export OPENWINHOME LD_LIBRARY_PATH=\$OPENWINHOME/lib export LD_LIBRARY_PATH XFILESEARCHPATH=\$OPENWINHOME/lib/%T/%N/%S export XFILESEARCHPATH</pre>

ここで、*openwindows_directory* は、OpenWindows のインストールディレクトリです。

- d X Windows コンソールを使用して Version Manager を表示する場合は、次の手順に従います。
- `setuid` モードで、Version Manager を実行しているシステムにコンソールが物理的に接続されている場合は、次のコマンドを実行します。

```
xhost +local:
```

- 別の UNIX システムで実行している場合は、次のコマンドを実行します。

```
xhost +
```

この場合、コンソールに物理的に接続されている UNIX システムからコマンドを実行します。

これは、Version Manager が画面にアクセスできるようにするために必要な手順です。この手順を実行しないと、X Windows サブシステムにより、サーバが接続を拒否したことを知らせるメッセージが表示されます。以下に例を示します。

```
$ pvcsvmux
$ Xlib: connection to ":0.0" refused by server
Xlib: Client is not authorized to connect to Server
Exception in thread "main" java.lang.InternalError:
    Can't connect to X11 window server using ':0' as
```

the value of the DISPLAY variable.

UNIX での Adobe Acrobat Reader および HTML ブラウザの設定

HTML ブラウザを使用してオンラインヘルプを参照したり、レポートを表示したりするには、Version Manager で HTML ブラウザのパスを設定する必要があります。詳細は、94 ページの『UNIX 上でのブラウザの設定』を参照してください。



注：Linux ユーザおよび UNIX ユーザは、Version Manager のヘルプシステムを使用できるように HTML ブラウザを設定する必要があります。

Serena PVCS Version Manager オンラインマニュアル (PDF) を表示するには、Serena PVCS Professional スイート DVD に収められている Adobe[®] Acrobat[®] Reader を使用します。Version Manager のインストール時に、Serena PVCS Version Manager オンラインマニュアルをインストールするかどうかを選択できます。

Adobe Acrobat Reader を使用するには、Version Manager でその場所を指定する必要があります。詳しくは、93 ページの『UNIX での Adobe Acrobat Reader の設定』を参照してください。Adobe Acrobat Reader を設定した後は、Version Manager で [Help (ヘルプ)] - [Online Manuals (オンラインマニュアル)] を選択すると Acrobat Reader が自動的に起動します。

UNIX での Adobe Acrobat Reader の設定

オンラインドキュメントにアクセスするには、Version Manager で Adobe Acrobat Reader の場所を定義する必要があります。Adobe Acrobat Reader は、Serena PVCS Professional スイートの DVD-ROM に収められています。

オンラインマニュアルに備わっている全文検索用インデックスを使用するには、マニュアルを最初に開いたとき、Adobe Acrobat Reader でインデックスファイルを選択する必要があります。

Adobe Acrobat Reader の場所の定義

Adobe Acrobat Reader の場所を定義するには、次の操作を行います。

- 1 Version Manager を起動します。

- 2 [View (表示)] – [Options (オプション)] を選択します。
- 3 [Applications (アプリケーション)] タブをクリックします。
- 4 <Adobe Acrobat Reader Location (Adobe Acrobat Reader の場所)> フィールドに、Adobe Acrobat Reader 実行ファイルの場所を入力します。
- 5 【OK】 をクリックします。

Version Manager によって Adobe Acrobat Reader の場所が維持され、Version Manager オンラインマニュアルにアクセスするたびに、Adobe Acrobat Reader が起動します。Version Manager からオンラインマニュアルにアクセスするには、[Help (ヘルプ)] – [Online Manuals (オンラインマニュアル)] を選択します。

UNIX 上でのブラウザの設定

HTML ブラウザを使用して Version Manager のヘルプファイルを参照したり、レポートを表示したりするには、Version Manager でブラウザの場所を指定する必要があります。

ブラウザの場所を指定するには、次の操作を行います。

- 1 Version Manager を起動します。
- 2 [View (表示)] – [Options (オプション)] を選択します。
- 3 [Applications (アプリケーション)] タブをクリックします。
- 4 <Browser Location (ブラウザの場所)> フィールドに、使用するブラウザのパスを入力します (例: /usr/local/netcape/netcape)。
- 5 【OK】 をクリックします。

レポートを作成すると、指定したブラウザでレポートが自動的に起動します。ブラウザは、Version Manager ヘルプシステムを使用するときにも起動します。

次のステップ

Version Manager および Version Manager File Server の設定方法については、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。さらに、

セキュリティ、イベントトリガ、自動ブランチの定義方法などについては、このマニュアルの説明も参照してください。

パート 3

Version Manager Web サーバのインストール

『パート 3：Version Manager Web サーバのインストール』は、以下の章で構成されています。

Version Manager Web サーバの概要	101
Windows への Web サーバの インストール	109
UNIX への Web サーバのインストール	117
Version Manager プロジェクトデータベースの作成	123
Web サーバサブレットの設定	129
Web サーバのインストールと実行	145
Version Manager Web サーバの実行	153
セキュリティの管理	157
パフォーマンスの管理	161
Version Manager Web サーバの アンインストール	171

チェックリスト

Serena PVCS Version Manager Web サーバをインストール、セットアップ、および設定するには、次の作業を行う必要があります。

<input type="checkbox"/>	Version Manager Web サーバの概要を確認する (102 ページ)
<input type="checkbox"/>	Windows : Version Manager Web サーバをインストールしてセットアップする (111 ページ)
<input type="checkbox"/>	UNIX : Version Manager Web サーバをインストールしてセットアップする (119 ページ)
<input type="checkbox"/>	UNIX : 既存の NFS マップファイルを使用する (122 ページ)
<input type="checkbox"/>	Version Manager Web サーバプロジェクトデータベースの概要を確認する (124 ページ)
<input type="checkbox"/>	プロジェクトデータベースを設定し、ユーザと権限を指定する (126 ページ)
<input type="checkbox"/>	Version Manager Web サーバサブレットのコンフィグレーションコンフィグレーションオプションを確認する (130 ページ)
<input type="checkbox"/>	Windows : サブレットを設定する (134 ページ)
<input type="checkbox"/>	UNIX : サブレットを設定する (139 ページ)
<input type="checkbox"/>	サブレットにアクセスする (144 ページ)
<input type="checkbox"/>	Version Manager Web サーバで使用する Web サーバソフトウェアをインストールする (146 ページ)
<input type="checkbox"/>	Web サーバソフトウェアを設定する (147 ページ)
<input type="checkbox"/>	Web サーバのセキュリティを設定する (147 ページ)
<input type="checkbox"/>	Web サーバの起動方法と停止方法を確認する (148 ページ)
<input type="checkbox"/>	Windows : Version Manager Web サーバの起動方法と停止方法を確認する (154 ページ)
<input type="checkbox"/>	UNIX : Version Manager Web サーバの起動方法と停止方法を確認する (155 ページ)
<input type="checkbox"/>	Web サーバに接続する (156 ページ)

<input type="checkbox"/>	セキュリティ：Version Manager Web サーバでのアクセスコントロール方法を確認する (158 ページ)
<input type="checkbox"/>	セキュリティ：Version Manager Web サーバでの SSL (Secure Sockets Layer) の使用方法を確認する (158 ページ)
<input type="checkbox"/>	セキュリティ：Version Manager Web サーバでのファイアウォールの使用方法を確認する (159 ページ)
<input type="checkbox"/>	パフォーマンス：システムの考慮事項を確認する (162 ページ)
<input type="checkbox"/>	パフォーマンス：ネットワーク技術に関する考慮事項を確認する (162 ページ)
<input type="checkbox"/>	パフォーマンス：Version Manager Web サーバデーモンの使用方法を確認する (163 ページ)
<input type="checkbox"/>	パフォーマンス：Web サーバに関する考慮事項を確認する (166 ページ)
<input type="checkbox"/>	パフォーマンス：推奨事項を確認する (166 ページ)
<input type="checkbox"/>	パフォーマンス：パフォーマンスの最適化方法を確認する (167 ページ)
<input type="checkbox"/>	Windows：Version Manager Web サーバのアンインストール方法を確認する (172 ページ)
<input type="checkbox"/>	UNIX：Version Manager Web サーバのアンインストール方法を確認する (174 ページ)

第 6 章

Version Manager Web サーバの概要

Version Manager Web サーバについて	102
インストールの前に	106
インストール後の作業	107

Version Manager Web サーバについて

Version Manager Web サーバは、インターネットまたはイントラネットを介して Version Manager のアーカイブへ安全にアクセスするための Version Manager コンポーネントです。

インターネット機能の一部として、Version Manager Web サーバには次のような独自の機能が備わっています。

- アーカイブのセキュリティの強化：Version Manager のクライアント / サーバアーキテクチャには 3 つのアーカイブセキュリティ層があります。その 3 つとは、ユーザアクセス権の割り当て、クライアント / サーバの保護、パブリックネットワークアクセスに対する標準規格準拠の暗号化です。このようなセキュリティ層により、Version Manager は過失による更新や削除からアーカイブを保護します。
- パフォーマンスの向上：アーカイブをサーバ側で処理するので、ネットワークトラフィックを最小限に抑え、クライアントへ送信されるデータ量を減らすことができます。
- 簡単に操作できるブラウザベースのシンクライアントインターフェイス：Version Manager Web クライアントには、Version Manager を Web ブラウザから操作できる使いやすいインターフェイスが備わっています。リモートで作業する場合、このシンクライアントを使用して、中央サーバに保存された Version Manager のアーカイブにファイルをチェックインしたり、アーカイブからファイルをチェックアウトすることができます。

Version Manager Web サーバのコンポーネント

Version Manager Web サーバコンポーネント、Web サーバ、および Version Manager Web クライアントコンポーネントのサービスを組み合わせると、インターネットまたはイントラネット経由でアーカイブにアクセスして、開発プロセスをリモートから管理できます。これらのツールについては、この後の説明を参照してください。

Version Manager Web サーバ

Version Manager Web サーバは、Version Manager のサービスをリモートで使用できるようにする Serena PVCS Professional アプリケーションです。Version Manager Web サーバおよび Version Manager Web クライアントを使用するには、サポートされている Web サーバをインストールし、少なくとも 1 つのサブレットを設定する必要があります。

Version Manager Web サーバはクライアント / サーバアーキテクチャを採用しているため、リモートのアーカイブへ安全にアクセスすることができます。さらに、Version Manager Web クライアントはネットワークトラフィックを最小限に抑え、リモートクライアントへデータを高速で送信できるので、Version Manager デスクトップアプリケーションのパフォーマンスが向上します。

Web サーバ

Version Manager Web サーバを使用するには、サポートされている Web サーバをインストールする必要があります。Version Manager Web サーバは、以下の Web サーバコンフィグレーションに対応しています。

Web サーバ	オペレーティングシステム
Microsoft Internet Information Services 5	Windows 2000
Microsoft Internet Information Services 6	Windows 2003
Apache 1.3.x 注：Apache サーバを使用するには動的共有オブジェクトが必要です。	Solaris、HP-UX、AIX、Linux
Apache 2.0.43 以降 注：Apache サーバを使用するには動的共有オブジェクトが必要です。	Solaris、HP-UX、Linux
iPlanet 6.0 SP1	Solaris、HP-UX、AIX
Java System Web Server 6.1 SP1	Solaris、HP-UX



注：Web サーバの購入については、Web サーバベンダーの Web サイトを参照してください。

上記以外の市販の Web サーバを Version Manager Web サーバとともに使用することも可能ですが、Serena では Version Manager Web サーバとの連携動作が確認されている上記のサーバを使用することをお勧めします。

Version Manager Web クライアント

Version Manager Web クライアントは、インターネットまたはイントラネット経由で Version Manager Web サーバがリモートアーカイブに安全にアクセスするためのブラウザベースのインターフェイスです。ブラウザインターフェイスにより、Version Manager Web クライアントにより必要とされるディスク領域が最小限に抑えられ、同時に Version Manager のデスクトップクライアントまたはコマンドラインインターフェイスから使用できる使用頻度の高いタスクが提供されます。これらのタスクには、リビジョンのチェックインとアーカイブからのチェックアウト、リビジョンのロック、バージョンラベルの作成などがあります。

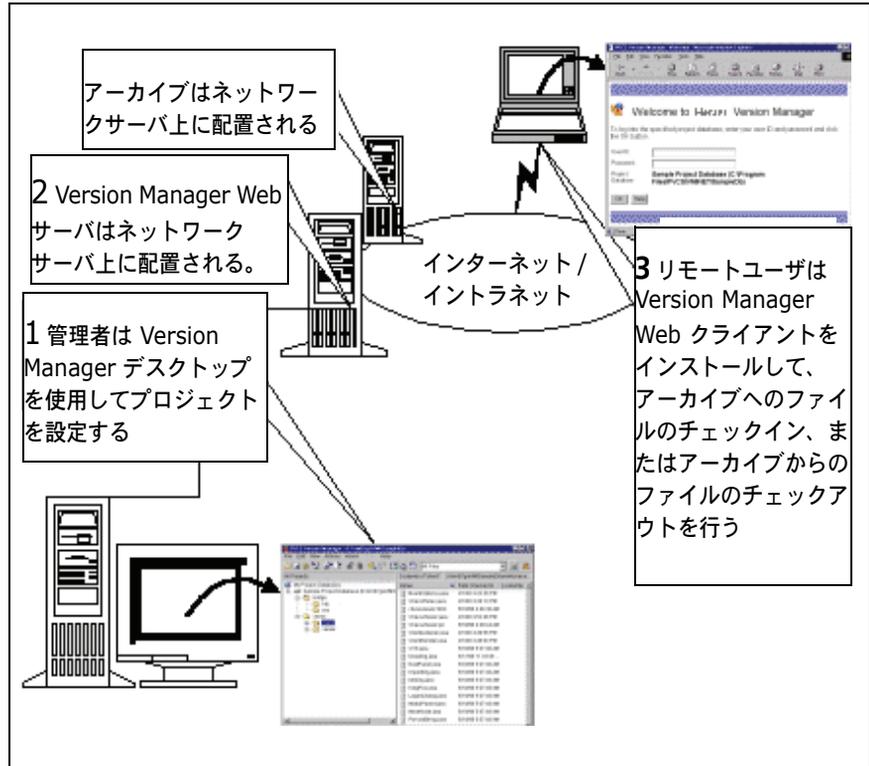


注：Version Manager Web クライアントの詳細については、『Serena PVCS Version Manager Web クライアントユーザガイド』または Version Manager Web クライアントのオンラインヘルプを参照してください。Version Manager デスクトップクライアントの詳細については、製品 DVD-ROM に収められている Version Manager のマニュアルを参照してください。

Version Manager Web クライアントを使用して、プロジェクトデータベースの設定などの管理作業を行うことはできません。セキュリティ上の問題から、これらの作業を実行するには、Version Manager デスクトップクライアントまたはコマンドラインインターフェイスを使用する必要があります。詳細は、[124 ページの『プロジェクトデータベースの操作』](#)を参照してください。

Version Manager コンポーネントの統合

Version Manager のインターネット / イン트라ネット機能を構成するサービスとツールは、次の図に示すように、各層で統合されています。詳細については、図に記載されている各番号のセクションを参照してください。



1. 管理者による設定作業について

管理者は Version Manager を使用して、新しいプロジェクトデータベースやプロジェクトを作成し、既存のプロジェクトデータベースやプロジェクトを設定します。これらのプロジェクトとプロジェクトデータベースは、Version Manager デスクトップクライアントまたは Version Manager コマンドラインインターフェイスから操作することができます。プロジェクト管理は、Version Manager デスクトップクライアントを使用して行います。Version Manager Web クライアントでは実行できません。

2. サーバの設定作業について

Web サーバを実行するシステムに Version Manager Web サーバをインストールします。プロジェクトファイルの配置については、162 ページの『ネットワークポロジの考慮事項』を参照してください。

3. クライアントのセットアップについて

Version Manager Web クライアントはシンクライアントコンポーネントであり、セットアップと管理を簡単に行うことができます。ユーザは、Version Manager Web サーバへ最初に接続したとき、Version Manager Web クライアントアプレットコンポーネントをダウンロードして、インストールします。このアプレットコンポーネントをインストールした後は、管理作業や保守作業を一切行う必要がありません。

リモートユーザは Version Manager Web クライアントをインストールして、アーカイブへのファイルのチェックイン、またはアーカイブからのファイルのチェックアウトを行う Version Manager デスクトップクライアントまたはコマンドラインインターフェイスを使用して、これらのアーカイブを管理します。詳細については、『Serena PVCS Version Manager Web クライアントユーザガイド』を参照してください。

インストールの前に

Version Manager Web クライアントまたは Web サーバをインストールする前に、次の事項を確認してください。

readme ファイルの確認

Version Manager Web サーバをインストールする前に、Version Manager の readme ファイル (readmevm.html) で最新情報を確認してください。このファイルには、Version Manager のほかのマニュアルには含まれていない最新情報が記載されています。

必要なシステム構成

Version Manager Web サーバは、Windows および UNIX オペレーティングシステムでサポートされています。サポートされているプラットフォーム、バージョン情報、必要なディスク容量については、readme ファイルを参照してください。

インストール後の作業

Version Manager Web サーバに接続するには、Version Manager Web クライアントアプレットをダウンロードして、インストールする必要があります。自動インストール機能を使用してアプレットをインストールする方法については、『Serena PVCS Version Manager Web クライアントユーザガイド』を参照してください。

Web ブラウザの設定

この後のセクションでは、UNIX での Netscape Communicator の設定方法、および Windows Microsoft Internet Explorer の設定方法について説明します。

UNIX での Netscape Communicator の使用

自動インストール機能を使用して、UNIX 上にクライアントアプレットをインストールできます。この機能を実行するには、サポートされているバージョンの UNIX プラットフォーム用 Netscape Communicator を使用する必要があります。Netscape インストールファイルのオーナーまたは root としてログインして Netscape を実行した場合に、自動インストール機能を使用できます。詳細については、『Serena PVCS Version Manager Web クライアントユーザガイド』を参照してください。

Microsoft Internet Explorer の設定

- 1 [ツール] メニューの [インターネットオプション] を選択します。
- 2 [全般] タブで【設定】をクリックします。
- 3 〈保存しているページの新しいバージョンの確認〉で、〈ページを表示するごとに確認する〉を選択します。
- 4 最新の JVM パッチを使用していることを確認してください。

第 7 章

Windows への Web サーバの インストール

概要	110
Windows 環境でのセットアッププログラムの実行	111

概要



注： Serena PVCS Version Manager Web サーバをインストールする前に、readme ファイルに記載されているシステム要件を確認してください。

Windows 環境で Version Manager Web サーバをセットアップするには、次の手順を実行します。

- 1 Web サーバをインストールします。Version Manager Web サーバを実行するには、サポートされている Web サーバをインストールする必要があります。146 ページの『Web サーバソフトウェアのインストール』を参照してください。
- 2 Version Manager Web サーバをインストールします。Web サーバシステムに Version Manager Web サーバコンポーネントをインストールするには、インストールプログラムを実行します。111 ページの『Windows 環境でのセットアッププログラムの実行』を参照してください。
- 3 Version Manager のプロジェクトデータベースを作成します。既存のプロジェクトデータベースがない場合は、Version Manager デスクトップクライアントを使用して、プロジェクトデータベースの作成と設定を行います。第 9 章、126 ページの『プロジェクトデータベースの設定』を参照してください。
- 4 Version Manager Web サーバサブレットを設定します。Version Manager の各プロジェクトデータベースについて、Version Manager Web サブレットを設定します。第 10 章、134 ページの『Windows でのサブレットの設定』を参照してください。
- 5 Version Manager Web クライアントおよび Web サーバを起動します。Version Manager Web クライアントを起動するには、106 ページの『3. クライアントのセットアップについて』の手順に従ってください。Web サーバを起動するには、第 12 章、154 ページの『Windows での Web サーバの起動と停止』の手順に従ってください。
- 6 Version Manager Web クライアントコンポーネントをインストールします。『Serena PVCS Version Manager Web クライアントユーザガイド』に説明されているように、Version Manager Web クライアントコンポーネントをシステムにインストールする必要があります。

上記のインストール手順に加え、必要に応じて次の作業を行います。

- セキュリティを管理します。Web サーバおよびネットワークのセキュリティ機能を使って動作するように Version Manager Web サーバを設定できます。第 13 章、158 ページの『アクセスコントロールの使用』を参照してください。
- パフォーマンスを管理します。Version Manager Web サーバを環境に合わせてセットアップし、ネットワーク、システム、Web サーバ、およびプロジェクトの設定に基づいてパフォーマンスを最適化します。第 14 章、161 ページの『パフォーマンスの管理』を参照してください。

Windows 環境でのセットアッププログラムの実行

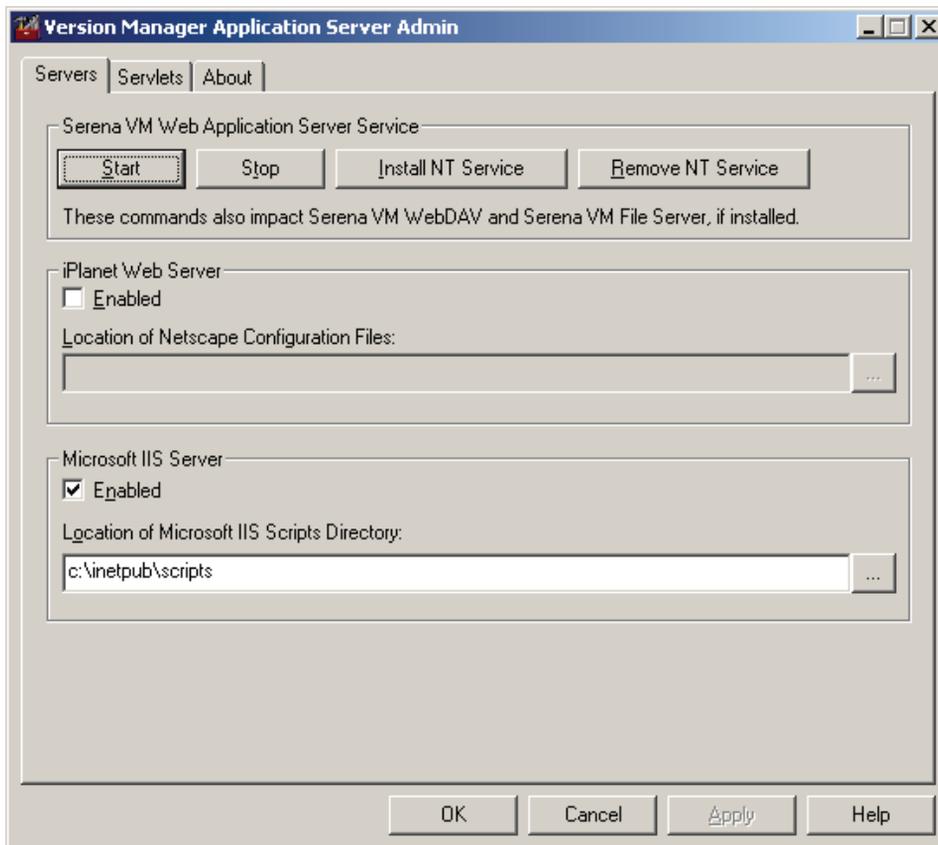
Version Manager Web サーバを Windows にインストールするには、セットアッププログラムを実行し、画面の指示に従って操作します。セットアッププログラムによって、Version Manager Application Server Admin が自動的に起動します。

Windows に Version Manager Web サーバをインストールするには

- 1 アンチウィルスユーティリティ、およびシステム上で実行されている他のすべてのアプリケーションを終了します。
- 2 Web サーバをシャットダウンします。Web サーバのマニュアルを参照してください。
- 3 Version Manager のインストール手順 1 ~ 9 を実行します。55 ページの『DVD-ROM からの Version Manager のインストール』を参照してください。
- 4 [Setup Type (セットアップタイプ)] ウィンドウで、インストールのタイプとして <Web Server (Web サーバ)> オプションを選択します。
- 5 Version Manager のコンポーネントリストで、インストールするコンポーネントとして <Web Server (Web サーバ)> オプションを選択します。
- 6 画面の指示に従って、インストールを完了します。

システム上への Version Manager Web サーバのインストールが完了すると、Version Manager Application Server Admin が自動的に起動します。

Version Manager Application Server Admin の [Servers (サーバ)] タブが表示されます。



- 7 iPlanet Web Server がインストールされているシステムでは、この Web サーバが自動検出された場合、関連情報が自動的に入力されます。
それ以外の場合は、このダイアログボックスの〈iPlanet Web Server〉セクションで次の操作を行います。
 - a 〈Enabled (有効)〉チェックボックスを選択します。
 - b 【Browse (...)】 ボタンをクリックします。
 - c 以下の \config ディレクトリにある obj.conf ファイルの格納場所へ移動します。
`<iPlanet_Install_Dir>\https-<サーバ名>`

- 8 システムに Microsoft Internet Information Services がインストールされており、Microsoft Internet Information Services が自動検出された場合は、関連情報が自動的に入力されます。それ以外の場合は、このダイアログボックスの〈Microsoft IIS Server〉セクションで次の操作を行います。
 - a 〈Enabled (有効)〉チェックボックスを選択します。
 - b 【Browse (...)] ボタンをクリックします。
 - c スクリプトディレクトリの場所に移動します。
- 9 (省略可能) 有効にしたサブレットを、Version Manager Web サーバへほぼ常時アクセスできるサービスとして実行するには、【Install NT Service (NT サービスに登録)】をクリックします。その後、NT サービスとしてのサブレットの実行を中止するには、【Remove NT Service (NT サービスから削除)】ボタンをクリックします。



注：【Install NT Service (NT サービスに登録)】または【Remove NT Service (NT サービスから削除)】のどちらをクリックしても、現在実行している Version Manager Web サーバには影響しません。この操作は、マシンを次に起動したとき有効になります。

- 10 【OK】をクリックして設定を適用し、Version Manager Application Server Admin を閉じます。
- 11 148 ページの『Web サーバインスタンスの起動と停止』に記載されている手順に従って、Web サーバを起動します。
- 12 Version Manager Web サーバを単にデフォルトの SampleDB プロジェクトで実行する場合は、第 12 章、153 ページを参照してください。それ以外の場合は、第 9 章、123 ページを参照してください。

仮想 Web ディレクトリの設定

Microsoft Internet Information Services の場合、Version Manager Web サーバのインストール時に、仮想 Web ディレクトリと ISAPI フィルタが自動的に設定されます。

インストール時に自動設定される仮想 Web ディレクトリと ISAPI フィルタを確認するには、以下の説明に従って、これらを手動で設定します。

仮想 Web ディレクトリと ISAPI フィルタを手動で設定するには、次の操作を行います。

- 1 Windows 2000 で、IIS 5 の Microsoft 管理コンソールを起動します。
[Start (スタート)] – [Settings (設定)] – [Control Panel (コントロールパネル)] – [Administrative (管理ツール)]
[Tools (ツール)] – [Computer Management (コンピュータの管理)] – [Services & Applications (サービスとアプリケーション)] – [Internet Information Services (インターネットインフォメーションサービス)] を順に選択します。

Microsoft 管理コンソールが表示されます。
- 2 <Default Web Site (既定の Web サイト)> を右クリックし、<Properties (プロパティ)> を選択します。
- 3 [ISAPI Filters (ISAPI フィルタ)] タブを選択します。
- 4 [Add (追加)] をクリックします。[Filter Properties (フィルタのプロパティ)] ダイアログボックスが表示されます。
- 5 <Filter Name (フィルタ名)> フィールドに、jakarta と入力します。
- 6 <VM_Install_Dir>\vm\common\tomcat\
bin\win32 ディレクトリに移動し、isapi_redirect.dll ファイルを選択します。
- 7 [OK] をクリックして、Microsoft 管理コンソールに戻ります。
- 8 vminet_temp 仮想 Web ディレクトリを作成します。
 - a <Default Web Site (既定の Web サイト)> を右クリックし、[New (新規作成)] – [Virtual Directory (仮想ディレクトリ)] を選択します。
 - b エイリアスとして、vminet_temp と入力します。
 - c [Next (次へ)] をクリックします。
 - d 物理パスとして、次のパスを入力するか、一覧から選択します。
<VM_Install_Dir>\vm\inet\temp\html
 - e [Next (次へ)] をクリックします。
 - f [Finish (終了)] をクリックします。
- 9 vminet_images 仮想ディレクトリを作成します。

- a <Default Web Site (既定の Web サイト)> を右クリックし、[New (新規作成)] – [Virtual Directory (仮想ディレクトリ)] を選択します。
 - b エイリアスとして、vminet_images と入力します。
 - c 【Next (次へ)】 をクリックします。
 - d 物理パスとして、次のパスを入力するか、一覧から選択します。
`<VM_Install_Dir>\vm\common\tomcat\webapps\
vminet\vminet_images`
 - e 【Next (次へ)】 をクリックします。
 - f 【Finish (終了)】 をクリックします。
- 10** vminet_books 仮想ディレクトリを作成します。
- a <Default Web Site (既定の Web サイト)> を右クリックし、[New (新規作成)] – [Virtual Directory (仮想ディレクトリ)] を選択します。
 - b エイリアスとして、vminet_books と入力します。
 - c 【Next (次へ)】 をクリックします。
 - d 物理パスとして、次のパスを入力するか、一覧から選択します。
`<VM_Install_Dir>\books\vm\vmbooks`
 - e 【Next (次へ)】 をクリックします。
 - f 【Finish (終了)】 をクリックします。
- 11** jakarta 仮想ディレクトリを作成します。
- a <Default Web Site (既定の Web サイト)> を右クリックし、[New (新規作成)] – [Virtual Directory (仮想ディレクトリ)] を選択します。
 - b エイリアスとして、jakarta と入力します。
 - c 【Next (次へ)】 をクリックします。
 - d 物理パスとして、次のパスを入力するか、一覧から選択します。
`<VM_Install_Dir>\vm\common\tomcat\
bin\win32`
 - e スクリプトおよび実行ファイルの実行アクセス権を設定します。
 - f 【Next (次へ)】 をクリックします。

g 【Finish (終了)】をクリックします。



注：Windows フォルダオプションが隠しファイルまたはシステムファイルを表示しないように設定されている場合は、この手順に示されているファイルを参照して選択することはできません。Windows エクスプローラで、フォルダオプションが「すべてのファイルを表示する」ように設定されていることを確認してください。

- 12** Microsoft 管理コンソールを終了します。
- 13** (省略可能) 有効にしたサブレットを、Version Manager Web サーバへほぼ常時アクセスできるサービスとして実行するには、【Install NT Service (NT サービスに登録)】をクリックします。その後、NT サービスとしてのサブレットの実行を中止するには、【Remove NT Service (NT サービスから削除)】 ボタンをクリックします。



注：【Install NT Service (NT サービスに登録)】または【Remove NT Service (NT サービスから削除)】のどちらをクリックしても、現在実行している Version Manager Web サーバには影響しません。この操作は、Version Manager Web サーバを次に起動したとき有効になります。

- 14** 【OK】をクリックして設定を適用し、Version Manager Application Server Admin を閉じます。
- 15** 148 ページの『Web サーバインスタンスの起動と停止』に記載されている手順に従って、Web サーバを起動します。
- 16** Version Manager Web サーバを単にデフォルトの SampleDB プロジェクトで実行する場合は、第 12 章、153 ページを参照してください。それ以外の場合は、第 9 章、123 ページを参照してください。

第 8 章

UNIX への Web サーバのインストール

目次

UNIX への Version Manager Web サーバの インストールの概要	118
UNIX への Version Manager Web サーバの インストール	119
既存の NFSMAP ファイルの使用	122

UNIX への Version Manager Web サーバのインストールの概要



注：Serena PVCS Version Manager Web サーバをインストールする前に、[readme](#) ファイルに記載されているシステム要件を確認してください。

UNIX 環境で Version Manager Web サーバをセットアップするには、次の手順を実行します。

- 1 Web サーバをインストールします。Version Manager Web サーバを実行するには、サポートされている Web サーバをインストールする必要があります。[146 ページの『Web サーバソフトウェアのインストール』](#)を参照してください。
- 2 Version Manager Web サーバをインストールします。Web サーバシステムに Version Manager Web サーバをインストールするには、インストールプログラムを実行します。[119 ページの『UNIX への Version Manager Web サーバのインストール』](#)を参照してください。
- 3 Version Manager のプロジェクトデータベースを作成します。既存のプロジェクトデータベースがない場合は、Version Manager デスクトップクライアントを使用して、プロジェクトデータベースの作成と設定を行います。[第 9 章、123 ページ](#)を参照してください。
- 4 Version Manager Web サーバサブレットを設定します。Version Manager の各プロジェクトデータベースについて、Version Manager Web サブレットを設定します。[第 10 章、139 ページの『UNIX での Version Manager Web サーバ サブレットの設定』](#)を参照してください。
- 5 Version Manager Web クライアントコンポーネントをインストールします。Web ブラウザの各インストールごとに Version Manager Web クライアントコンポーネントをインストールする必要があります。[107 ページの『UNIX での Netscape Communicator の使用』](#)を参照してください。

上記のインストール手順に加え、必要に応じて、次の作業を行うこともできます。

- ライセンスを管理します。Version Manager Web クライアントでは、ライセンス情報を表示し、ライセンスの通知を設定し、評価ライセンスをアップグレードすることができます。[第 2 章、29 ページ](#)を参照してください。
- セキュリティを管理します。Web サーバおよびネットワークのセキュリティ機能を使って動作するように Version Manager Web サーバを設定できます。[第 13 章、157 ページ](#)を参照してください。

- パフォーマンスを管理します。Version Manager Web サーバを環境に合わせてセットアップし、ネットワーク、システム、Web サーバ、およびプロジェクトの設定に基づいてパフォーマンスを最適化します。第 14 章、161 ページの『パフォーマンスの管理』を参照してください。

UNIX への Version Manager Web サーバの インストール

Version Manager デスクトップクライアントと Version Manager Web サーバの両方を使用するための権限をユーザに与えるには、次のガイドラインに従います。

- Version Manager を setuid モードで実行する場合は、権限が失われないよう、同じユーザ ID を使用して Version Manager Web サーバをインストールしてください (Version Manager Web サーバアプリケーションは setuid モードでは実行できません)。
- Version Manager を setuid モードで実行しない場合は、Version Manager Web サーバのグループ ID が Version Manager ユーザのグループ ID と同じであることを確認してください。
- Version Manager Web サーバをルートとしてインストールしないでください。

以下の Web サーバのガイドラインに従ってください。

- サポートされている Web サーバがインストールされていることを確認してください。
- Web サーバをインストールするディレクトリを確認します。たとえば、Web サーバが iPlanet で、`/opt/iplanet` にインストールされている場合、これが Web サーバのルートディレクトリになります。Web サーバのルートディレクトリがわからない場合は、システム管理者に問い合わせてください。
- 製品マニュアルの説明に従って、Web サーバを設定します。
- iPlanet の場合、Version Manager Web サーバのインストール時に使用した Version Manager Web サーバユーザ ID に、Web サーバの設定ディレクトリと次の場所にある `obj.conf` ファイルの読み取り権限があることを確認してください。

```
/<iPlanet_Install_Dir_>/https-<サーバ名>/config
```

<iPlanet_Install_Dir> は Web サーバがインストールされているディレクトリ、<サーバ名> は https サーバの名前です。

その他のガイドラインは以下のとおりです。

- ほかの Serena Professional 製品をインストールする予定がある場合は、インストールパスの最後を Serena とし、これをすべての Serena 製品のインストールルートとして使用します。
- Version Manager Web サーバのライセンス版をインストールする場合は、プロンプトが表示されたら、ライセンスサーバマシン名を入力します。30 日間の評価版をインストールする場合は、このプロンプトに何も入力しないでください。

UNIX に Version Manager Web サーバをインストールするには、次の操作を行います。

- 1 iPlanet を使用している場合は Web サーバを終了します。Administration Server はそのまま実行しておきます。



注：Web サーバの終了の詳細については、Web サーバに付属のマニュアルを参照してください。

- 2 Version Manager Web サーバをインストールするディレクトリに対して、権限が与えられていることを確認します。
- 3 Version Manager のインストール手順 1 ~ 10 を実行します。73 ページの『DVD-ROM からの Version Manager のインストール』を参照してください。
- 4 Version Manager のコンポーネントリストで、インストールするコンポーネントとして〈Serena ChangeMan Version Manager Web Server for UNIX〉を選択します。
- 5 画面の指示に従って、インストールを完了します。
- 6 インストールの途中で、Version Manager Web サーバ用としてどの Web サーバを使用するかを指定する必要があります。ENTER キーを押してデフォルト設定をそのまま使用するか、N と入力して別の Web サーバを選択します。

インストール後の手順

インストール時に、iPlanet または Apache Web サーバを設定するよう選択した場合、追加の手順を実行してインストールを完了する必要があります。

Web サーバを設定するには、次の操作を行います。

- 1 ルートとしてログインします。
- 2 Web サーバが停止していることを確認します。
- 3 以下のいずれかを実行します。
 - iPlanet の場合
 - a `<iPlanet_Install_Dir>/https-<サーバ名>/config` にある `obj.conf` ファイルのバックアップを作成します。
 - b `obj.conf` ファイルを、`<VM_Install_Dir>/vm/inet/install` にある `pvcs_ipplanet_obj.conf` ファイルに置き換えます。
 - Apache の場合
 - a `<Apache_Install_Dir>/conf` から `httpd.conf` ファイルを開き、次の行を追加します。

```
include <VM_Install_Dir>/vm/inet/install/  
httpd_pvcs.conf
```
 - b `http.conf` ファイルを保存して、閉じます。
- 4 Web サーバにコンフィグレーションファイルを再度読み込みます。詳細は、Web サーバのマニュアルを参照してください。
- 5 155 ページの『UNIX での Web サーバの起動または停止』に記載されている手順に従って、Version Manager Web サーバを起動します。
- 6 148 ページの『Web サーバインスタンスの起動と停止』の説明に従って、Web サーバを再起動します。
- 7 サンプルプロジェクトにアクセスするには、Web ブラウザを起動し、次の URL に移動します。
 - a `http://<サーバ名>:<ポート>/vminet.html`
`<サーバ名>:<ポート>` は、Web サーバの設定時に指定したサーバ名とポート番号です。

既存の NFSMAP ファイルの使用

Version Manager Web サーバをインストールすると、デフォルトでは、`<VM_Install_Dir>/vm/common/bin/<os>` ディレクトリに NFSMAP ファイルが追加されます。ただし、既存の NFSMAP ファイルを使用することもできます。

既存の NFSMAP ファイルを使用するには、次の操作を行います。

次のディレクトリにある NFSMAP ファイルを、既存の NFSMAP ファイルへのリンクに置き換えます。

`<VM_Install_Dir>/vm/common/bin/<os>`

第 9 章

Version Manager プロジェクトデータベースの作成

概要	124
プロジェクトデータベースの操作	124
プロジェクトデータベースの設定	126
ユーザと権限の設定	126

概要

Serena PVCS Version Manager Web サーバの処理対象は、既存の Version Manager プロジェクトです。既存のプロジェクトデータベースがない場合は、Version Manager デスクトップクライアントを使用して、プロジェクトデータベースの作成と設定を行います。Version Manager Web サーバを使用するには、事前にプロジェクトデータベースを作成し設定しておく必要があります。

Version Manager Web サーバを一度インストールすれば、その後に再インストールしなくても、必要に応じて新規に設定したプロジェクトデータベースにアクセスすることができます。

プロジェクトデータベースの作成と設定の詳細については、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

プロジェクトデータベースの操作

「プロジェクトデータベース」は、関連する複数のプロジェクトについての一般情報が含まれている特殊なプロジェクトデータファイルです。たとえば、プロジェクト名、フォルダ名、アーカイブディレクトリの場所、作業ファイルディレクトリの場所、コンフィグレーションファイルの場所などが保存されます。プロジェクトデータベースは、ほかのプロジェクトデータファイルとともに、Version Manager デスクトップクライアントで指定したディレクトリに格納されます。

Version Manager Web サーバを設定するには、Version Manager Web インターフェイスを使用して、アクセスするプロジェクトデータベースの場所を指定する必要があります。

新規プロジェクトデータベースの設定

Version Manager Web サーバで使用する新しいプロジェクトデータベースを作成する場合、Version Manager デスクトップクライアントのプロジェクトデータベースの保存先として、デフォルトの場所をそのまま使用するか、または別の場所を選択できます。

既存のプロジェクトデータベースの使用

Version Manager Web サーバでは、Version Manager で作成したプロジェクトデータベースを使用できます。これらのプロジェクトデータベース、およびプロジェクトデータベースに格納されているバージョン管理ファイルは、Version Manager Web クライアントインターフェイスを使用して操作することができます。

Version Manager Web サーバで既存のプロジェクトデータベースを使用する場合、特別な管理作業は一切必要ありません。ただし、サブレットを設定するには、プロジェクトデータベースの場所を知っている必要があります。

Version Manager Web クライアントとデスクトップクライアントの両方からプロジェクトデータベースにアクセスする場合、Version Manager Web クライアントで使用するユーザ名とパスワードが、Version Manager デスクトップクライアントで使用するユーザ名とパスワードと異なる可能性があります。ログインを効率的に行うには、Version Manager Web クライアントインターフェイス、Version Manager デスクトップクライアント、またはコマンドラインインターフェイスを使用してプロジェクトデータベースにアクセスするすべてのユーザの名前とパスワードが格納されたアクセスコントロールデータベースを設定します。Version Manager のすべてのインターフェイスで、同じアクセスコントロールデータベースを使用できます。詳細については、[126 ページの『ユーザと権限の設定』](#)を参照してください。

プロジェクトデータベースの削除

Version Manager Web サーバからプロジェクトデータベースを削除するには、対応するサブレットを削除します。詳細については、[第 10 章、138 ページの『Windows でのサブレットの削除』](#)または [第 10 章、143 ページの『UNIX でのサブレットの削除』](#)を参照してください。

プロジェクトデータベースの設定

Version Manager のほかのコンポーネントと同様、Version Manager Web サーバの動作も、プロジェクトデータベースのコンフィグレーションオプションの影響を受けます。たとえば、ユーザ権限の設定を変更して、リビジョンへのバージョンラベルの割り当てを行えないようにすると、それらのユーザの Version Manager Web クライアントインターフェイスでは、対応するボタンが使用できなくなります。



注：Version Manager Web クライアントには、イベントトリガの設定以外、デスクトップクライアントで定義されたすべての設定が適用されます。イベントトリガは、クライアントシステムではなく、Web サーバシステムで起動されます。この点が、Version Manager のほかのコンポーネントが使用するイベントトリガと異なっています。

ユーザと権限の設定

Version Manager Web サーバでは、Version Manager Web インターフェイスで使用するユーザと権限を 2 つの方法で設定できます。「アクセスコントロール」と「Version Manager Web クライアントのユーザ名」です。

アクセスコントロールの使用

アクセスコントロールは Version Manager の機能の 1 つで、ユーザが Version Manager プロジェクトデータベースにアクセスする方法を制御することができます。この機能を使用して、ユーザとユーザグループを定義し、各ユーザに権限を設定します。

アクセスコントロールを設定するには、Version Manager デスクトップクライアントを使用します。アクセスコントロールを設定した後は、Version Manager Web クライアントがログインするとき、管理者が定義したユーザ名とパスワードに基づいてプロジェクトデータベースへのアクセスが制御されます。さらに、Version Manager Web クライアントは、特定の機能および特定のアーカイブについて、ユーザごとに設定されたアクセス権設定に従います。したがって、ユーザが Version Manager デスクトップクライアントおよび Version Manager Web クライアントにログインするときは、アクセスコントロールデータベースで定義されているユーザ名を使用する必要があります。

アクセスコントロールデータベースにユーザ名のみが格納されており、対応するパスワードが割り当てられていない場合は、[127 ページの『デフォルトのパスワードの使用』](#)で説明されているように、デフォルトのパスワードマスクが使用されます。このデフォルトのパスワードマスクは、Version Manager Web クライアントのユーザ名から、対応するパスワードを生成するためのパターンです。

ネットワークファイアウォールの外で使用するすべてのプロジェクトデータベースについて、アクセスコントロールを設定してください。

Version Manager Web クライアントのユーザ名

プロジェクトデータベースでアクセスコントロールを使用しない場合は、Version Manager Web クライアントのユーザ名とパスワードを使用することができます。これは、高度なセキュリティを必要としないプロジェクトデータベース向けの機能です。

Version Manager Web クライアントのユーザ名を使用して、Version Manager Web クライアントへのログイン時にユーザ独自のユーザ名を作成し、デフォルトのパスワード機能を使用できます。パスワードによる保護については、[『デフォルトのパスワードの使用』](#)を参照してください。

ユーザ作成の詳細については、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

デフォルトのパスワードの使用

デフォルトのパスワード機能を使用して、Version Manager Web クライアントのユーザ用にデフォルトのパスワードマスクを指定できます。デフォルトパスワードマスクは、Version Manager Web クライアントが、ユーザ名を基にしてパスワードを生成するためのパターンです。デフォルトのパスワードマスクを指定した場合でも、Version Manager Web クライアントのユーザは各自のパスワードを変更できることに注意してください。プロジェクトデータベースに対してアクセスコントロールを設定している場合は、変更されたパスワードも Version Manager デスクトップクライアントで必要になります。

デフォルトのパスワードマスクのプロパティを設定することによって、デフォルトのパスワードをサポートするように Version Manager Web クライアントを設定します。パスワードマスクのデフォルト値は `!{0}` です。`{0}` は、ユーザのユーザ ID です。たとえば、ユーザ `johnd` のデフォルトパスワードは `!johnd` です。

デフォルトのパスワードマスクの定義については、[130 ページの『Version Manager Web サーバサブレットのコンフィグレーション設定』](#)を参照してください。

第 10 章

Web サーバサブレットの設定

Version Manager Web サーバサブレットについて	130
Version Manager Web サーバサブレットの コンフィグレーション設定	130
Windows でのサブレットの設定	134
UNIX での Version Manager Web サーバ サブレットの設定	139
サブレットへのアクセス	144

Version Manager Web サーバサブレットについて

Serena PVCS Version Manager Web サーバサブレットは、Version Manager Web サーバのサーバ側コンポーネントを形成する「Java サブレット」です。Java サブレットは、Web サーバの機能を拡張するために設計された、特殊な Java オブジェクトです。Web サーバシステムに Version Manager をインストールするとき、サブレットを構成する Java クラスもインストールします。

ユーザがサブレットの URL を開いてプロジェクトデータベースにログインすると、Version Manager サブレットが自動的にロードされます。サブレットの URL は、新しいサブレットを Web サーバに追加する際に定義します。この際、Windows では Version Manager Application Server Admin を使用します。UNIX では、UNIX のテキストエディタを使用して web.xml ファイルを変更します。ロードしたサブレットは、Web サーバの実行中はアクティブなままとなります。

Version Manager Web サーバサブレットの コンフィグレーション設定

このセクションでは、サブレットを追加または変更するときに定義するサブレットのコンフィグレーション設定について説明します。

これらの設定を Windows 環境で指定する方法については、[134](#) ページ以降の説明を参照してください。UNIX 環境で指定する方法については、[139](#) ページ以降の説明を参照してください。

サブレット名

「サブレット名」は、Web サーバがサブレットを識別するために使用する名前です。[Project Databases (プロジェクトデータベース)] ページを使用して Version Manager Web サーバに接続すると、Version Manager Web クライアントインターフェイスにこの名前が表示されます。

UNIX の場合、web.xml ファイルで servlet-name コンフィグレーション引数を設定します。

説明

サーバプレットの「説明」は、サーバプレットに関連付けられたプロジェクトデータベース内のプロジェクトについての説明です。[Project Databases (プロジェクトデータベース)] ページ (vminet.html) から Version Manager Web サーバに接続すると、Version Manager Web クライアントインターフェイスにこの説明が表示されます。UNIX の場合、web.xml ファイルで description コンフィグレーション引数を設定します。

サーバプレット URL

「サーバプレット URL」は、サーバプレットの相対 URL です。サーバプレットの絶対 URL は、Web サーバのホスト名および選択したサーバプレット URL から生成されます。次に URL の例を示します。

```
http://<サーバ名>:<ポート>/MyServlet
```

MyServlet がサーバプレット URL です。ユーザが Version Manager Web サーバサーバプレットに接続する際は、上記のような完全修飾 URL を開きます。

UNIX の場合は、web.xml ファイルで url-pattern コンフィグレーション引数を設定します。

プロジェクトデータベース / ルート (Windows) と rootPath (UNIX)

プロジェクトデータベースまたはルートには、Version Manager によって管理されるデータファイル (pvcsproj.pub) が含まれます。このファイルには、関連するプロジェクトグループについての一般情報が格納されます。たとえば、グループ内のプロジェクトの名前や、コンフィグレーションファイル、アーカイブディレクトリ、作業ファイルディレクトリの場所などが格納されます。

Windows では、Version Manager Application Server Admin を使ってプロジェクトデータベースサーバプレット属性を設定します。UNIX では、web.xml ファイルで rootPath コンフィグレーション引数を設定します。

サーバプレットに関連付けるプロジェクトデータベースまたは rootPath 設定を指定します。サーバプレットを追加すると、プロジェクトデータベースまたは rootPath 内のすべてのプロジェクトを Version Manager Web サーバで使用できるようになります。各サーバプレットは、それぞれ 1 つのプロジェクトデータベースまたは rootPath に関連付けることができます。

サーバ (Windows) と serverName (UNIX)

〈Server (サーバ)〉および serverName コンフィグレーション設定では、プロジェクトデータベース内でリンクを生成するとき、Version Manager Web サーバで Web サーバの名前を使用するか、Web サーバの IP アドレスを使用するかを指定できます。Web サーバで、動的に割り当てられた IP アドレスを使用する場合は、サーバ名を使用できます。

UNIX の場合、web.xml ファイルで serverName コンフィグレーション引数を設定します。

Web Server Application URL (Windows) と trackerName および trackServerType (UNIX)

〈Web Server URL〉および trackerName 設定は、Tracker または TeamTrack Web クライアントで使用できる関連 Tracker または TeamTrack プロジェクトの URL です。【Tracker】または【TeamTrack】ボタンをクリックすると、新しい Web ブラウザウィンドウにこのプロジェクトのページが表示されます。

UNIX の場合、web.xml ファイルで trackerName および trackServerType の各コンフィグレーション引数を設定します。139 ページの『UNIX でのサーバサブレットの追加』を参照してください。

デフォルトパスワード (Windows) と defaultPassword (UNIX)

〈default password (デフォルトのパスワード)〉設定を使用して、Version Manager Web クライアントユーザのデフォルトパスワードマスクを指定できます。デフォルトパスワードマスクは、Version Manager Web クライアントが、ユーザ名を基にしてパスワードを生成するためのパターンです。

次のプロジェクトでデフォルトパスワード機能を使用できます。

- Version Manager Web クライアントのユーザ名を使用してユーザを識別するプロジェクト
- ユーザの識別にアクセスコントロールデータベースを使用するが、ユーザ名に関連するパスワードがないプロジェクト

パスワードマスクのデフォルト値は `!{0}` です。`{0}` は、ユーザのユーザ ID です。たとえば、ユーザ `johnd` のデフォルトパスワードは `!johnd` です。ただし、`{0}` にユーザ ID 以外の文字列を指定することによって、任意のパスワードマスクを指定できます。



注：`{0}` という指定はこの形で使用してください。中かっこ `{ }` は、これ以外の方法では使用できません。

UNIX の場合、`web.xml` ファイルで `defaultPassword` コンフィグレーション引数を設定します。

ログインタイムアウト (Windows) と logtimeout (UNIX)

ログインタイムアウト (Windows) および `logtimeout` (UNIX) コンフィグレーション設定では、Version Manager Web クライアントユーザの最大許容アイドル時間を分単位で指定できます。この許容時間が経過すると、Version Manager Web クライアントはログインセッションを終了します。ログインセッションが終了した場合、ユーザはプロジェクトデータベースに再度ログインする必要があります。ログインタイムアウトおよび `logtimeout` 設定は、サブレットのすべてのユーザに対するグローバル設定です。ログインタイムアウトを指定しない場合は、アイドル状態のユーザが Version Manager Web クライアントからログアウトされません。

UNIX の場合、`web.xml` ファイルで `logtimeout` コンフィグレーション引数を設定します。

日付 / 時間の形式 (Windows) と DateTimeFormat (UNIX)

〈Date/Time Format (日付 / 時間の形式)〉 (Windows) および `DateTimeFormat` (UNIX) コンフィグレーション設定では、日付と時間の表示形式を指定できます。標準の形式は、日付は `mm/dd/yyyy`、時刻は `HH:mm:ss` です。表示形式を指定しない場合は、デフォルトの Java 日付 / 時間形式が使用されます。

UNIX の場合、`web.xml` ファイルで `DateTimeFormat` コンフィグレーション引数を設定します。

Windows でのサブレットの設定

Version Manager Web サーバを Windows 上にインストールするとき、Version Manager Application Server Admin を使用してサブレットの追加と設定を行います。サブレットを追加して設定すると、それらのサブレットを使用してプロジェクトデータベースにアクセスできるようになります。

Windows 上での Version Manager Application Server Admin の起動

Version Manager Web サーバの設定を変更するには、[Start (スタート)] – [Programs (プログラム)] – [Serena] – [ChangeMan Version Manager] – [Version Manager Application Server] の順に選択して、Version Manager Application Server Admin を起動します。

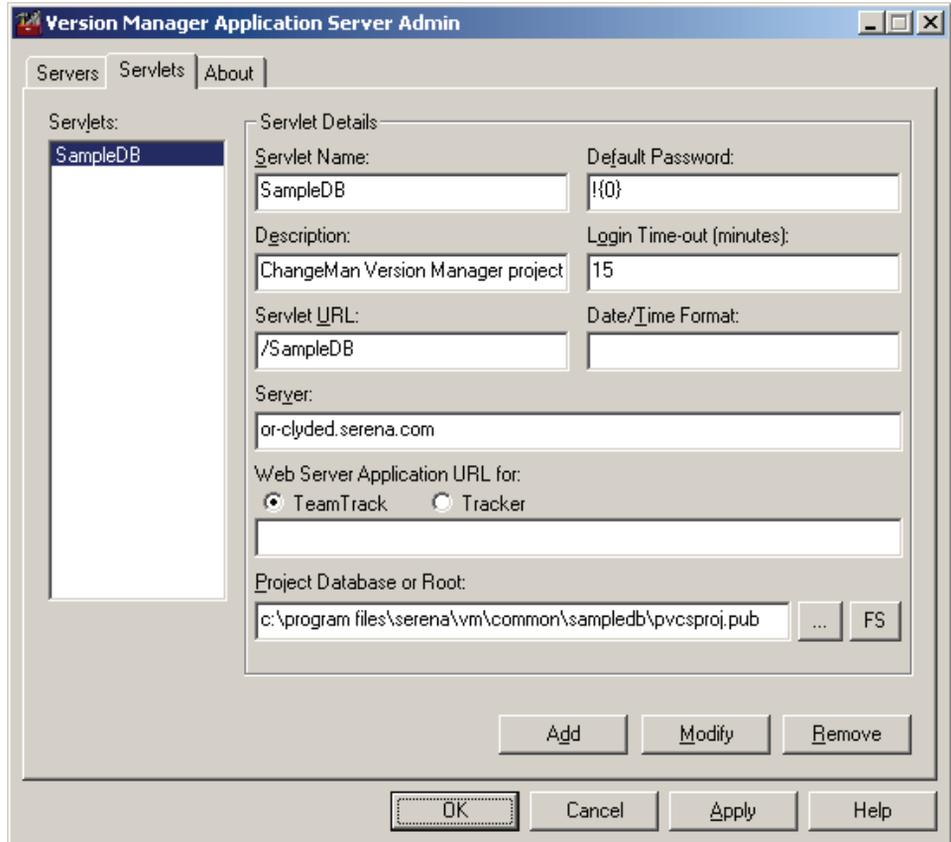
Windows でのサブレットの追加

Version Manager Web サーバサブレットを追加するには、サブレット名、サブレット URL などのサブレットコンフィグレーションオプションを指定し、Version Manager Web サーバで使用するプロジェクトデータベースを選択する必要があります。

サブレットを追加した後は、変更内容を Web サーバに適用する必要があります。Web サーバを再起動し、さらに Version Manager Web サーバを再起動すると変更が有効になります。

サブレットを追加するには、次の操作を行います。

- 1 [Start (スタート)] – [Programs (プログラム)] – [Serena] – [ChangeMan Version Manager] – [Version Manager Application Server] の順に選択して、Version Manager Application Server Admin を起動します。

2 [(Servlets) サーブレット] タブを選択します。

- 3** 〈Servlet Name (サーブレット名)〉フィールドにサーブレットの名前を入力します。
- 4** (省略可能) 〈Description (説明)〉フィールドに、サーブレットの説明を入力します。
- 5** 〈Servlet URL (サーブレット URL)〉フィールドにサーブレットの URL を入力します。入力する URL は、スラッシュ (/) で始まる必要があります。(例: /SampleDB)。
- 6** 〈Server (サーバ)〉フィールドに、サーバの名前または IP アドレスを入力します。

- 7** サブレットに関連付けるプロジェクトデータベースまたはプロジェクトルートの名前とパスを、〈Project Database or Root (プロジェクトデータベース/ルート)〉フィールドに入力します。プロジェクトデータベースの名前またはパスがわからない場合は、【...】ボタンをクリックして、目的のプロジェクトデータベースを選択します。

プロジェクトデータベースのデフォルト名は `pvcspjproj.pub` です。

- 8** (省略可能) 〈Default Password (デフォルトパスワード)〉フィールドに、デフォルトパスワードマスクを入力します。パスワードを使用しない場合は、このフィールドを空白のままにします。

このフィールドのデフォルト値は `!{0}` です。{0} は、各ユーザのユーザ ID です。



注： {0} という指定はこの形で使用してください。中かっこ { } は、これ以外の方法では使用できません。

- 9** 〈Login Time-out (ログアウトタイムアウト)〉フィールドに、ログアウト時間を分単位で入力します。

このフィールドのデフォルト値は 15 分です。ログアウト時間を指定しない場合は、アイドル状態のユーザが Version Manager Web クライアントからログアウトされません。

- 10** 〈Date/Time Format (日付 / 時間の形式)〉フィールドに、サブレットで使用する日付と時間の形式を入力します。標準の形式では、日付は `mm/dd/yyyy`、時間は `hh:mm:ss` です。表示形式を指定しない場合は、デフォルトの Java 日付 / 時間形式が使用されます。

- 11** (省略可能) サブレットを Tracker または TeamTrack Web サーバに関連付ける場合は、〈TeamTrack〉オプションまたは〈Tracker〉オプションを選択し、〈Web Server Application URL〉フィールドに Web サーバの URL を入力します。

`http://tt_server/tmtrack/tmtrack.dll`

ここで、tt_server は TeamTrack ホストの名前です。TeamTrack サーバがデフォルト以外のポート番号（80 以外のポート）を使用している場合は、ポート番号をサーバ名の後に付加します。たとえば、ポート番号が 89 の場合は次のようになります。

```
http://tt_server:89/tmtrack/tmtrack.dll
```



注： TeamTrack SourceBridge を実行するためには、特定の TeamTrack ユーザ権限が必要です。詳細は、SourceBridge のドキュメントを参照してください。

- 12 【Add（追加）】をクリックします。
- 13 【Apply（適用）】をクリックして、変更を適用します。または、【OK】をクリックし、変更を適用してプログラムを終了します。
- 14 154 ページの『Windows での Web サーバの起動と停止』の説明に従い、Version Manager Web サーバを終了して、再起動します。
- 15 148 ページの『Web サーバインスタンスの起動と停止』の説明に従って、Web サーバを再起動します。

Windows でのサーブレットの変更

Version Manager Web サーバサーブレットを変更して、関連付けられているコンフィグレーション設定を変更することができます。サーブレットを変更した後は、それらの変更を適用して、有効にします。

サーブレットを変更するには、次の操作を行います。

- 1 [Start（スタート）] - [Programs（プログラム）] - [Serena] - [ChangeMan Version Manager] - [Version Manager Application Server] の順に選択して、Version Manager Application Server Admin を起動します。
- 2 [Servlets（サーブレット）] タブを選択します。サーブレットの設定が表示されます。
- 3 <Servlets（サーブレット）> リストボックスで、変更するサーブレットを選択します。
- 4 選択したサーブレットのプロパティを編集します。
- 5 【Modify（変更）】をクリックします。

- 6 【Apply (適用)】をクリックして、変更を適用します。または、【OK】をクリックし、変更を適用してプログラムを終了します。
- 7 154 ページの『Windows での Web サーバの起動と停止』の説明に従い、Version Manager Web サーバを終了して、再起動します。
- 8 148 ページの『Web サーバインスタンスの起動と停止』の説明に従って、Web サーバを再起動します。

Windows でのサーブレットの削除

Version Manager Web サーバサーブレットを削除すると、そのサーブレットと関連する設定がシステムから削除されます。サーブレットの削除を適用して、この変更を有効にします。



注：削除したサーブレットは復元できません（つまり、「取り消し」コマンドを使用できません）。サーブレットを復元するには、サーブレットを最初から作成し直す必要があります。

サーブレットを削除するには、次の操作を行います。

- 1 [Start (スタート)] - [Programs (プログラム)] - [Serena] - [ChangeMan Version Manager] - [Version Manager Application Server] の順に選択して、Version Manager Application Server Admin を起動します。
- 2 [Servlets (サーブレット)] タブを選択します。
- 3 <Servlets (サーブレット)> リストボックスで、削除するサーブレットを選択します。
- 4 【Remove (削除)】をクリックします。
- 5 【Apply (適用)】をクリックして、変更を適用します。または、【OK】をクリックし、変更を適用してプログラムを終了します。
- 6 154 ページの『Windows での Web サーバの起動と停止』の説明に従い、Version Manager Web サーバを終了して、再起動します。
- 7 148 ページの『Web サーバインスタンスの起動と停止』の説明に従って、Web サーバを再起動します。

UNIX での Version Manager Web サーバ サブレットの設定

Version Manager Web サーバを使用してサブレットにアクセスするには、サブレットの設定作業を行い、サブレットのプロジェクトデータベースのパスを定義する必要があります。

サブレットのコンフィグレーション設定の詳細については、[130 ページの『Version Manager Web サーバサブレットのコンフィグレーション設定』](#)を参照してください。

UNIX でのサブレットの追加

UNIX でサブレットを追加するには、次の操作を行います。

- 1 次のディレクトリにある web.xml ファイルを開きます。
`VM_Install_Dir/vm/common/tomcat/webapps/vminet/WEB-INF`
- 2 このファイル内で、最初の `<!-- End PVCS section -->` 行の前に以下の行を追加します。太字で示されている値は、新しいサブレットの値に変更します。

```
<servlet>
<servlet-name> New_Servlet </servlet-name> <servlet-class>
pvcs.vm.servlet.VmServlet </servlet-class> <load-on-startup> 0 </load-on-
startup> <description> Sample New_Servlet Description </description>
<init-param> <param-name> rootPath </param-name> <param-value> /usr/pvcs/
vminet/New_Servlet </param-value> </init-param>
<init-param> <param-name> serverName </param-name> <param-value> server </
param-value> </init-param>
</servlet>
```



注：servlet-name、description、rootPath、および serverName の詳細については、[130 ページの『Version Manager Web サーバサブレットのコンフィグレーション設定』](#)を参照してください。

- 3 サブレットのコンフィグレーションオプションを変更するには、上記のサブレットエントリに以下の行を追加します (</servlet> タグの前に追加)。太字で示されている値は変更します。

```
<init-param> <param-name> logtimeout </param-name> <param-value> 15
</param-value> </init-param>
<init-param> <param-name> DateTimeFormat </param-name> <param-value>
</param-value> </init-param>
<init-param> <param-name> defaultPassword </param-name> <param-value> !{0}
</param-value> </init-param>
<init-param> <param-name> trackServerType </param-name> <param-value>
TeamTrack </param-value> </init-param>
<init-param> <param-name> trackerName </param-name> <param-value> http://
trackserver/tmtrack/tmtrack.dll </param-value> </init-param>
```



注：上記の例では TeamTrack の値が使用されます。Tracker の trackServerType 値：
Tracker
デフォルトの trackerName 値：
http://trackserver/trackbin/wtms.dll



注：logtimeout、DateTimeFormat、defaultPassword、trackerName の詳細については、130 ページの『Version Manager Web サーバサブレットのコンフィグレーション設定』を参照してください。

- 4 このファイル内で、2 番目の <!-- End PVCS section --> 行の前に以下の行を追加します。太字で示されている値は、新しいサブレット名に変更します。

```
<servlet-mapping>
<servlet-name> New_Servlet </servlet-name> <url-pattern> /New_Servlet/*
</url-pattern>
</servlet-mapping>
<servlet-mapping>
<servlet-name> New_Servlet </servlet-name> <url-pattern> /New_Servlet
</url-pattern>
</servlet-mapping>
```

- 5 web.xml ファイルを保存して、閉じます。
- 6 iPlanet を使用する場合は、この後の『iPlanet でのサブレットの定義』に記載されている手順を実行します。Apache を使用する場合は、141 ページの『Apache でのサブレットの定義』の手順を実行します。
- 7 155 ページの『UNIX での Web サーバの起動または停止』の説明に従い、Version Manager Web サーバを終了して、再起動します。

- 8 148 ページの『Web サーバインスタンスの起動と停止』の説明に従い、Web サーバを終了して、再起動します。

サブレットを追加した後は、Version Manager Web クライアントで URL をクリックすることによって、そのサブレットにアクセスできます。

iPlanet でのサブレットの定義

iPlanet を使用する場合は、web.xml ファイルに加え、iPlanet コンフィグレーションファイルでも新しいサブレットを指定する必要があります。

iPlanet でサブレットを追加するには、次の操作を行います。

- 1 ルートとしてログインします。
- 2 次のディレクトリにある obj.conf ファイルを開きます。
<iPlanet_Install_Dir>/https-<サーバ名>/config
- 3 <Object name=default> 行の後に以下の行を追加します。太字で示されている値は、サブレット名に置き換えます。

```
NameTrans fn="assign-name" from="/New_Servlet" name=vmServlet
NameTrans fn="assign-name" from="/New_Servlet/*" name=vmServlet
```



注：ここで指定する値は、web.xml ファイルで指定したサブレット名と一致している必要があります。

- 4 obj.conf ファイルを保存して、閉じます。
- 5 155 ページの『UNIX での Web サーバの起動または停止』の説明に従い、Version Manager Web サーバを終了して、再起動します。
- 6 148 ページの『Web サーバインスタンスの起動と停止』の説明に従い、Web サーバを終了して、再起動します。

Apache でのサブレットの定義

Apache を使用する場合は、web.xml ファイルに加え、Apache コンフィグレーションファイルでも新しいサブレットを指定する必要があります。

Apache でサブレットを追加するには、次の操作を行います。

- 1 Version Manager Web サーバをインストールしたユーザとしてログインします。

- 2 次のディレクトリにある `httpd_pvcs.conf` ファイルを開きます。
`<VM_Install_Dir>/vm/inet/install`
- 3 `</IfModule>` 行の前に以下の行を追加します。太字で示されている値は、サーブレット名に置き換えます。

`JkMount /New_Servlet ajp12`
`JkMount /New_Servlet/* ajp12`

ここで指定する値は、`web.xml` ファイルで指定したサーブレット名と一致している必要があります。
- 4 `httpd_pvcs.conf` ファイルを保存して、閉じます。
- 5 155 ページの『UNIX での Web サーバの起動または停止』の説明に従い、Version Manager Web サーバを終了して、再起動します。
- 6 148 ページの『Web サーバインスタンスの起動と停止』の説明に従い、Web サーバを終了して、再起動します。

UNIX でのサーブレットコンフィグレーション設定の変更

既存のサーブレットの設定を変更するには、次の操作を行います。

- 1 次のディレクトリにある `web.xml` ファイルを開きます。
`<VM_Install_Dir>/vm/common/tomcat/webapps/vminet`
`/WEB-INF`
- 2 サーブレットエントリを探し、必要に応じて値を編集します。設定の詳細については、130 ページの『Version Manager Web サーバサーブレットのコンフィグレーション設定』を参照してください。
- 3 `web.xml` ファイルを保存して、閉じます。
- 4 155 ページの『UNIX での Web サーバの起動または停止』の説明に従い、Version Manager Web サーバを終了して、再起動します。
- 5 148 ページの『Web サーバインスタンスの起動と停止』の説明に従って Web サーバを終了し、再起動します。



注：変更を有効にするには、Web サーバと Version Manager Web サーバを再起動する必要があります。

UNIX でのサブレットの削除

既存のサブレットを削除するには、次の操作を行います。

- 1 次のディレクトリにある web.xml ファイルを開きます。

```
<VM_Install_Dir>/vm/common/tomcat/webapps/vminet  
/WEB-INF
```

- 2 削除するサブレットに関連付けられたサブレットエントリを削除します。または、サブレットエントリをコメントアウトします。サブレットエントリをコメントアウトするには、サブレットタグの前後に次の文字を追加します。

```
<!-- <servlet>...</servlet> -->
```

- 3 web.xml ファイルを保存して、閉じます。
- 4 [155 ページの『UNIX での Web サーバの起動または停止』](#)の説明に従い、Version Manager Web サーバを終了して、再起動します。
- 5 [148 ページの『Web サーバインスタンスの起動と停止』](#)の説明に従って Web サーバを終了し、再起動します。



注：変更を有効にするには、Web サーバと Version Manager Web サーバを再起動する必要があります。

サブレットへのアクセス

Version Manager Web サーバにサブレットを追加した後は、Version Manager Web サーバのプロジェクトとして、次のような複数の場所からそのサブレットにアクセスできます。

- Version Manager Web サーバの [Project Database (プロジェクトデータベース)] ページ

サブレットの追加が完了すると、サブレットへのリンクがこのページに表示されます。このページを表示するには、次のように URL を入力します。

`http://<サーバ名>:<ポート>/vminet.html`

- サブレット URL

サブレットの URL を入力して、サブレットに直接アクセスします。

`http://<サーバ名>:<ポート>/<servlet_URL>`

第 11 章

Web サーバのインストールと実行

Web サーバソフトウェアのインストール	146
Web サーバソフトウェアの設定	147
Web サーバセキュリティの設定	147
Web サーバインスタンスの起動と停止	148

Web サーバソフトウェアのインストール

- 1 readme ファイルに記載されている必要なシステム構成を参照し、それらの条件を満たしていることを確認します。
- 2 サポートされている Web サーバプログラムをソフトウェア販売店から購入するか、製造元の Web サイトから正式版または評価版としてダウンロードします。
- 3 (省略可能) Web サーバのホストシステムを選択する前に、[第 14 章、161 ページの『パフォーマンスの管理』](#)のパフォーマンス情報を確認します。
- 4 使用する Web サーバのマニュアルに従って、Web サーバをインストールします。

Apache Web サーバを使用するには動的共有オブジェクトのサポートが必要

Apache Web サーバを使用する場合は、その Web サーバが動的共有オブジェクト (DSO) をサポートしている必要があります。

Apache Web サーバが DSO をサポートしているかどうかを確認するには、Apache がインストールされている bin ディレクトリから以下のコマンドを実行します。

```
./httpd -l
```

上記のコマンドの実行結果として `mod_so.c` と表示された場合、Apache は DSO をサポートしています。

Apache に DSO サポート機能が追加されていない場合は、DSO サポート機能を入手し、Apache をコンパイルして DSO サポート機能を追加するか、または別の Web サーバを使用します。DSO サポート機能の追加手順については、Apache の配布元にある `README.configure` ファイル (Apache 1.3 の場合) または `INSTALL` ファイル (Apache 2.0 の場合) を参照してください。

Web サーバソフトウェアの設定

Web サーバソフトウェアをインストールした後は、使用環境に応じてそのソフトウェアを設定できます。コンフィグレーションオプションには、サーバ名やポート番号などの基本設定があり、拡張オプションには、セキュリティやパフォーマンスの調整があります。

Version Manager Web サーバでは、Web サーバソフトウェアをデフォルト設定のままでも実行できますが、セキュリティを有効にしたり、その環境に合わせて Version Manager Web サーバのパフォーマンスを最適化するなど、設定を変更することができます。

次に、Web サーバの一般的なデフォルト設定について説明します。

- Server Name (サーバ名) : Web サーバおよび Version Manager Web サーバサブレットをインストールするシステムの名前です。デフォルトでは、これは使用するマシンおよびドメイン名です。サーバに DNS エイリアスが設定されている場合は、そのエイリアスをサーバ名として使用できます。
- Port (ポート) : 現在使用されていない、サポートされている任意のポート番号です。デフォルトでは、標準 HTTP ポート番号は 80、標準 HTTPS ポート番号は 443 です。ポート番号を 80 に設定する場合、サーバの URL を指定するときに <port> 変数を指定する必要はありません。

Web サーバを使用するための設定については、Web サーバソフトウェアに同梱されている資料を参照してください。

Web サーバセキュリティの設定

Web サーバセキュリティは、Version Manager Web サーバを含め、Web サーバ上のリソースに対するユーザアクセスを制御します。Version Manager Web サーバでは、Version Manager プロジェクトデータベースの情報を不正ユーザから保護する上で、Web サーバセキュリティが重要な役割を果たします。Serena では、プロジェクトデータやアーカイブをファイアウォールの外側のユーザに公開する場合は、常に、サーバセキュリティを有効にすることを推奨します。

Web サーバには、「アクセスコントロール」と「SSL (Secure Sockets Layer)」という 2 つのセキュリティ機能が備わっています。アクセスコントロールは、ユーザ名とパスワードによる基本的な保護機能です。SSL は、暗号化、データ保全性保護、公開鍵証明による認証を提供する高度なセキュリティ機能です。SSL を有効にするには、Version Manager Web サーバのセットアップ時に、そのための設定を行う必要があります。

Version Manager Web サーバで使用する Web サーバセキュリティを設定する方法については、[第 13 章](#)、[157 ページ](#)を参照してください。

Web サーバインスタンスの起動と停止

Web サーバインスタンスの起動方法は、使用する Web サーバソフトウェアによって異なります。該当するセクションの説明を参照してください。

iPlanet Web Server での Web サーバの起動と停止

以下の手順は、Version Manager Web サーバがインストールされているプラットフォームにかかわらず、iPlanet Web Server を使用する場合に適用されます。

インストール後の最初の起動

インストール後、Web サーバインスタンスを最初に起動するには、以下の手順に従います。

- 1 Web サーバの Administration Server に対して管理者権限が与えられていることを確認します。
- 2 Web サーバの Administration Server にログインします。
- 3 インストールした Version Manager Web サーバの対象となるサーバ名が表示されたボタンをクリックします。
たとえば、サーバに VMWEB という名前を付けた場合は、【VMWEB】ボタンをクリックします。
- 4 表示されたダイアログボックスで【OK】をクリックします。
- 5 Web サーバの Administration Server の最上部にある【Apply (適用)】ボタンをクリックします。
- 6 [Apply Changes (変更の適用)] ページで、〈Load Configuration Files (コンフィグレーションファイルのロード)〉をクリックします。
- 7 [Success (正常終了)] ダイアログボックスで、【OK】をクリックします。
- 8 〈Server ON (サーバ ON)〉をクリックして、Web サーバインスタンスを有効にします。

- 9 [Success (正常終了)] ダイアログボックスで、【OK】をクリックします。

2 回目以降の起動

ここでは、Web サーバインスタンスを停止した後、再起動する手順について説明します。

- 1 Web サーバの Administration Server に対して管理者権限が与えられていることを確認します。
- 2 Web サーバの Administration Server にログインします。
- 3 インストールした Version Manager Web サーバの対象となるサーバ名が表示されたボタンをクリックします。
たとえば、サーバに VMWEB という名前を付けた場合は、【VMWEB】ボタンをクリックします。
- 4 〈Server ON (サーバ ON)〉をクリックして、Web サーバインスタンスを有効にします。
- 5 [Success (正常終了)] ダイアログボックスで、【OK】をクリックします。

Web サーバの停止

- 1 Web サーバの Administration Server に対して管理者権限が与えられていることを確認します。
- 2 Web サーバの Administration Server にログインします。
- 3 インストールした Version Manager Web サーバの対象となるサーバ名が表示されたボタンをクリックします。
たとえば、サーバに VMWEB という名前を付けた場合は、【VMWEB】ボタンをクリックします。
- 4 表示されたダイアログボックスで【OK】をクリックします。
- 5 〈Server OFF (サーバ OFF)〉をクリックして、Web サーバインスタンスを無効にします。
- 6 [Success (正常終了)] ダイアログボックスで、【OK】をクリックします。

Microsoft Internet Information Services の起動と停止

次の手順は、Windows プラットフォームで Microsoft Internet Information Services (IIS) を使用する場合にのみ適用されます。

Microsoft Internet Information Services での Web サーバの 起動

Windows で Microsoft Internet Information Services の Web サーバインスタンスを起動するには、次の手順を実行します。

- 1 [Start (スタート)] – [Settings (設定)] – [Control Panel (コントロールパネル)] の順に選択し、[Administrative Tools (管理ツール)] をダブルクリックします。次に、[Services (サービス)] をダブルクリックします。
- 2 〈Service (サービス)〉 リストボックスで、〈World Wide Web Publishing Service〉を選択します。
- 3 【Start (開始)】をクリックします。
- 4 【Close (閉じる)】をクリックします。

Microsoft Internet Information Services での Web サーバの 停止

Windows で Microsoft Internet Information Services の Web サーバインスタンスを停止するには、次の手順を実行します。

- 1 [Start (スタート)] – [Settings (設定)] – [Control Panel (コントロールパネル)] の順に選択し、[Administrative Tools (管理ツール)] をダブルクリックします。次に、[Services (サービス)] をダブルクリックします。
- 2 〈Service (サービス)〉 リストボックスで、〈World Wide Web Publishing Service〉を選択します。
- 3 【Stop (停止)】をクリックします。
- 4 確認メッセージが表示されたら、【Yes (はい)】をクリックします。
- 5 【Close (閉じる)】をクリックします。

Apache Web サーバの起動と停止

以下の手順は、UNIX 上で Apache Web サーバを使用する場合にのみ適用されます。

Apache の起動

Apache の Web サーバインスタンスを起動するには、以下の手順に従います。

- 1 ルートとしてログインします。
- 2 ディレクトリを `<Apache_Install_Dir>/bin` に変更します。
`<Apache_Install_Dir>` は、Apache のインストール場所です。
- 3 `./apachectl start` と入力します。

Apache の停止

Apache の Web サーバインスタンスを停止するには、以下の手順に従います。

- 1 ルートとしてログインします。
- 2 ディレクトリを `<Apache_Install_Dir>/bin` に変更します。
`<Apache_Install_Dir>` は、Apache のインストール場所です。
- 3 `./apachectl stop` と入力します。

第 12 章

Version Manager Web サーバの実行

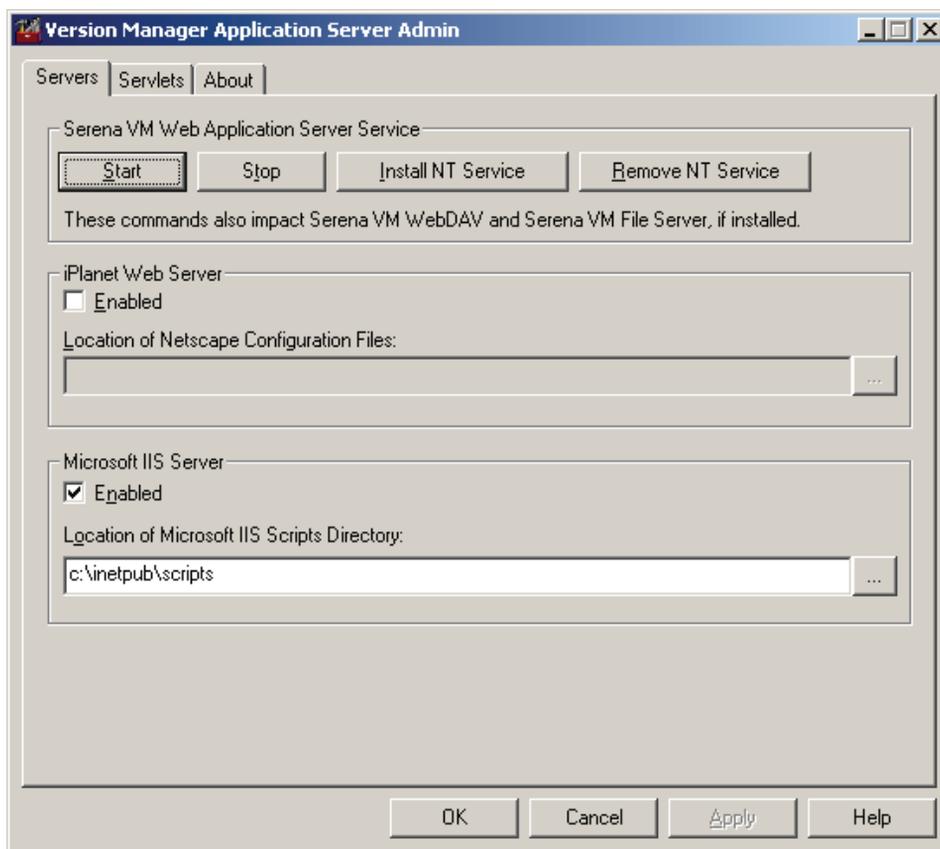
Windows での Web サーバの起動と停止	154
UNIX での Web サーバの起動または停止	155
ユーザの接続	156

Windows での Web サーバの起動と停止

Serena PVCS Version Manager Web サーバを起動した後は、手動で停止するか、Version Manager Web サーバがインストールされているマシンを終了しないかぎり、動作し続けます。

Windows 上で Version Manager Web サーバを起動または停止するには、次の操作を行います。

- 1 Version Manager Application Server Admin を起動するには、[Start (スタート)] – [Programs (プログラム)] – [Serena] – [ChangeMan Version Manager] – [Version Manager Application Server] の順に選択します。Version Manager Application Server Admin の [Servers (サーバ)] タブが表示されます。



- 2 該当するボタンをクリックして、Merant Version Manager Application Server を起動または停止します。Version Manager Web サーバのほかに、インストールされている場合は、WebDAV Server と Version Manager File Server も起動または停止します。

UNIX での Web サーバの起動または停止

Version Manager Web サーバを起動した後は、手動で停止するか、Version Manager Web サーバがインストールされているマシンを終了しないかぎり、動作し続けます。

- 特記事項
- プロジェクトデータベースを所有しているユーザとして Version Manager Web サーバを起動および停止します。ルートとして実行しないでください。
 - Version Manager File Server、WebDAV Server、および Version Manager Web サーバは、いずれも Version Manager Application Server を使用します。1 つの機能を開始または停止すると、その他の機能も自動的に開始または停止します。

UNIX 上で Version Manager Web サーバを起動するには、次の操作を行います。

- 1 次のディレクトリに移動します。

```
<VM_Install_Dir>/vm/common/bin
```

- 2 次のコマンドを入力します。

```
./pvcsstart.sh
```

- 3 次のメッセージが表示されます。

```
PVCS VM I-Net n.n Build (Build Number)
```

UNIX 上で Version Manager Web サーバを停止するには、次の操作を行います。

- 1 次のディレクトリに移動します。

```
<VM_Install_Dir>/vm/common/bin
```

- 2 次のコマンドを入力します。

```
./pvcsstop.sh
```

ユーザの接続

Web サーバをインストールして設定し、Version Manager Web サーバを起動したら、アプリケーションを開始して、ユーザがプロジェクトデータベースへ接続できるようにします。

Version Manager Web サーバに接続するときには、サポートされている Web ブラウザで次の URL を開くようにユーザに指示します。

`http://<サーバ名>:<ポート>/vminet.html`

<サーバ名>は使用する Web サーバの名前、<ポート>は Web サーバのポート番号です。

ユーザが初めて Version Manager Web サーバに接続する場合は、『Serena PVCS Version Manager Web クライアントユーザガイド』に説明されているように、Version Manager Web クライアントアプレットをダウンロードして、インストールする必要があります。クライアントアプレットを UNIX 上にインストールする方法については、[107 ページの『UNIX での Netscape Communicator の使用』](#)を参照してください。

第 13 章

セキュリティの管理

アクセスコントロールの使用	158
SSL の使用	158
ファイアウォールの使用	159

アクセスコントロールの使用

アクセスコントロールは、Serena PVCS Version Manager Web クライアントを含め、Web サーバ上のリソースをユーザ名とパスワードによって保護する基本的なセキュリティ機能です。

Version Manager Web クライアントでアクセスコントロールを使用した場合、ユーザは Web サーバ上のドメインという安全領域に入るときに、事前に定義されたユーザ名とパスワードを入力する必要があります。ドメインは、特定の URL または URL ディレクトリ構造です。

Web サーバで使用するユーザ名とパスワードは、Version Manager Web クライアントが管理するユーザ情報とは別に管理されます。このため、Web サーバ上の安全領域にアクセスするには、Version Manager プロジェクトデータベースにログインするときに入力したユーザ名とパスワードのほかに、Web サーバ用のユーザ名とパスワードを入力する必要があります。

Web サーバでアクセスコントロールを設定する方法については、該当する Web サーバのマニュアルを参照してください。

SSL の使用

SSL (Secure Sockets Layer) は、次の方法を使用して、Web サーバによるリソース保護を可能にする高度なセキュリティ機能です。

- 暗号化。Version Manager のデータを含め、Web サーバと Web ブラウザ間でやり取りされる機密情報を保護します。
- データ保全性保護。Web サーバと Web ブラウザの間でやり取りされる情報が第三者により変更されないよう保護します。
- 認証。Web サーバおよび Web ブラウザが、情報の受け渡しの際に自身を識別するために使用する手法です。この手法を使用すると、Web サーバまたは Web ブラウザは、信頼のおける相手に対してだけ情報を渡すことができます。

SSL の設定

SSL は、Web サーバで提供されるユーザインターフェイスを使用して Web サーバ上に設定します。SSL を設定する際は、標準の Web サービスによって使用されるポート番号とは異なるポート番号を使用して、セキュリティ保護された Web サービスを設定します。

ユーザの接続

SSL を使用するように Web サーバを設定した後、ユーザが Version Manager Web クライアントインターフェイスにアクセスするには、https プロトコルを使用する必要があります。たとえば、セキュリティで保護されたポートを経由して Web サーバにアクセスする場合は、Web ブラウザで次の URL を開きます。

```
https://<サーバ名>:443/vminet.html
```

ファイアウォールの使用

ローカルエリアネットワーク（LAN）またはワイドエリアネットワーク（WAN）の外からの Version Manager Web クライアントへのユーザアクセスを許可する場合は、ファイアウォール保護を使用して、外部ユーザからのアクセスを Version Manager Web サーバが常駐する Web サーバだけに制限する必要があります。ファイアウォールの外から Version Manager Web クライアントにアクセスするすべてのユーザが、着信要求に対するアクセスコントロールとユーザ認証保護機能を提供する単一の URL にリダイレクトされるように、Web サーバでファイアウォールを設定できます。

ファイアウォールの使用方法については、ファイアウォールソフトウェアおよびネットワークソフトウェアのマニュアルを参照してください。

第 14 章

パフォーマンスの管理

システムの考慮事項	162
ネットワークポロジの考慮事項	162
Version Manager Web サーバデーモンプロセスについて	163
Web サーバの考慮事項	166
推奨構成	166
最適なパフォーマンスの維持	167

システムの考慮事項

一般に、Serena PVCS Version Manager Web サーバのホストシステムが強力であるほど、Version Manager のパフォーマンスが向上します。次のセクションで説明するように、最高のサーバマシンを使用していても、選択する Version Manager Web サーバのネットワークポロジによってそのパフォーマンスが左右される可能性があります。最高のパフォーマンスを実現するため、Version Manager Web サーバ専用のマシンを使用してください（つまり、そのマシンではほかのアプリケーションを一切実行しません）。

どのコンピュータでも、使用可能なメモリ（RAM）容量は、プロセッサ速度と同様にシステムパフォーマンスに大きな影響を与えます。現時点のシステム要件については、Version Manager の readme ファイルを参照してください。Serena は、できるかぎり高速なマシンをサーバとして使用することを推奨します。

ネットワークポロジの考慮事項

Version Manager は、プロジェクトデータファイルやアーカイブに格納されているディスクベースの情報へ頻繁にアクセスします。Version Manager Web サーバをどの場所にインストールし、さらに上記のファイルをどの場所に格納するかは、Version Manager のパフォーマンスに大きな影響を与えます。プロジェクトファイルとアーカイブの格納場所を決定するときは、Version Manager Web サーバとプロジェクトファイル間のルータ数、使用するネットワークの帯域幅など、いくつかの点を考慮する必要があります。

プロジェクトファイルの格納場所

プロジェクトファイルの格納場所は、Version Manager Web サーバのインストールプランを立てる上で最重要事項です。プロジェクトファイルは、Version Manager Web サーバマシンのローカルディスクドライブに配置してください。サーバが頻繁にアクセスするプロジェクトファイルを別のマシン上に配置すると、Version Manager Web サーバのパフォーマンスが大幅に低下します。Serena のテスト結果によると、これらのファイルにネットワーク経由でアクセスした場合、パフォーマンスが著しく低下することがわかっています。

プロジェクトファイルと Version Manager Web サーバを同一マシンのローカルディスクドライブに配置できない場合は、代替策として、Version Manager Web サーバと同じネットワークセグメント内にプロジェクトファイルを配置します。

このように構成することによって、Version Manager Web サーバは、ネットワークルータやブリッジを経由せずにプロジェクトファイルへアクセスできます。

プロジェクトファイルと Version Manager Web サーバを、異なるネットワークセグメントの別々のマシンに配置しないでください。Version Manager Web サーバが複数のネットワークセグメントにまたがってプロジェクトデータを処理する場合、パフォーマンスが低下します。

プロジェクトファイルの格納場所を移動する方法については、[第 9 章、124 ページの『プロジェクトデータベースの操作』](#)を参照してください。

アーカイブの格納場所とネットワーク速度

プロジェクトファイルの格納場所ほど重大ではありませんが、アーカイブの場所も Version Manager のパフォーマンスに影響を与えます。アーカイブは Version Manager Web サーバマシン上に配置するのが理想的です。それが不可能な場合は、Version Manager Web サーバとアーカイブを、できるかぎり高速なネットワークで接続してください。一般に、FDDI や光ファイバなど、大企業のサーバールームでよく使われる高速技術を使用すれば、最高速度の接続を実現できます。

Version Manager Web サーバデーモンプロセスについて

デフォルトでは、Version Manager Web サーバの実行時には複数のデーモンプロセスが有効になります。有効になるデーモンの数を変更したり、一度に 1 つだけのユーザ要求を処理する単一プロセスとして動作するようサーバを設定したりできます。

デーモンのプロセス数の設定

デフォルトでは、起動される最小デーモン数は 5、一度に実行できる最大デーモン数は 20 に設定されています。必要に応じて、デーモンの最小数と最大数を指定することができます。

ユーザ数、ファイル数、およびバイト数が大きくなるほど、より多数のデーモンが必要になります。ただし、ハードウェアの処理能力を超える数のデーモンを開始しないでください。デーモン管理のオーバーヘッドによりパフォーマンスが低下する可能性があります。

最初はデフォルトの設定を使用し、必要に応じて調整するようにしてください。

デーモン数を変更するには、次の操作を行います。

- 1 テキストエディタで、次のファイルを開きます。
 - Windows : `islv.ini` (Windows オペレーティングシステムのルートディレクトリにあります)
 - UNIX : `$HOME/.islvrc`
- 2 上記のファイルで、次の文字列を変更します。

```
pvcs.daemons.min=NValue  
pvcs.daemons.max=XValue
```

設定値の内容は以下のとおりです。
 - NValue は、実行するデーモンの最小数です。
 - XValue は、実行するデーモンの最大数です。
- 3 ファイルを保存します。
- 4 サーバを再起動します。

デーモンを無効にする場合

通常はデーモンを無効にしません。ただし、トラブルシューティングの際はデーモンを無効にすると便利な場合があります。この場合は、次の手順を参照してください。

Windows でのデーモンの無効化

Windows でデーモンを無効にするには、3 つのファイルを編集して、サーバを再起動する必要があります。

Windows でデーモンを無効にするには、次の操作を行います。

- 1 テキストエディタで、
`<VM_Install_Dir>\vm\common\bin\pvcsstart.bat` ファイルを開きます。
- 2 `:start` セクションで、次の行を探します。
`-Dpvcs.daemons.useDaemons=true`

次のように変更します。

```
-Dpvcs.daemons.useDaemons=false
```

3 ファイルを保存します。

4 テキストエディタで、次のファイルを開きます。

```
<VM_Install_Dir>\vm\common\tomcat\conf\jk\wrapper.properties
```

5 次の行を見つけます。

```
-Dpvcs.daemons.useDaemons=true
```

次のように変更します。

```
-Dpvcs.daemons.useDaemons=false
```

6 ファイルを保存します。

7 `islv.ini` ファイルをテキストエディタで開きます。このファイルは、システムのルートディレクトリにあります。

8 次の行を見つけます。

```
pvcs.daemons.useDaemons=true
```

次のように変更します。

```
pvcs.daemons.useDaemons=false
```

9 ファイルを保存します。

10 サーバを再起動します。

UNIX でのデーモンの無効化

UNIX でデーモンを無効にするには、1 つのファイルを編集し、その後サーバを再起動する必要があります。

UNIX でデーモンを無効にするには、次の操作を行います。

1 テキストエディタで、次のファイルを開きます。

```
<VM_Install_Dir>/vm/common/bin/pvcsstart.sh
```

2 次の行を見つけます。

```
-Dpvcs.daemons.useDaemons=true
```

次のように変更します。

```
-Dpvcs.daemons.useDaemons=false
```

- 3 ファイルを保存します。
- 4 サーバを再起動します。

Web サーバの考慮事項

Version Manager Web サーバのパフォーマンスは、Web サーバのサービスチューニング機能を使用して高めることができます。通常、これらの機能で、接続速度、メモリキャッシュのサイズ、およびスレッド処理の設定値を指定することができます。

Web サーバパフォーマンスの最適化の詳細については、Web サーバ製品のマニュアルを参照してください。

推奨構成

パフォーマンスを最適化するには、Version Manager Web サーバ、Version Manager プロジェクトファイル、および Version Manager アーカイブを、高性能な 1 台のマシン上に配置することをお勧めします。この構成では、Version Manager Web サーバがすべての要求をローカルに処理し、プロジェクトデータやアーカイブデータをネットワーク接続経由で転送する必要がありません。この構成によって、可能なかぎり高速な接続が実現します。

最適なパフォーマンスの維持

通常の使用時には、Version Manager Web サーバとデスクトップクライアントはそれぞれ専用のテンポラリファイルを作成します。さらに、デスクトップクライアントは、専用のファイルデルタ（差分）イメージを作成します。この種のファイルを管理することによって、Version Manager クライアント / サーバシステムのパフォーマンスを高めることができます。

アーカイブの更新時（チェックイン、ロック、ラベルなど）には、処理中にテンポラリファイルが作成されます。通常、アーカイブが正常に更新された時点で、Version Manager Web サーバとデスクトップクライアントの両方からテンポラリファイルが削除されます。ただし、アーカイブの更新処理中に問題が発生した場合は、安全対策として、テンポラリファイルは削除されません。障害が発生してデータが失われたときは、通常、テンポラリファイルから復元することができます。

古くなったり、廃棄されたテンポラリファイルは役に立ちません。このようなテンポラリファイルは削除する必要があります。不要なテンポラリファイルを削除せず、そのままにしておくと、やがて相当のディスク容量が無駄になることがあります。

Web サーバのテンポラリファイルの管理

デフォルトでは、Version Manager Web サーバのテンポラリファイルは、/tmp ディレクトリ（UNIX マシン）または <VM_Install_Dir>\vm\inet\temp ディレクトリ（Windows マシン）に配置されます。

Version Manager Web サーバでは、アーカイブを更新するたびにテンポラリファイルが作成されるため、これらによって多くのディスク容量が使用される可能性があります。テンポラリディレクトリには、必要に応じて十分なディスク容量を割り当ててください。Version Manager Web サーバのテンポラリファイルディレクトリを定期的にチェックし、古くなったテンポラリファイルを削除してください。

Version Manager のテンポラリファイルの管理

Version Manager のテンポラリファイルの管理については、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

大規模ファイルのデルタ生成の管理

Version Manager がファイルのリビジョンをアーカイブに格納するとき、非チップリビジョンのデルタ（差分）イメージが生成されます。サイズの大きいファイル（数十メガバイト）をアーカイブにチェックインする場合は、このデルタの生成に長時間かかります。さらに、ファイルサイズの増大に伴い、デルタ生成に要する時間が非線形的に増加します。

個々のアーカイブについて、デルタイメージを生成しないように設定することができます。サイズの大きいファイルでは、このように設定することによってパフォーマンスが大幅に向上します。ただし、アーカイブがテキストファイルの場合は、そのサイズが急速に増大します。バイナリファイルの場合は、デルタ生成を無効にしても、アーカイブファイルのサイズはそれほど大きくなりません。

デルタ生成を無効にするには、既存のアーカイブの設定を変更するか、または、特定のファイルタイプのすべての新規アーカイブがデルタを使用せずに生成されるように指定します。

特定のアーカイブでのデルタ生成を無効にするには、次の操作を行います。

- 1 Version Manager のデスクトップクライアントを起動します。
- 2 [Admin (管理)] メニューから [Configure Project (詳細設定)] を選択します。
- 3 [File Types (ファイルタイプ)] タブを選択します。
- 4 <File Types (ファイルタイプ)> リストボックスで、拡張子を選択するか、管理するファイルタイプの拡張子を入力します。
- 5 デルタ生成を無効にするには、<Store Deltas (デルタ形式で格納)> の選択を解除します。
- 6 【OK】または【Apply (適用)】をクリックします。

ファイル転送時の圧縮を使用した Web サーバ パフォーマンスの管理

Version Manager Web サーバは、WAN または LAN ネットワークを介してアーカイブファイルを転送する前に、それらのファイルを圧縮します。デフォルトでは、圧縮レベルが 4（中レベル）に設定されています。圧縮レベルを変更したり、圧縮を無効にしたりするには、tomcat web.xml ファイルで compressionLevel パラメータを変更します。

圧縮レベルを変更するには、次の操作を行います。

- 1 tomcat web.xml ファイルで、compressionLevel という vminet パラメータを探します。
- 2 圧縮レベルを 1 ~ 9 の値に設定します。レベル 1 は、所要時間は最短ですが、圧縮率も最小です。レベル 9 は、所要時間は最長ですが、圧縮率も最大です。
- 3 ファイルを保存して、閉じます。

高速ネットワークで処理速度の遅いマシンを使用する環境では、データの圧縮と解凍のオーバーヘッドにより、この機能は適さない場合があります。そのような場合は、この機能を無効に設定します。

Version Manager Web サーバの圧縮機能を無効にするには、次の操作を行います。

- 1 tomcat web.xml ファイルで、compressionLevel という vminet パラメータを探します。
- 2 圧縮レベルを 0 に設定します。
- 3 ファイルを保存して、閉じます。

第 15 章

Version Manager Web サーバの アンインストール

Windows からの Web サーバのアンインストール	172
UNIX からの Web サーバのアンインストール	174

Windows からの Web サーバのアンインストール

Web サーバのアンインストール方法は、使用している Web サーバソフトウェアによって異なります。該当するセクションの説明を参照してください。

iPlanet Web Server を使用している場合

iPlanet Web Server を使用している Windows マシンで Serena PVCS Version Manager Web サーバをアンインストールするには、Version Manager Web サーバアンインストールプログラムを起動し、画面の指示に従って操作します。プログラムファイル、ディレクトリ、およびレジストリエントリが自動的に削除されます。

Windows で Version Manager Web サーバをアンインストールするには

- 1 148 ページの『Web サーバインスタンスの起動と停止』の説明に従って、Web サーバを停止します。
- 2 154 ページの『Windows での Web サーバの起動と停止』に記載されている手順に従って、Version Manager Web サーバを停止します。
- 3 [Start (スタート)] – [Settings (設定)] – [Control Panel (コントロールパネル)] の順に選択します。
- 4 <Add/Remove (プログラムの追加と削除)> をダブルクリックします。
- 5 [Install/Uninstall (インストールと削除)] タブで <Serena ChangeMan Version Manager> を選択し、【Add/Remove (追加と削除)】をクリックします。
- 6 【Modify (変更)】を選択し、【Next (次へ)】をクリックします。
- 7 表示されたダイアログボックスで、<Serena ChangeMan Version Manager Web Server> およびアンインストールするその他のコンポーネントを選択解除します。
- 8 【OK】をクリックします。

Microsoft Internet Information Services を使用している場合

Microsoft Internet Information Services を使用している Windows マシンで Version Manager Web サーバをアンインストールするには、最初に、Microsoft Internet Information Services から仮想ディレクトリを削除する必要があります。その後、Version Manager Web サーバアンインストールプログラムを起動し、画面の指示に従って操作します。プログラムファイル、ディレクトリ、およびレジストリエントリが自動的に削除されます。

Microsoft Internet Information Services から Version Manager Web サーバをアンインストールするには、次の操作を行います。

- 1 154 ページの『Windows での Web サーバの起動と停止』に記載されている手順に従って、Version Manager Web サーバを停止します。
- 2 [スタート] メニューから順に選択して、Microsoft Internet Information Services を起動します。
- 3 Version Manager Web サーバがインストールされている Web サーバに移動し、ダブルクリックしてその内容を表示します。
- 4 次の仮想 Web ディレクトリを削除します。
 - vminet_temp
 - vminet_images
 - vminet_books
 - jakarta
 - a 削除する仮想 Web ディレクトリを選択します。
 - b ツールバーの【Delete (削除)】をクリックします。
 - c 削除を確認するメッセージが表示されたら、【Yes (はい)】をクリックします。
- 5 Version Manager Web サーバがインストールされている Web サーバを右クリックし、[Properties (プロパティ)] を選択します。[Properties (プロパティ)] ダイアログボックスが表示されます。
- 6 [ISAPI Filters (ISAPI フィルタ)] タブを選択します。
- 7 <jakarta> を選択し、【Remove (削除)】をクリックします。
- 8 【OK】をクリックします。

- 9 Microsoft 管理コンソールを終了します。
- 10 コントロールパネルの [Services (サービス)] で <World Wide Web Publishing Service> を選択し、【Stop (停止)】をクリックします。
- 11 サービスを停止するかどうか確認するメッセージが表示されたら、【OK】をクリックします。
- 12 Web サーバを停止したら、コントロールパネルの [Services (サービス)] を閉じます。
- 13 [Start (スタート)] – [Settings (設定)] – [Control Panel (コントロールパネル)] の順に選択します。
- 14 <Add/Remove Programs(プログラムの追加と削除)> をダブルクリックします。
- 15 [Install/Uninstall (インストールと削除)] タブで <Serena ChangeMan Version Manager> を選択し、【Add/Remove (追加と削除)】をクリックします。
- 16 【Modify (変更)】を選択し、【Next (次へ)】をクリックします。
- 17 表示されたダイアログボックスで、<Serena ChangeMan Version Manager Web Server> およびアンインストールするその他のコンポーネントを選択解除します。
- 18 コンピュータを再起動します。

UNIX からの Web サーバのアンインストール

Version Manager Web サーバをアンインストールするには、iPlanet または Apache Web サーバから Version Manager Web サーバを削除する必要があります。

Version Manager Web サーバをアンインストールするには、次の操作を行います。

- 1 155 ページの『UNIX での Web サーバの起動または停止』に記載されている手順に従って、Version Manager Web サーバを停止します。
- 2 148 ページの『iPlanet Web Server での Web サーバの起動と停止』の説明に従って、Web サーバを停止します。

- 3 次のディレクトリからすべてのファイルとサブディレクトリを削除し、さらにディレクトリ自体を削除します。

`<VM_Install_Dir>/vm/inet`

- 4 ルートとしてログインします。

- 5 以下のいずれかを実行します。

- iPlanet の場合

- a `<iPlanet_Install_Dir>/https-<サーバ名>/config` にディレクトリを変更します。

- b `obj.conf` ファイルを、Version Manager Web サーバのインストール後にバックアップを作成した古い `obj.conf` ファイルに置き換えます。

- Apache の場合

- a `<Apache_Install_Dir>/conf` にある `httpd.conf` ファイルを開き、このファイルから次の行を削除します。

```
include <VM_Install_Dir>/vm/inet/install/httpd_pvcs.conf
```

- b `http.conf` ファイルを保存して、閉じます。

これで、Version Manager Web サーバが Web サーバから削除されました。Version Manager Web サーバを再度使用するには、Version Manager Web サーバを再インストールする必要があります。

パート 4

その他の Version Manager インターフェイスのインストール

『パート 4：その他の Version Manager インターフェイスのインストール』は、以下の章で構成されています。

IDE クライアントのインストール	179
Version Manager Developer's Toolkit のインストール	191
WebDAV Server のインストール	195
Meritage のインストール	213

チェックリスト

その他の Serena PVCS Version Manager インターフェイスをインストールして設定するには、次の作業を行う必要があります。

<input type="checkbox"/>	IDE クライアント : Windows にインストールする (182 ページ)
<input type="checkbox"/>	IDE クライアント : Web サーバにインストールする (186 ページ)
<input type="checkbox"/>	Developers Toolkit : インストール方法とライセンス方法を確認する (192 ページ)
<input type="checkbox"/>	WebDAV : Windows および UNIX に WebDAV をインストールする (197 ページ)
<input type="checkbox"/>	WebDAV : WebDAV Server を起動および停止する (200 ページ)
<input type="checkbox"/>	WebDAV : Microsoft IIS、iPlanet、または Apache Web サーバを設定する (202 ページ)
<input type="checkbox"/>	WebDAV : WebDAV Server をテストする (210 ページ)
<input type="checkbox"/>	Meritage : Meritage のインストール手順を確認する (214 ページ)
<input type="checkbox"/>	Meritage : Meritage Admin Wizard を実行する (215 ページ)
<input type="checkbox"/>	Meritage : エンドユーザセットアップを作成する (217 ページ)

第 16 章

IDE クライアントのインストール

IDE クライアントについて	180
Windows への IDE クライアントのインストール	182
Linux への Eclipse プラグインのインストール	184
Web サーバへのインストール	186

IDE クライアントについて

Version Manager IDE クライアントをインストールすると、統合開発環境 (IDE) 内から Version Manager のさまざまな機能を使用できます。開発環境から離れることなく、ファイルを取得したり、ファイルのチェックインやチェックアウトを行えます。

IDE クライアントは、以下のいずれかで使用できます。

- SCC プロジェクト ■ サポートされているソースコード管理 (SCC) インターフェイス準拠の IDE (Microsoft Visual Basic、Microsoft Visual C++、Sybase PowerBuilder、Rational Rose Enterprise、Microsoft Visual Studio .NET など) のプロジェクト。詳細は、[182 ページの『Windows への IDE クライアントのインストール』](#)を参照してください。
- Web プロジェクト ■ サポートされている COM インターフェイス準拠の IDE (Microsoft FrontPage など) の Web プロジェクト。Web プロジェクトで使用する IDE クライアントのインストール方法については、[186 ページの『Web サーバへのインストール』](#)を参照してください。
- Visual Studio .NET プロジェクト ■ Microsoft Visual Studio 2003 のソリューションとプロジェクト。Visual Studio 2003 がすでにローカルシステムにインストールされている場合、Visual Studio 2003 用のプラグインをインストールできます。これにより、Version Manager TeamTrack 機能とのリッチな統合が実現します。
- Eclipse プロジェクト ■ サポートされている Eclipse 準拠の IDE (IBM WebSphere Studio Application Developer、IBM Rational Application Developer など) のプロジェクト。Eclipse がローカルシステムにインストールされている場合、Eclipse 用の通常のプラグインまたは Eclipse 用のリッチな統合プラグインをインストールできます。Eclipse 用のリッチな統合プラグインにより、Version Manager と TeamTrack の機能へのリッチな統合が提供されます。この機能統合プラグインは、Windows および Linux プラットフォームの両方でサポートされます。



重要 : UNC パスでは Eclipse は正常に機能しません。UNC パスではなく、Version Manager インストールに対してマップされたドライブ、および Eclipse ベースの IDE で使用される Version Manager File Server パスを使用します。

必要なシステム構成

使用するシステムは、Version Manager readme ファイル (readmevm.html) に記載されている Version Manager のシステム要件を満たしている必要があります。

IDE クライアントを FrontPage Web プロジェクトで使用する場合は、サポートされている Web サーバがシステムにインストールされている必要があります。詳細は、[186 ページの『Web サーバへのインストール』](#)を参照してください。

IDE クライアントのマニュアル

『Serena PVCS Version Manager IDE クライアント操作ガイド』は Serena PVCS Professional スイート DVD に収録されています。Version Manager マニュアルセットの一部としてインストールされます。IDE クライアントには、必要なすべての情報を参照できるオンラインヘルプも用意されています。IDE クライアントをインストールすると、[Start (スタート)] メニューの [Serena PVCS Version Manager IDE Client] プログラムグループからオンラインヘルプを表示したり、[Start (スタート)] メニューの Serena PVCS Version Manager マニュアルセットからオンラインマニュアルを表示できるようになります。

Serena PVCS Professional スイートのドキュメントの詳細については、『Serena PVCS Version Manager 入門ガイド』を参照してください。

Windows への IDE クライアントのインストール

Microsoft SCC または Eclipse 準拠の IDE で IDE クライアントを使用する場合は、以下の手順に従ってください。IDE クライアントを Web サーバにインストールし、Microsoft FrontPage の Web プロジェクトで使用する方法については、186 ページの『Web サーバへのインストール』を参照してください。

ワークステーション インストール

IDE クライアントは、ローカルドライブまたはネットワーク上にインストールできます。ネットワークインストールを実行した場合は、その後にワークステーションインストールを行って、ネットワーク上にインストールされた共有バージョンのコンポーネントを実行することができます。ワークステーションインストールの実行方法については、61 ページの『ワークステーションインストールの準備』を参照してください。



重要：ワークステーションインストールのコンポーネントをセットアップするには、IDE クライアントをネットワーク上にインストールする必要があります。ただし、IDE クライアントを FrontPage Web プロジェクトで使用する場合は、Web サーバに直接インストールします。

Version Manager IDE クライアントをインストールするには、次の操作を行います。



注：Version Manager IDE クライアントをインストールするには管理者の権限が必要です。

- 1 55 ページの『DVD-ROM からの Version Manager のインストール』の説明に従って、インストール手順を開始します。
- 2 [Setup Type (セットアップタイプ)] ウィンドウで、インストールのタイプとして〈Local (ローカル)〉または〈Network (ネットワーク)〉オプションを選択します。
- 3 インストールする Version Manager のコンポーネントとして、次のオプションを選択します。
 - SCC/COM IDE Client (SCC/COM IDE クライアント) : SCC および COM 準拠の統合開発環境 (IDE) 内でのバージョン管理のための IDE クライアントです。
 - Documentation (ドキュメント) : Version Manager IDE クライアントのオンラインマニュアルです。

- Plugin for Eclipse 2 and 3 (Eclipse 2 および 3 用プラグイン) : Eclipse 2 または 3 ベースの IDE (IBM WebSphere Studio Application Developer など) と統合します。このプラグインは、TeamTrack SourceBridge および Tracker TrackerLink 経由で Serena Issue 管理と統合します。
 - Plugin for Eclipse 3 (rich integration) (Eclipse 3 用プラグイン (リッチな統合)) : Eclipse 3 ベースの IDE (IBM Rational Application Developer など) と統合します。このプラグインは Serena TeamTrack Issue 管理と直接統合でき、Eclipse 2 および 3 用のプラグインより高度なソース管理統合を実現します。
 - Plugin for VS .Net (rich integration) (VS .Net 用プラグイン (リッチな統合)) : Microsoft Visual Studio 2003 と統合します。このプラグインは Serena TeamTrack Issue 管理と直接統合することができ、SCC を使用する場合よりも高度なソース管理統合を実現します。
 - Workstation Install (ワークステーションインストール) : (ネットワークインストール専用) ワークステーションセットアッププログラムをインストールします。ユーザは、このプログラムを実行して、Version Manager と IDE クライアントをネットワークから実行できるように各自のワークステーションを設定します。
- 4 【Next (次へ)】をクリックします。IDE クライアントプロジェクトのデフォルトプロジェクトデータベースを選択する画面が表示されます。ここで選択したプロジェクトデータベースは、SCC 準拠の IDE でデフォルトとして選択されます。IDE クライアントのデフォルトプロジェクトデータベースの設定と使用方法については、『Serena PVCS Version Manager IDE クライアント操作ガイド』を参照してください。
- 5 〈Plugin for Eclipse 2and 3 (Eclipse 2 および 3 用のプラグイン)〉または〈Plugin for Eclipse 3 (rich integration) (Eclipse 3 用のプラグイン (リッチな統合))〉を選択した場合、ダイアログボックスが表示されます。次のいずれかを行って、Eclipse ベースの IDE の場所を指定して、【Next (次へ)】ボタンをクリックします。
- リストにインストールパスを追加するには、【Add (追加)】ボタンをクリックし、表示されるダイアログボックスを使用して IDE のインストール場所に移動します。

- リストからインストールパスを削除するには、該当するインストールパスを選択して、【Remove (削除)】ボタンをクリックします。



注：インストールされている WebSphere Studio 5 および Rational Application Developer 6 は、このリストに自動的に表示されます。WebSphere Studio 4 および Eclipse をリストに追加する場合は、【Add (追加)】ボタンを使用します。

- 6 画面の指示に従って、インストールを完了します。

インストールにより、Version Manager IDE クライアントがシステム上のアクティブなソース管理プロバイダとして登録されます。サポートされている開発環境を次に起動したときに、その IDE クライアントにアクセスすることができます。IDE クライアントの使用の詳細については、『Serena PVCS Version Manager IDE クライアント操作ガイド』を参照してください。

Linux への Eclipse プラグインのインストール

次に、Linux 上に Eclipse プラグインをインストールする場合の特別な手順について説明します。

プラグインをインストールする前に

詳細は、24 ページの『Linux での Eclipse プラグインのインストールプラン』を参照してください。

プラグインのインストール

統合をインストールするには、次の操作を行います。

- 1 Version Manager および Eclipse インストールディレクトリに対して読み込み、書き込み、実行権限を持つユーザとしてログインします。
- 2 インストールスクリプト「vminst」を実行し、画面の指示に従って操作します。

- 3 インストールするコンポーネントを選択する画面で、〈Plugin for Eclipse 3 (rich integration) (Eclipse 3 用のプラグイン (リッチな統合))〉を選択します。(デフォルト選択を解除するには、「N」キーを押します。リスト内の次のコンポーネントに移動するには「Enter」キーを使用します。「X」キーを押して、コンポーネントを選択します。選択が完了すると、「Y」キーを押します。)



注：デスクトップクライアントの現在のバージョンがまだインストールされていない場合は、インストールする必要があります。

- 4 Eclipse IDE インストールのパス、つまり Eclipse ディレクトリへの場所を指定します。
- 5 画面の指示に従って、インストールを完了します。

プラグインのインストール後に

インストールが完了すると、OS を正しく設定し、インストールを終了する必要があります。

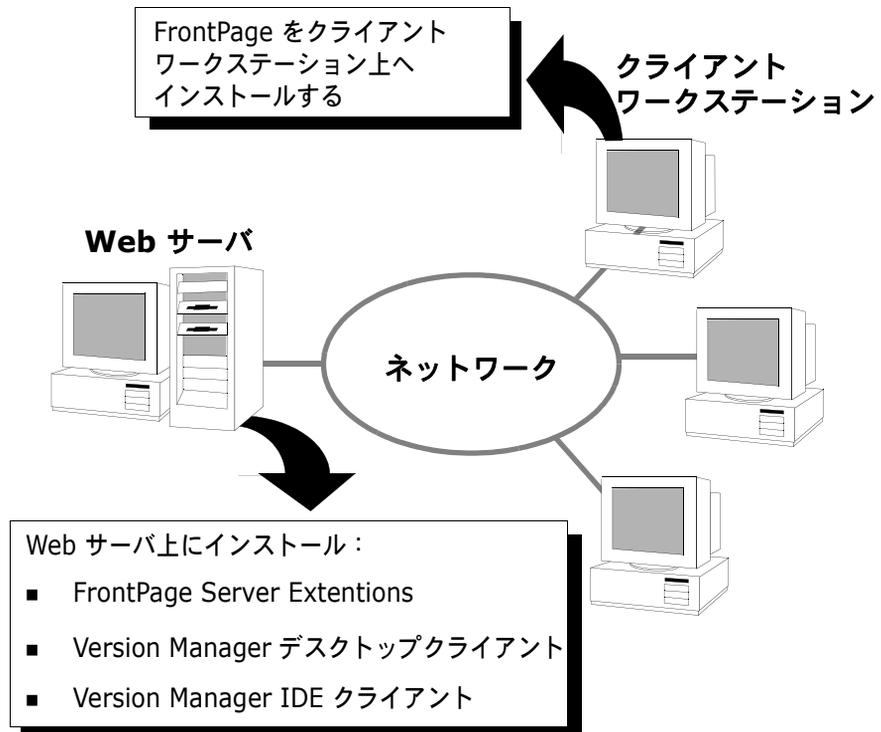
インストールを終了するには、次の操作を行います。

- Version Manager File Server を使ってすべてのアーカイブにアクセスできない場合、すべてのユーザに 88 ページの『UNIX 上でのプログラムファイルとプロジェクトデータの保護』の表に一覧されるディレクトリとファイルへのアクセス権限を与えるように OS 権限を設定する必要があります。nonsetuid グループと同じ権限を適用します。
- 90 ページの『Version Manager に必要な UNIX 環境』の手順 1 で記されたファイルと同じプロファイルファイルを使用する必要があります。

Web サーバへのインストール

Microsoft FrontPage の Web プロジェクトで使用できるように Version Manager IDE クライアントをセットアップするには、次の手順を実行する必要があります。

- 1 FrontPage Server Extentions を、使用する Web サーバ上にインストールします。
- 2 Serena PVCS Version Manager IDE クライアントを、Web サーバ上に直接インストールします。
- 3 必要に応じて、FrontPage をクライアントワークステーションにインストールします。



サポートされる Web サーバの設定

Version Manager IDE クライアントは、以下の Web サーバと互換性があります。

Web サーバ	オペレーティングシステム
Microsoft's Internet Information Services 5.x	Windows 2000
Internet Information Services 6.x	Windows 2003

FrontPage Server Extensions のインストール

Windows 2000 または Windows 2003 サーバ上で Web サーバをセットアップした後、その Web サーバに FrontPage 拡張モジュールをインストールすることができます。

FrontPage サーバコンポーネントの詳細インストール手順については、FrontPage に付属のマニュアルを参照してください。

Version Manager プロジェクトで使用できるように Web サーバを設定する方法については、『Serena PVCS Version Manager IDE クライアント操作ガイド』を参照してください。

Version Manager IDE クライアントのインストール

IDE クライアントをインストールするときに、インターフェイスプロジェクト用のデフォルトプロジェクトデータベースを選択する必要があります。FrontPage の場合、デフォルトプロジェクトデータベースは、Web サーバ上にローカルに配置されている必要があります。デフォルトでは、デフォルトプロジェクトデータベースを選択しない場合、データベースが自動的に作成されます。



重要：FrontPage Web プロジェクトを使用する場合、Version Manager IDE クライアントを Web サーバ上に直接インストールする必要があります。クライアントワークステーションからインストールしないでください。

IDE クライアントを Web サーバにインストールするには、次の操作を行います。

- 1 55 ページの『DVD-ROM からの Version Manager のインストール』の説明に従って、インストール手順を開始します。
- 2 [Setup Type (セットアップタイプ)] ウィンドウで、インストールのタイプとして <Local (ローカル)> オプションを選択します。
- 3 インストールする Version Manager コンポーネントを選択する画面が表示されたら、以下を選択して、【Next (次へ)】をクリックします。
 - Desktop Client (デスクトップクライアント) : IDE クライアントで使用する Version Manager プロジェクトデータベースを作成および管理します。
 - SCC/COM IDE Client (SCC/COM IDE クライアント) : 統合開発環境 (IDE) 内でバージョン管理を行うためのクライアントです。
 - Documentation (ドキュメント) : (オプション) 『Version Manager IDE クライアント操作ガイド』です。



注 : FrontPage Web プロジェクトで使用するために IDE クライアントを Web サーバに直接インストールする必要があるため、ワークステーションインストールコンポーネントを同時にインストールすることはできません。

- 4 IDE クライアントプロジェクトのデフォルトプロジェクトデータベースを選択する画面が表示されたら、次のいずれかを行います。
 - デフォルトのデータベースをそのまま使用する場合は、【Next (次へ)】をクリックします。デフォルトでは、IDE クライアントをインストールすると、IDE Project Database という名前のデフォルトプロジェクトデータベースが <VM_Install_Dir>\vm\common\vmdevint の下に作成されます。
 - 【Browse (...)] をクリックして異なるデフォルトプロジェクトデータベースを選択または作成し、【Next (次へ)】をクリックします。



注 : デフォルトプロジェクトデータベースは、Web サーバ上に物理的に存在するドライブに配置する必要があります。デフォルトプロジェクトデータベースを変更するには、IDE クライアントを再インストールして、別のデータベースを選択します。

- 5 画面に表示されるダイアログボックスの指示に従って、インストールを完了します。

クライアントワークステーションへの **FrontPage** または **Visual InterDev** のインストール

必要であれば、Version Manager IDE クライアントを Web サーバ上にインストールした後、FrontPage または Visual InterDev をクライアントワークステーションにインストールします。

FrontPage または Visual InterDev クライアントコンポーネントの詳しいインストール方法については、各製品に付属のマニュアルを参照してください。

インストールが完了した後、それぞれの Web 環境で Version Manager IDE クライアントを使用する方法については、『Serena PVCS Version Manager IDE クライアント操作ガイド』を参照してください。

第 17 章

Version Manager Developer's Toolkit のインストール

Developer's Toolkit について	192
Developer's Toolkit のインストール	192
Developer's Toolkit のライセンス	194

Developer's Toolkit について

Serena PVCS Version Manager のオプションのコンポーネントである Developer's Toolkit (DTK) は、Serena PVCS Version Manager および Serena Builder の機能へのインターフェイスを提供するアプリケーションプログラミングインターフェイス (API) です。これらの機能を使用して、グラフィックアプリケーション、ワークベンチアプリケーション、コマンドラインアプリケーションを作成できます。

必要なシステム構成

DTK を Version Manager のコンポーネントとしてインストールする場合は、Version Manager readme ファイル (readmevm.html) に記載されているシステム要件を満たしている必要があります。Version Manager をインストールせずに、DTK のみをインストールする場合は、Version Manager readme ファイルに記載されている DTK のシステム要件を参照してください。

DTK のマニュアル

『Serena PVCS Version Manager Developer's Toolkit リファレンスガイド』は Serena PVCS Professional スイート DVD に収録されています。Serena PVCS Professional スイートのドキュメントの詳細については、『Serena PVCS Version Manager 入門ガイド』を参照してください。

Developer's Toolkit のインストール

Windows 版および UNIX 版の両方で、Version Manager インストール中に DTK インストールプログラムを選択できます。

Windows への DTK のインストール

Version Manager のインストール時に、DTK をインストールするよう選択することができます。デフォルトでは、DTK のインストールは選択されていません。

Windows に DTK をインストールするには、次の操作を行います。

- 1 55 ページの『DVD-ROM からの Version Manager のインストール』の説明に従って、Version Manager のインストール手順 1 ~ 10 を実行します。
- 2 インストールする Version Manager のコンポーネントを選択する画面で、〈Developer's Toolkit〉オプションを選択します。
- 3 画面の指示に従って、インストールを完了します。

Windows 上の DLL の場所

DTK により作成されたアプリケーションを実行するには、以下のいずれかの場所に DTK の DLL が配置されている必要があります。

- 〈System/Environment (システム環境変数)〉の PATH 変数で指定されているディレクトリ
- 実行ファイルを含むディレクトリ
- 現在のディレクトリ
- WINDOWS ディレクトリ
- WINDOWS\SYSTEM32 ディレクトリ

UNIX への DTK のインストール

Version Manager のインストール時に、DTK をインストールするよう選択することができます。デフォルトでは、DTK のインストールは選択されていません。

UNIX に DTK をインストールするには、次の操作を行います。

- 1 73 ページの『DVD-ROM からの Version Manager のインストール』の説明に従って、Version Manager のインストール手順 1 ~ 10 を実行します。
- 2 インストールする Version Manager のコンポーネントを選択する画面で、〈Developer's Toolkit〉オプションを選択します。
- 3 画面の指示に従って、インストールを完了します。

Developer's Toolkit のライセンス

DTK を購入しても、DTK を使って作成したアプリケーションを外部へ配布するための許可が与えられるわけではありません。

Version Manager の機能の配布

Serena PVCS Version Manager の機能呼び出すアプリケーションを組織の外部に配布する場合は、そのアプリケーションを使用する各ユーザに対して Serena PVCS Version Manager のライセンスを購入するか、Serena と OEM 契約を結ぶ必要があります。

Serena Configuration Builder の機能の配布

Serena Configuration Builder の機能呼び出すアプリケーションを配布する場合は、Serena と OEM 契約を結ぶ必要があります。

第 18 章

WebDAV Server のインストール

はじめに	196
インストールの前に	196
Windows への WebDAV Server のインストール	197
UNIX への WebDAV Server のインストール	198
WebDAV Server のアンインストール	199
WebDAV Server の起動と停止	200
Microsoft IIS Web サーバの設定	202
iPlanet Web Server の設定	205
UNIX での Apache Web サーバの設定	207
Web サーバのテスト	210

はじめに

この章では、WebDAV Server のインストール方法、設定方法、および実行方法について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- WebDAV Server のインストール方法
- WebDAV Server の起動と停止
- WebDAV Server を使用できるように、サポートされている Web サーバを設定する方法
- WebDAV Server のアンインストール方法

以下については、『Serena PVCS Version Manager WebDAV Server 操作ガイド』を参照してください。

- WebDAV Server を使用するための Version Manager の設定
- WebDAV Server の管理
- WebDAV クライアントの設定

インストールの前に

WebDAV Server は、Windows と UNIX 両方のオペレーティングシステムでサポートされています。サポート対象のプラットフォームとバージョンについては、Version Manager の readme ファイル (readmevm.html) を参照してください。

サポートされている Web サーバの設定

WebDAV Server は、以下の Web サーバコンフィグレーションに対応しています。

Web サーバ	オペレーティングシステム
Microsoft Internet Information Services 5.x	Windows 2000
Microsoft Internet Information Services 6.x	Windows 2003
Apache 1.3.x (DSO サポート)	Solaris、HP-UX、AIX、Linux
Apache 2.0.43 以降 (DSO サポート)	Solaris、HP-UX、Linux
iPlanet 6.0 SP1	Solaris、HP-UX、AIX、Windows 2000、Windows 2003
Java System Web Server 6.1 SP1	Solaris、HP-UX

WebDAV Server のアップグレード

最新バージョンの WebDAV Server をインストールする前に、以前のバージョンの WebDAV Server をアンインストールすることをお勧めします。アンインストール方法については、以前のバージョンのマニュアルを参照してください。

Windows への WebDAV Server のインストール

Windows に WebDAV Server をインストールするには、次の操作を行います。

- 1 Administrator または管理者権限のあるユーザとしてログインします。
- 2 Version Manager のインストール手順 1 ~ 9 を実行します。55 ページの『DVD-ROM からの Version Manager のインストール』を参照してください。
- 3 [Setup Type (セットアップタイプ)] ウィンドウで、インストールのタイプとして <Web Server (Web サーバ)> オプションを選択します。

- 4 Version Manager のコンポーネントリストで、インストールするコンポーネントとして〈Version Manager WebDAV〉を選択します。
- 5 画面の指示に従って、インストールを完了します。

インストール時には、次の WebDAV プロパティのデフォルト値が使用されます。

プロパティ	デフォルト値
Tomcat ポート番号	8080
プロジェクトデータベース	サンプルプロジェクトデータベース (デフォルトでインストールされます)
ワークスペース	サンプルプロジェクトデータベースの Dev ワークスペース

WebDAV のプロパティとその変更方法については、『Serena PVCS Version Manager WebDAV Server 操作ガイド』の『WebDAV Server の管理』を参照してください。

UNIX への WebDAV Server のインストール

WebDAV Server と Version Manager デスクトップクライアントの両方を使用するための権限をユーザに与えるには、次のガイドラインに従います。

- Version Manager を setuid モードで実行する場合は、権限が失われないよう、同じユーザ ID を使用して WebDAV Server をインストールしてください。
- Version Manager を setuid モードで実行しない場合は、WebDAV Server のグループ ID が、Version Manager ユーザのグループ ID と同じであることを確認してください。
- WebDAV Server をルートとしてインストールしないでください。

WebDAV Server を UNIX にインストールするには、次の操作を行います。

- 1 Version Manager のインストール手順 1 ~ 10 を実行します。73 ページの『DVD-ROM からの Version Manager のインストール』を参照してください。
- 2 Version Manager のコンポーネントリストで、インストールするコンポーネントとして〈Version Manager WebDAV for UNIX〉を選択します。

3 画面の指示に従って、インストールを完了します。

インストール時には、次の WebDAV プロパティのデフォルト値が使用されます。

プロパティ	デフォルト値
Tomcat ポート番号	8080
プロジェクトデータベース	サンプルプロジェクトデータベース
ワークスペース	サンプルプロジェクトデータベースの Dev ワークスペース

WebDAV のプロパティとその変更方法については、『Serena PVCS Version Manager WebDAV Server 操作ガイド』の『WebDAV Server の管理』を参照してください。

WebDAV Server のアンインストール

WebDAV Server をアンインストールするには、次の操作を行います。

- 1 WebDAV Server および設定されているすべての Web サーバを終了します。
200 ページの『WebDAV Server の起動と停止』を参照してください。
- 2 以下のいずれかを実行します。

Windows 版：

- a [Start (スタート)] - [Settings (設定)] - [Control Panel (コントロールパネル)] の順に選択し、〈Add/Remove Programs (アプリケーションの追加と削除)〉を選択します。
- b リストから 〈Serena ChangeMan Version Manager〉を選択し、【Add/Remove (追加と削除)】をクリックします。
- c 【Modify (変更)】をクリックし、〈Version Manager WebDAV〉オプションを選択解除します。



注：キャッシュとログのディレクトリは削除されません。これらのディレクトリには、テンポラリファイル、ロック、リソースプロパティ、WebDAV ログなどの重要なデータが含まれています。これらは、よく確認してから手動で削除してください。

UNIX 版 :

```
<VM_Install_Dir>/vm/common/tomcat/webapps/  
SampleDB.dav ディレクトリとその内容を削除します。
```

- 3 Web サーバの設定を変更した場合は、それぞれのファイルで変更を元に戻します。

WebDAV Server の起動と停止

WebDAV Server を起動するには、Tomcat を起動します。Tomcat は、WebDAV Server を実行するためにインストールされているアプリケーションサーバです。評価には、Tomcat をスタンドアロンで使用し、ポート番号 8080 でアクセスできます。また、サポートされているいずれかの Web サーバを Tomcat と併用するよう設定することもできます。手順については、202 ページの『Microsoft IIS Web サーバの設定』、207 ページの『UNIX での Apache Web サーバの設定』、および 205 ページの『iPlanet Web Server の設定』を参照してください。

Tomcat の詳細については、以下の Web サイトを参照してください。
<http://jakarta.apache.org/tomcat>

Web サーバで使用する場合の Tomcat の設定については、以下の Web サイトを参照してください。
<http://jakarta.apache.org/tomcat/tomcat-4.1-doc/jk2/>

WebDAV クライアントから WebDAV Server にアクセスするには、サーバマシン上で Tomcat (および設定されている任意の Web サーバ) を起動する必要があります。Tomcat を起動した後は、手動で停止するか、Tomcat がインストールされているマシンを終了しない限り、動作し続けます。



注 : WebDAV Server、Version Manager File Server、および Version Manager Web サーバは、Tomcat の同じインスタンスを使用します。1 つの機能を開始または停止すると、その他の機能も自動的に開始または停止します。

Windows で Tomcat を起動するには、次の操作を行います。

- 1 [Start (スタート)] – [Programs (プログラム)] – [Serena] – [ChangeMan Version Manager] – [Version Manager Application Server] の順に選択します。Version Manager Application Server Admin が表示されます。
- 2 【Start (スタート)】 ボタンをクリックします。

UNIX で Tomcat を起動するには、次の操作を行います。

- 1 WebDAV Server のインストールを実行したユーザ ID でログインします。
- 2 以下のディレクトリに変更します。
`<VM_Install_Dir>/vm/common/bin`
- 3 `./pvcsstart.sh` と入力します。

Windows で Tomcat を停止するには、次の操作を行います。

- 1 [Start (スタート)] – [Programs (プログラム)] – [Serena] – [ChangeMan Version Manager] – [Version Manager Application Server] の順に選択します。
- 2 【Stop (停止)】 ボタンをクリックします。

UNIX で Tomcat を停止するには、次の操作を行います。

- 1 WebDAV Server のインストールを実行したユーザ ID でログインします。
- 2 以下のディレクトリに変更します。
`<VM_Install_Dir>/vm/common/bin`
- 3 `./pvcsstop.sh` と入力します。

サービスとしての Tomcat の実行

- 1 Tomcat をサービスとして実行するには、[Start (スタート)] – [Programs (プログラム)] – [Serena] – [ChangeMan Version Manager] – [Version Manager Application Server] の順に選択します。Version Manager Application Server Admin が表示されます。
- 2 【Install NT Service (NT サービスに登録)】 ボタンをクリックします。
その後、サービスとしての Tomcat の実行を中止するには、【Remove NT Service (NT サービスから削除)】 ボタンをクリックします。



注：WebDAV Server、Version Manager File Server、および Version Manager Web サーバは、Tomcat の同じインスタンスを使用します。サービスとしての Tomcat をいずれかの機能に対してインストールまたはアンインストールすると、その他の機能に対してもそれが反映されます。

Microsoft IIS Web サーバの設定

WebDAV Server を使用できるように Microsoft IIS 5.0 および 6.0 の Web サーバを設定するには、次の作業を行う必要があります。

- ISAPI リダイレクタを設定する
- セキュリティを設定する

これらの作業が完了したら、IIS を再起動する必要があります。

ISAPI リダイレクタの設定

リダイレクタプラグインを使用するよう IIS を設定し、IIS が Tomcat に要求を送信できるようにします。WebDAV Server の URL を入力したときに正しいサブレットが識別されるように、コンテキスト (/SampleDB.dav) をリダイレクタに追加することも必要です。

Version Manager Web サーバをインストールし、Version Manager Application Server Admin で IIS を有効にしている場合は、以下の手順 2 ~ 9 はスキップしてください。手順 10 に進みます。

ISAPI リダイレクタを設定するには、次の操作を行います。

- 1 [Start (スタート)] メニューから順に選択して、Microsoft Internet Information Services を起動します。
- 2 〈Default Web Site (既定の Web サイト)〉を選択し、[Action (操作)] – [New (新規作成)] – [Virtual Directory (仮想ディレクトリ)] を選択します。または、〈Default Web Site (既定の Web サイト)〉を右クリックし、[New (新規作成)] – [Virtual Directory (仮想ディレクトリ)] を選択します。
- 3 仮想ディレクトリの作成ウィザードが表示されます。
 - a 仮想ディレクトリのエイリアスとして、jakarta と入力します。
 - b <VM_Install_Dir>\vm\common\tomcat\bin\win32\ と入力するか、【Browse (...)】をクリックして、このディレクトリを探します。
 - c 上記のディレクトリに実行権限を追加します。
- 4 メインウィンドウに戻ります。〈Default Web Site (既定の Web サイト)〉を選択し、[Action (操作)] – [Properties (プロパティ)] を選択します。または、〈Default Web Site (既定の Web サイト)〉を右クリックし、[Properties (プロパティ)] を選択します。
- 5 [ISAPI Filters (ISAPI フィルタ)] タブを選択し、【Add (追加)】をクリックします。[Filter Properties (フィルタのプロパティ)] ダイアログボックスが表示されます。
- 6 〈Filter Name (フィルタ名)〉フィールドに jakarta と入力します。
- 7 <VM_Install_Dir>\vm\common\tomcat\bin\win32\ ディレクトリに移動し、〈Executable (実行ファイル)〉フィールドで、isapi_redirect.dll ファイルを選択します。
- 8 【OK】をクリックします。
- 9 [ISAPI Filters (ISAPI フィルタ)] タブに戻ります。Jakarta フィルタの左側に、緑色の上向き矢印が表示されていることを確認してください。必要に応じて、IIS を再起動します。
- 10 〈Default Web Site (既定の Web サイト)〉を選択し、[Action (操作)] – [Properties (プロパティ)] を選択します。または、〈Default Web Site (既定の Web サイト)〉を右クリックし、[Properties (プロパティ)] を選択します。

- 11 [ISAPI Filters (ISAPI フィルタ)] タブを選択し、【Add (追加)] をクリックします。[Filter Properties (フィルタのプロパティ)] ダイアログボックスが表示されます。
- 12 <Filter Name (フィルタ名)> フィールドに TranslateF と入力します。
- 13 <VM_Install_Dir>\vm\webdav\bin ディレクトリに移動し、<Executable (実行ファイル)> フィールドで、MrntAdmDav.dll ファイルを選択します。
- 14 優先順位が自動的に <low (低)> に設定されます。優先順位が不明な場合は、World Wide Web Publishing Service を再起動する必要があります。
- 15 【OK】 をクリックします。
- 16 IIS を終了して、再起動します。

セキュリティの設定

WebDAV Server がユーザを認証できるように IIS を設定します。

セキュリティを設定するには、次の操作を行います。

- 1 Microsoft 管理コンソールから <Default Web Site (既定の Web サイト)> を選択し、[Action (操作)] - [Properties (プロパティ)] を選択します。または、<Default Web Site (既定の Web サイト)> を右クリックし、[Properties (プロパティ)] を選択します。
- 2 [Directory Security (ディレクトリセキュリティ)] タブを選択し、<Anonymous access and authentication control (匿名アクセスおよび認証コントロール)> にある【Edit (編集)] ボタンをクリックします。
- 3 <Anonymous access (匿名アクセス)> が選択されていることを確認します。匿名アクセスが有効な場合は、ユーザに対する IIS 認証が省略され、すぐに WebDAV Server 認証が行われます。
- 4 <Authenticated access (認証済みアクセス)> で、<Basic authentication (基本認証)> と <Integrated Windows (統合 Windows 認証)> が両方とも選択されていることを確認します。
- 5 [Properties (プロパティ)] ダイアログボックスを閉じて、IIS を再起動します。

iPlanet Web Server の設定

WebDAV Server で使用できるように iPlanet Web サーバを設定するには、iPlanet のコンフィグレーションファイルを編集する必要があります。

iPlanet obj.conf ファイルの編集

iPlanet のコンフィグレーションファイルを編集して、iPlanet と Tomcat 間の通信を有効にします。

magnus.conf と obj.conf を編集するには、次の操作を行います (Windows 環境で iPlanet 6.0 を使用する場合)。

- 1 <iPlanet_Install_Dir>/https-<サーバ名>/config にある magnus.conf ファイルを開きます。<サーバ名> は、WebDAV Server を実行しているマシンの名前です。
- 2 エントリ Init fn=flex-init の前に、以下の行を挿入します。



注：Version Manager Web サーバをインストールしており、さらに Version Manager Application Server Admin で iPlanet を有効にしている場合は、以下の最初の 2 つの Init fn 行は指定する必要がありません。Init fn="load-modules" 行以降を追加してください。

```
Init fn="load-modules" funcs="jk_init,jk_service" shlib="<VM_Install_Dir>/
vm/common/tomcat/bin/win32/nsapi_redirect.dll"
Init fn="jk_init" worker_file="<VM_Install_Dir>/vm/common/tomcat/conf/jk/
workers.properties" log_level="debug" log_file="<VM_Install_Dir>/vm/common/
tomcat/logs/nsapi.log"
Init fn="load-modules" funcs="init_pvcs_dav_options,pvcs_dav_options"
shlib="<VM_Install_Dir>/vm/webdav/bin/PvcsServices.dll"
```

- 3 エントリ <Object name=default> の前に、以下の行を挿入します。

```
Init fn="register-http-method"
methods="PUT,GET,OPTIONS,POST,COPY,HEAD,INDEX,MOVE,MKDIR,DELETE,LOCK,MKCOL,
PROPFIND,PROPPATCH,UNLOCK,TRACE"
```

- 4 ファイルを保存して、閉じます。
- 5 <iPlanet_Install_Dir>/https-<サーバ名>/config にある obj.conf ファイルを開きます。<サーバ名> は、WebDAV Server を実行しているマシンの名前です。

- 6 エントリ NameTrans fn=document-root の前に、以下の行を挿入します。

```
NameTrans fn="assign-name" from="/SampleDB.dav" name="dav_servlet"
NameTrans fn="assign-name" from="/SampleDB.dav/*" name="dav_servlet"
NameTrans fn="assign-name" from="/_vti_bin/*" name="dav_servlet"
```

- 7 以下の行の先頭にシャープ記号 (#) を付け、コメント行にします。

```
# PathCheck fn="check-acl" acl="default"
```

- 8 Service method セクションに以下の行を挿入します。

```
Service method="OPTIONS" fn="pvcs_dav_options"
```

- 9 ファイルの最後に以下の行を挿入します。

```
<Object name="dav_servlet">
Object type fn=force-type type=text/plain
Service fn="jk_service" worker="ajp13"
</Object>
```

- 10 ファイルを保存して、閉じます。

magnus.conf と obj.conf を編集するには、次の操作を行います (UNIX 環境で iPlanet 6.0 を使用する場合)。

- 1 <iPlanet_Install_Dir>/https-<サーバ名>/config にある magnus.conf ファイルを開きます。<サーバ名> は、WebDAV Server を実行しているマシンの名前です。
- 2 エントリ Init fn=flex-init の前に、以下の行を挿入します。<os> には、solaris、hpux、または aix を指定します。nsapi_redirector.* および PvcServices.* には、関連付けられたファイル名拡張子を指定します。



注：Version Manager Web サーバをインストールしており、さらに Version Manager Application Server Admin で iPlanet を有効にしている場合は、以下の最初の 2 つの Init fn 行は指定する必要がありません。Init fn="load-modules" 行以降を追加してください。

```
Init fn="load-modules" funcs="jk_init,jk_service" shlib="<VM_Install_Dir>/
vm/tomcat/bin/<os>/nsapi_redirector.*"
Init fn="jk_init" worker_file="<VM_Install_Dir>/vm/common/tomcat/conf/jk/
workers.properties" log_level="debug" log_file="<VM_Install_Dir>/vm/tomcat/
logs/nsapi.log"
Init fn="load-modules" funcs="init_pvcs_dav_options,pvcs_dav_options"
shlib="<VM_Install_Dir>/vm/webdav/lib/<os>/PvcServices.*"
```

- 3 エントリ <Object name=default> の前に、以下の行を挿入します。

```
Init fn="register-http-method"
methods="PUT,GET,OPTIONS,POST,COPY,HEAD,INDEX,MOVE,MKDIR,DELETE,LOCK,MKCOL,
PROPFIND,PROPPATCH,UNLOCK,TRACE"
```

- 4 ファイルを保存して、閉じます。

- 5 <iPlanet_Install_Dir>/https-<サーバ名>/config にある obj.conf ファイルを開きます。<サーバ名> は、WebDAV Server を実行しているマシンの名前です。

- 6 このエントリの前に以下の行を挿入します。
NameTrans fn="NSServletNameTrans":

```
NameTrans fn="assign-name" from="/SampleDB.dav" name="dav_servlet"
NameTrans fn="assign-name" from="/SampleDB.dav/*" name="dav_servlet"
NameTrans fn="assign-name" from="/_vti_bin/*" name="dav_servlet"
```

- 7 以下の行の先頭にシャープ記号 (#) を付け、コメント行にします。

```
# PathCheck fn="check-acl" acl="default"
```

- 8 Service method セクションに以下の行を挿入します。

```
Service method="OPTIONS" fn="pvcs_dav_options"
```

- 9 ファイルの最後に以下の行を挿入します。

```
<Object name="dav_servlet">
ObjectType fn=force-type type=text/plain
Service fn="jk_service" worker="ajp13"
</Object>
```

- 10 ファイルを保存して、閉じます。

UNIX での Apache Web サーバの設定

WebDAV Server を使用できるように Apache Web サーバを設定するには、次の手順を実行する必要があります。

- Web サーバアダプタをインストールする
- Apache コンフィグレーションファイルを編集する

Web サーバアダプタのインストール

Apache と WebDAV Server 間で通信できるように、Web サーバ アダプタをインストールします。Web サーバ アダプタの詳細については、以下の Web サイトを参照してください。

<http://jakarta.apache.org/tomcat/tomcat-4.1-doc/jk2/>

Web サーバアダプタをインストールするには、次の操作を行います。

- 1 以下のディレクトリに変更します。

```
<VM_Install_Dir>/vm/common/tomcat/bin/<os>
```

<os> には、aix、hpux、linux、または solaris を指定します。

- 2 mod_jk.so (Solaris、HP-UX、Linux)、または mod_jk.a (AIX) を <Apache_Install_Dir>/libexec にコピーします。

Apache コンフィグレーションファイルの編集

Apache コンフィグレーションファイルを変更して、Web サーバアダプタのロードと初期化、および WebDAV Server への特定の要求の転送を、Apache で実行できるようにします。同じ Tomcat 上の Apache に対応するように設定されている Serena File Server、Web サーバ、および WebDAV Server を使用できます。

この Tomcat で Serena File Server または Web クライアントのいずれかを使用するように、Apache が設定されている場合は、以下の手順を実行します。それ以外の場合は、209 ページの『コンフィグレーションファイルを編集するには、次の操作を行います。』に進みます。

他の Serena 製品でコンフィグレーションファイルを編集するには、次の操作を行います。

- 1 root としてログインします。
- 2 ディレクトリを <Apache_Install_Dir>/conf に変更します。
- 3 httpd.conf ファイルを開きます。
- 4 Dreamweaver を統合するには、<IfModule mod_setenvif.c> と </IfModule> の間にある Customize behavior based on browser セクションに以下の行を追加します。

```
BrowserMatch "Dreamweaver.*" nokeepalive downgrade-1.0 force-response-1.0
```

- 5 同じ Tomcat を使用するように Apache 1.x または 2.x を設定した場合、ファイルの最後に以下の行が含まれていることを確認します。以下の行がない場合は追加します。

Apache 1.x の場合

```
#include the jk adapter config file
include <VM_Install_Dir>/vm/inet/install/httpd_pvcs.conf
```

Apache 2.x の場合

```
#include the jk adapter config file
include <VM_Install_Dir>/vm/inet/install/httpd2_pvcs.conf
```

- 6 .conf ファイルに以下の行が含まれていることを確認します。ファイルに以下の行がない場合は、末尾に追加します。

```
JkMount /SampleDB.dav ajp13
JkMount /SampleDB.dav/* ajp13
```

- 7 ファイルを保存して、閉じます。

同じ Tomcat で他の Serena 製品を使用していない場合、以下の手順を実行してください。

コンフィグレーションファイルを編集するには、次の操作を行います。

- 1 root としてログインします。
- 2 ディレクトリを <Apache_Install_Dir>/conf に変更します。
- 3 httpd.conf ファイルを開きます。
- 4 Dreamweaver を統合するには、<IfModule mod_setenvif.c> と </IfModule> の間にある Customize behavior based on browser セクションに以下の行を追加します。

```
BrowserMatch "Dreamweaver.*" nokeepalive downgrade-1.0 force-response-1.0
```

- 5 他の Serena アプリケーションで同じ Tomcat を使用するように Apache を設定していない場合、ファイルの最後に以下の行を追加します。

```
#include the jk adapter config file
include <VM_Install_Dir>/vm/common/tomcat/conf/jk/mod_jk.conf
```

- 6 ファイルを保存して、閉じます。

- 7 同じディレクトリに新しい mod_jk.conf ファイルを作成します。



注：このファイルがすでに存在する場合は、既存のファイルの名前を mod_jk.conf.old に変更して、mod_jk.conf ファイルを新しく作成してください。

- 8 mod_jk.conf ファイルに以下の行を追加し、ファイルを保存します。AIX で使用する場合は、2 行目の mod_jk.so を mod_jk.a に置き換えます。

```
<IfModule !mod_jk.c>
LoadModule jk_module <Apache_Install_Dir>/libexec/mod_jk.so
</IfModule>
JKWorkersFile "<VM_Install_Dir>/vm/common/tomcat/conf/jk/
workers.properties"
JKLogFile "<VM_Install_Dir>/vm/common/tomcat/logs/mod_jk.log
JKLogLevel error
JKMount /admin ajp13
JKMount /admin/* ajp13
JKMount /examples ajp13
JKMount /examples/* ajp13
JKMount /SampleDB.dav ajp13
JKMount /SampleDB.dav/* ajp13
```

Web サーバのテスト

IIS、iPlanet、または Apache を設定した後、Web サーバへの接続をテストするには、Windows マシンに Web フォルダまたはネットワークプレースを追加します。

Web サーバをテストするには、次の操作を行います。

- 1 WebDAV Server および設定されている Web サーバを起動します。
[200 ページの『WebDAV Server の起動と停止』](#)を参照してください。
- 2 Windows エクスプローラを開きます。
- 3 〈My Network Places (マイネットワーク)〉を選択し、〈Add Network Place (ネットワークプレースの追加)〉アイコンをダブルクリックします。

4 次の場所を入力します。

`http://<ホスト名>:<ポート>/SampleDB.dav`

ここで、<ホスト名> は Web サーバをホストするシステムの名前で、<ポート> は Web サーバのポート番号です。デフォルトのポート番号は 8080 です。

5 【Next (次へ)】をクリックします。

プロジェクトデータベースにログインして内容を表示することができれば、Web サーバが正しく設定されています。

第 19 章

Meritage のインストール

はじめに	214
インストールの前に	214
Meritage Admin Wizard	215
Meritage エンドユーザの設定	217
インストール後の作業	218

はじめに

この章では、Serena Meritage のインストール方法、設定方法、および実行方法について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- エンドユーザインストールの作成
- エンドユーザセットアップの実行

以下については、『Serena PVCS Version Manager WebDAV Server 操作ガイド』を参照してください。

- Meritage を使用する場合の WebDAV Server の設定と構成
- WebDAV Server の起動
- 追加のプロジェクトデータベースの設定

インストールの前に

- | | |
|-------------------------|--|
| サポートされているプラットフォーム | Meritage は Windows オペレーティングシステムでサポートされています。サポート対象のプラットフォームとバージョンについては、Serena PVCS Version Manager readme ファイルの Meritage セクションを参照してください。 |
| ライセンスサーバの設定 | Meritage を使用する前に、Serena ライセンスサーバをインストールおよび設定する必要があります。Meritage Admin Wizard によって、ライセンスサーバの名前または IP アドレスの入力を求められます。この情報をインストール時に入力しなかった場合、エンドユーザが自分のシステムに Meritage を設定するときに入力する必要があります。 |
| Version Manager のインストール | さらに、Meritage を使用するには、Version Manager をインストールし、WebDAV Server マシン上で Version Manager プロジェクトデータベースを設定する必要があります。 |

Meritage Admin Wizard

Meritage Admin Wizard を使用して、エンドユーザインストールプログラムを作成します。Admin Wizard は、プロジェクトデータベースを設定し、ユーザ用のライセンスサーバを指定するためのツールです。Admin Wizard でエンドユーザインストールを作成しておけば、ユーザのインストールに必要なファイルを共有ネットワークドライブ上へ簡単に配置できます。

Meritage Admin Wizard でエンドユーザインストールを作成するには

- 1 Serena PVCS Professional スイート DVD に収められている MeritageAdminWizard.exe を実行します。
- 2 [Welcome to the Meritage Wizard (Meritage ウィザードへようこそ)] 画面で、〈Create the Meritage end user setup (Meritage エンドユーザセットアップの作成)〉オプションを選択し、【Next (次へ)】をクリックします。
- 3 エンドユーザセットアップを作成するローカルフォルダまたはネットワーク上のフォルダを選択し、【Next (次へ)】をクリックします。
- 4 Meritage で使用するプロジェクトデータベースの名前と場所を設定します。
 - a Version Manager プロジェクトデータベースの名前を入力します。これは、エンドユーザが Microsoft Office アプリケーションから操作するプロジェクトデータベースです。ここで指定する名前は、Version Manager のプロジェクトデータベース名と同じでなくてもかまいません。必要であれば、WebDAV Server の場所など、その他の情報を名前に含めることができます。
 - b プロジェクトデータベースを管理している WebDAV Server マシンの HTTP アドレスを入力します。デフォルトの WebDAV Server 設定を使用する場合、アドレスは次のようになります。
http://<<localhost>>:8080/SampleDB.dav
 - c WebDAV Server を実行している場合、【Test Connection (接続テスト)】ボタンをクリックして、入力したアドレスが正しいかどうかをテストできます。ログインダイアログボックスが表示されたら、有効な Version Manager プロジェクトデータベースの有効なユーザ名とパスワードを入力します。WebDAV Server がサンプルプロジェクトデータベースに接続されている場合は、ユーザ名として Admin を使用できます。パスワードを入力する必要はありません。接続に成功したら、【Add (追加)】ボタンをクリックします。

- d WebDAV Server が複数のプロジェクトデータベースに接続するよう設定されている場合や、複数の WebDAV Server を実行している場合は、ここで追加の HTTP アドレスを入力できます。それ以外の場合は、【Next (次へ)】をクリックします。
- 5 ライセンスサーバを実行しているマシンの名前または IP アドレスを入力し、【Next (次へ)】をクリックします。この手順を省略してインストールを完了することもできます。ただしその場合、評価版の使用時以外は、エンドユーザが初めて Meritage を実行する際にライセンスサーバアドレスの入力が必要です。
- 6 [Summary (サマリ)] 画面で選択内容を確認し、【Next (次へ)】をクリックします。

Meritage Wizard により、指定した場所にエンドユーザインストールが作成されます。作成されたエンドユーザインストールは、Meritage を使用するすべてのユーザに配布できるため、ユーザは管理者が指定したプロジェクトデータベースを操作できます。

エンドユーザプロジェクト定義の更新

エンドユーザインストールを作成した後で、ライセンスサーバを変更したり、新しいプロジェクトデータベースを定義したりできます。

- 1 Serena PVCS Professional スイート DVD に収められている MeritageAdminWizard.exe を実行します。
- 2 Meritage Wizard の [Welcome to the Meritage Wizard (Meritage ウィザードへようこそ)] 画面で (Create script to update Meritage project and license server definitions... (Meritage プロジェクトとライセンスサーバの定義を更新するスクリプトの作成...)) オプションを選択し、【Next (次へ)】をクリックします。

このオプションを選択すると、Version Manager プロジェクトデータベースの http アドレスを既存の Meritage クライアントインストールに追加するためのレジストリスクリプトを作成できます。

- 3 この更新スクリプト用のローカルフォルダまたはネットワーク上のフォルダを選択し、【Next (次へ)】をクリックします。
- 4 新しい名前とサーバアドレスを入力するか、または既存の情報を更新して、【Next (次へ)】をクリックします。
- 5 ライセンスサーバのホスト名または IP アドレスを指定し、【Next (次へ)】をクリックしてエンドユーザ設定を更新します。

このプロセスによって、MeritageUpdate.msi ファイルが生成されます。このファイルを Meritage ユーザに配布する必要があります。Meritage ユーザがこのファイルを実行すると、レジストリが更新され、新しい定義が反映されます。

Meritage エンドユーザの設定

Admin Wizard を実行すると、Meritage エンドユーザの設定に必要な 4 つのファイルが生成されます。

- MeritageSetup.exe
- dotnetfx.exe
- settings.ini
- Setup.msi

Meritage クライアントインストールでは .NET Framework の特定バージョンが必要です。このバージョンがユーザによってインストールされていない場合は、自動的にインストールされます。エンドユーザのシステムに .NET Framework がインストールされていても、複数バージョン間の競合は発生しません。同一マシン上に異なるバージョンが共存可能で、それぞれ異なるアプリケーションによって使用できるためです。

Meritage エンドユーザアプリケーションをインストールするには

- 1 Microsoft Office アプリケーションをすべて終了します。Word を電子メールエディタとして使用している場合は、Outlook も終了してください。
- 2 Meritage Wizard の指示に従い、該当する場所にある MeritageSetup.exe をクリックします。
- 3 使用権許諾契約の内容を確認し、同意する場合は〈I Agree (同意する)〉を選択して、【Next (次へ)】をクリックします。
- 4 Meritage をインストールする場所を入力し、【Next (次へ)】をクリックしてインストールを完了します。

インストール手順の最後の画面に、Meritage の使用方法が表示されます。この説明は、Meritage オンラインヘルプでも参照できます。

インストール後の作業

インストールが完了すると、Meritage ユーザは Word、Excel、または PowerPoint を開くことができます。Word をエディタとして使用中の Microsoft Outlook を含め、これらのうちいずれかのアプリケーションがインストール時に開かれていた場合は、すべてのアプリケーションを終了して再起動しないかぎり、Meritage DLL がロードされません。Meritage がインストールされると、Meritage メニューが表示されます。

Serena Meritage の基本操作

Meritage の概念と操作手順、および基本操作については、Meritage オンラインヘルプを参照してください（[Help（ヘルプ）] - [Meritage Help（Meritage ヘルプ）]、または [Meritage] - [Help（ヘルプ）] を選択します）。オンラインヘルプには、各環境での Meritage の利用方法の理解に役立つ使用例も記載されています。

索引

A

- Adobe Acrobat 13
- Adobe Acrobat Reader、UNIX での設定 93
- Apache DSO サポート 146
- Apache Web サーバ
 - httpd.conf の編集 208
 - mod_jk.conf の編集 208
 - Web サーバアダプタのインストール 208
 - 起動 151
 - サブプレットの定義 141
 - 実行 151
 - 設定 121, 207
 - 停止 151

D

- DateTimeFormat 初期化引数 133
- defaultPassword 初期化引数 132
- Developer's Toolkit
 - DLL の場所 193
 - UNIX へのインストール 193
 - Windows へのインストール 192
 - 概要 192
 - 機能の配布とライセンス 194
 - システム要件 192
 - 配布時のライセンス 194
- Developer's Toolkit の再配布 194
- DLL、場所の確認 193
- DSO サポート、Apache 146
- DVD-ROM 55

E

- Eclipse
 - Linux でのインストールについて 24

- Eclipse プラグイン
 - Windows でのインストールプラン 24
- Exceed、設定 68

F

- FAT ファイルシステム 89
- FrontPage
 - Version Manager での使用 24
 - Server Extensions、インストール 187

H

- Host ID 82
- http.conf 208, 209

I

- IDE、サポート対象 24
- IDE クライアント
 - Windows でのインストールプラン 24
 - インストール
 - SCC プロジェクト 182
 - Web プロジェクト 182
 - 概要 180
 - システム要件 181
- iPlanet Web Server 149
 - obj.conf の編集 205
 - Version Manager Web サーバのアンインストール、UNIX 174
 - Version Manager Web サーバのアンインストール、Windows 172
 - Web サーバインスタンスの起動と停止 148
 - サーバの初回の起動 148
 - サーバの停止 149
 - サブプレットの定義 141

サポートされているバージョン 103

初回およびそれ以降の起動 148

設定 205

設定、UNIX 119, 121

設定、Windows 112

IP アドレス、プロジェクトリンクの生成時
132

ISAPI リダイレクタ 202

ISLV.INI 64

J

java サブレット 130

Java のクラスとオブジェクト 130

L

LDAP ID 82

License Manager ツール、開く方法 36
〔Login (ログイン)〕 ダイアログボックスの
ログインソース 82

LogIn ディレクティブ 82

logtimeout 初期化引数 133

M

Meritage

Meritage Admin Wizard、エンドユーザイン
ストールの作成 215

インストール方法 215

Microsoft Internet Explorer 107

Microsoft Internet Explorer のパッチ 107

Microsoft Internet Information Service

ISAPI リダイレクタの設定 202

Microsoft Internet Information Services

Version Manager Web サーバのアンインス
トール、Windows 173

Web サーバインスタンスの起動と停止 150

サポートされているバージョン 103

設定 113

サーバの起動 150

サーバの停止 150

セキュリティの設定 204

設定 202

Microsoft Windows ネットワーク 83

Motif 18

N

Netscape Communicator 107

Netware ID 82

NFS 19, 23

nfsmap ファイル 122

O

obj.conf 205

P

pvcsgrp 71

pvcspjproj.pub データファイル 131

pvc ユーザ 71

R

readme ファイル 106

rootPath 初期化引数 131

S

Samba 19

Secure Socket Layer

暗号 158

設定 158

設定とユーザの接続 158

説明 158

データ保水性保護 158

認証 158

ユーザの接続 159

Serena

Configuration Builder 194

TeamTrack URL

Windows での定義 136

TeamTrack とサブレット 132
Tracker URL

Windows での定義 136

Tracker とサブレット 132

インストールルート 120

serverName 初期化引数 132

setuid

クロスプラットフォーム環境で使用 77

セキュリティの強化 68

モード 119

Solaris

オンラインヘルプ用ブラウザの定義 94

ブラウザの設定 93

T

Tomcat

起動と停止 200

説明 200

trackerName 初期化引数 132

U

UFS 19

umask 19, 119

Universal Resource Locator

「URL」を参照

UNIX 18

Developer's Toolkit のインストール 193

UNIX の場合

ワークステーションのライセンス 45

UNIX での評価版ライセンス 74

UNIX の設定

setuid 119

umask 119

UNIX の場合

Adobe Acrobat Reader の設定 93

setuid 68

Version Manager に必要な環境設定 90

Version Manager のインストール 73

インストールディレクトリ構造 71

環境変数の設定 90

クロスプラットフォームインストールの実行プ

ラン 23

サポートされているプラットフォーム 19

サポートされているログインソース 83

システム要件 18

ディレクトリ権限 72

デフォルトのインストール構造 71

ファイルとデータの保護 88

ブラウザの設定 93

ユーザアカウントの作成 71

UNIX 表示オプション 68

UNIX プラットフォーム

iPlanet Web Server の設定 119

Tracker プロジェクト名 132

Version Manager Web サーバのアンインス
トール 174

Version Manager Web サーバのインストー
ル 120

Version Manager Web サーバの起動と停止
155

Version Manager Web サーバの実行、起動、
および停止 155

Version Manager Web サーバのセットアッ
プとインストール 118

権限の設定 119

サブレットの設定 139

タイムアウト 133

デーモンの無効化 165

デフォルトパスワード 132

UNIX への WebDAV Server のインストール

Apache Web サーバの設定 207

URL

Tomcat の関連サイト 200

Tracker プロジェクトへの割り当て 132

サブレット 130, 131

サブレットへの割り当て 131

V

VCSID 環境変数 83

Version Manager

UNIX 上でユーザアカウントを作成 71

UNIX へのインストール 73

Windows 上で登録 60, 76

Windows へのインストール 55

アクセスコントロール 126

コンポーネントの表示 105

プロジェクトデータベースの概要 124

- ユーザ名とパスワード 125
- テンポラリファイル 167
- Version Manager Application Server Admin
 - 起動 134
- Version Manager File Server 94
- Version Manager Web クライアント
 - Tracker URL 132
 - Web サーバ上でのイベントトリガの起動 126
 - インストールのセットアップ 106
 - 概要 106
 - 基本情報 104
 - クライアントのセットアップ 106
 - サブレットへのアクセス 144
 - サブレット名の割り当て 130
 - 最大アイドル時間の指定 133
 - 説明 104
 - タイムアウト 133
 - デフォルトのパスワードマスク 127
 - デフォルトパスワードの指定 132
 - 必要な Web サーバ 104
 - プロジェクトの説明をデータベースページに追加 131
 - ユーザと権限の設定 126
 - ユーザ名とパスワード 125, 127
 - ログインパスワード 127
 - ユーザの接続 156
- Version Manager Web クライアントへのユーザの接続 156
- Version Manager Web サーバ
 - readme ファイル 106
 - UNIX 環境でのセットアップとインストールの概要 118
 - UNIX 環境のサブレット 139
 - UNIX でのインストール手順 120
 - UNIX でのサブレットの削除 143
 - UNIX でのサブレットの追加 139
 - UNIX でのサブレットへのアクセス 144
 - UNIX へのインストール 119
 - Windows 上でのサブレット 134
 - Windows でのサブレットの設定 134
 - インストールのセットアップ 106
 - インストールプラン 26
 - 概要 102
 - 管理者による設定作業 105
 - サブレットの実行 113
- サブレットの変更または削除、Windows 137
- サブレットリンク 144
- システム要件 107
- 使用にはプロジェクトデータベースが必要 124
- 設定 105
- 説明 102
- デーモンの設定 163
- パフォーマンス最適化の推奨事項 162
- プロジェクトデータベースの必要性 124
- プロジェクトの有効化 131
- UNIX からアンインストール 174
- UNIX での起動 155
- UNIX での実行、起動、および停止 155
- UNIX での停止 155
- Windows インストール手順 111
- Windows からアンインストール 172
- Windows 環境でのセットアップとインストールの概要 110
- Windows での起動 154
- Windows での実行、起動、停止 154
- Windows での停止 154
- Windows へのインストール 111
- 設定ユーティリティ 112
- テンポラリファイル 167
- パフォーマンスについての考慮事項 161
- Version Manager Web サーバのアンインストール
 - Windows 172
 - UNIX の場合 174
- Version Manager Web サーバのオプションインストールタスク
 - UNIX プラットフォーム 118
 - Windows プラットフォーム 111
- Version Manager Web サーバのサブレット
 - 「サブレット」も参照 130
- Version Manager のコンポーネント
 - Version Manager Web クライアント 104
 - Web サーバ 103
 - 管理者による設定作業 105
 - 関連図 105
 - クライアントのセットアップ 106
 - サーバのセットアップ 106
- VLOGIN 82

W

WebDAV Server

- インストールプラン 26
- UNIX での起動 201
- UNIX での停止 201
- UNIX へのインストール 198
- Windows での起動 201
- Windows での停止 201
- Windows へのインストール 197
- アンインストール 199

WebDAV Server のアンインストール 199

Web サーバ

- Apache DSO サポート 146
- Apache Web サーバのインスタンス 151
- Apache Web サーバの実行 151
- Apache の設定 207
- Development Interface のインストール 186
- iPlanet Web Server のインスタンス 148
- iPlanet Web Server の実行 148
- iPlanet の設定 205
- Microsoft IIS の設定 202
- Microsoft Internet Information Services の実行 150
- Secure Socket Layer 158
- Version Manager Web サーバの最適化 167
- アクセスコントロール 158
- イベントトリガと Version Manager Web クライアント 126
- インストール 146
- 購入方法 103
- サーバ名 147
- セキュリティの設定 147
- 設定 147
- 設定、UNIX 120
- 設定、Windows 113
- 設定、サポート対象 187
- ソフトウェアのインストールと設定 147
- ファイアウォール 159
- ポート 147

Web サーバ URL

- 説明 132

Web サーバアダプタ 208

Web ブラウザ

- Internet Explorer の設定 107

Windows

- Developer's Toolkit のインストール 192
- Development Interface のインストール 180

DLL の場所 193

Windows 上に WebDAV Server をインストール

- iPlanet Web Server の設定 205
- Microsoft IIS の設定 202

Windows の場合

- Version Manager のインストール 55
- インストールディレクトリ構造 55
- 開発インターフェイスのインストールプラン 24
- クロスプラットフォームインストールの実行プラン 23
- システム要件 18
- ネットワーク 83
- 評価版のインストール 56
- ファイルとデータの保護 89
- ブラウザの設定 93
- ワークステーションインストールの準備 61
- ワークステーション / サーバインストールのプラン 21
- ワークステーションのセットアップ 64
- ワークステーションのセットアッププログラムの実行 65

Windows プラットフォーム

- Microsoft IIS の設定 113
- Tracker プロジェクト名 132
- サブレットの設定 134
- タイムアウト 133
- デフォルトパスワード 132
- Version Manager Web サーバのアンインストール 172
- Version Manager Web サーバのインストール 111
- Version Manager Web サーバの起動と停止 154
- Version Manager Web サーバの実行、起動、および停止 154
- インストールとセットアップの概要 110
- デーモンの無効化 164

Windows への Version Manager Web サーバのインストール

- インストール前の要件 106
- インストール手順 111

WNet ID 83

X

- X Windows 18
- X サーバ、設定 68

あ

アーカイブ

- Version Manager Web クライアントを使用するタスク 104
- インターネットまたはイントラネット経由でのアクセス 102
- 格納場所とネットワーク速度 163
- テンポラリファイル 167
- バージョン間のデルタ（差分）ファイル 168

アクセスコントロール

- SSL との比較 147
- セキュリティ
 - Version Manager 126
 - Web サーバ 147, 158

データベース

- 有効化 83
- ユーザ ID を自動的に作成 83
- データベースの設定 125
- デフォルトのパスワード 126, 127
- パスワードとユーザ名の管理 158

アップグレード

- Version Manager 5.3/6.0 20
- アップグレードしない場合の制約 21

アプレット

- Version Manager Web クライアント 106

アプレットコンポーネント 106

暗号セキュリティ、Web サーバ 158

アンチウィルスユーティリティとインストール 111

い

インストール

- IDE クライアント 180
- Microsoft Internet Explorer 107
- Serena ルート 120
- setuid モード 68

UNIX 上での Version Manager Web サーバ 120

- インストール手順 120
- インストールの概要 118
- インストール前の要件 106
- 権限の設定 119

UNIX 上に WebDAV Server

- iPlanet Web Server の設定 205
- インストール手順 198

UNIX に Developer's Toolkit 193

UNIX 版 73

Version Manager Web サーバのインストール前 106

Web サーバ 146

Web サーバソフトウェア 147

Windows 上での Version Manager Web サーバ

- Microsoft IIS の設定 113
- 111

- iPlanet Web Server の設定 112
- インストールの概要 110
- セットアッププログラム 111

Windows 上に WebDAV Server

- インストール手順 197

Windows に Developer's Toolkit 192

Windows 版 55

Windows 用評価版 56

概要 182

システム要件 107

ディレクトリ構造

- UNIX の場合 71

- Windows の場合 55

ワークステーション/サーバインストール 21

え

エイリアス

- サーバ名で使用される DNS 名 147

エンドユーザインストールの設定 215

お

オンライン登録 27, 76

- UNIX の場合 76

- Windows の場合 60

概要 27
 オンラインドキュメント 13
 オンラインヘルプ
 Solaris 用ブラウザの定義 94
 アクセス 12
 コマンドラインインターフェイス用 12
 デスクトップクライアント用 12

か

開発環境、サポート対象 24
 仮想 Web ディレクトリ、設定 113
 環境変数
 UNIX での設定 90
 VCSID 83
 管理者
 iPlanet Web Server の権限 148
 既存のプロジェクトデータベース 124
 設定 105
 管理者による設定作業 105

き

規則、表記上 12
 共通デスクトップ環境 18

く

クライアントのセットアップ 106
 クロスプラットフォーム
 NFS の使用 19
 Samba の使用 19
 setuid の使用 77
 インストールプラン 23
 ネットワーク 19

け

権限
 UNIX 版 72
 Version Manager Web クライアントとアクセスコントロール 126

Version Manager Web クライアントのアクセスの設定 126
 Version Manager Web サーバ、ユーザ ID とグループ ID 119

こ

コマンドラインインターフェイス
 ログインソースの定義 86
 コンポーネントのイベントトリガ動作 126

さ

サーバ、サーバでのインストールプラン 21
 サーバと serverName 設定 132
 サーバの 2 回目以降の起動 149
 サーバの初回の起動 148
 サーバ名
 Windows での指定 135
 説明 147
 サブレット
 Apache での定義 141
 iPlanet での定義 141
 Serena Tracker 132
 UNIX でのアクセス 144
 UNIX での削除 143
 UNIX での設定 139
 UNIX での追加 139
 UNIX での変更 142
 Windows での設定 134
 Windows での追加 134
 Windows での変更 137
 Windows で変更または削除 137
 アクセス 144
 概要 130
 起動と停止 113
 「サブレットの設定」も参照
 削除した場合は復元不可能 137
 定義と概要 130
 名前、説明、URL 131
 サブレット URL
 Windows での設定 135
 説明 131
 サブレットエンジン 200

サブレット名

- Windows での設定 135
- 説明 130
- サイズの大きいファイルのリビジョン 168
- サイズの大きいファイルリビジョンの差分 168

し

システムの考慮事項、パフォーマンスの向上 162

システム要件

- Developer's Toolkit 192
- Development Interface 181
- Microsoft Internet Explorer のパッチ 107
- UNIX の場合 18
- Version Manager Web サーバ 107
- Windows の場合 18

指名ユーザライセンス

- シナリオ 31
- 定義 31

初期化引数

- DateTimeFormat 133
- defaultPassword 132
- logtimeout 133
- rootPath 131
- serverName 132
- trackerName 132

シリアル番号

- ライセンスキー 111

シンクライアントのインターフェイス 102, 106

す

図

- {Servers (サーバ)} タブ 112, 154
- Version Manager コンポーネントの関係 105
- {Servlet (サブレット)} タブ 135

推奨

- Web サーバ 103
- プロジェクトファイルの格納場所 162
- メモリと速度 162

せ

製品サポート 11

- アカウントの取得 27
- 問い合わせ先 11

製品のシリアル番号 111

セキュリティ

- Microsoft IIS 204
- Version Manager

Version Manager Web クライアントの
ユーザ名 127

アクセスコントロール 126

Version Manager Web クライアントの制限
104

Web サーバ

Secure Socket Layer 147

アクセスコントロール 147, 158

アーカイブ 102

ファイアウォール 159

プロジェクトデータベースのアクセスコントロール 126

セッションの終了 133

設定

Apache Web サーバ 207

iPlanet Web Server 205

Microsoft Internet Information Services
202

UNIX 環境のサブレット 139

UNIX 上での Version Manager Web サーバ
120

UNIX 上での Version Manager Web サーバ
サブレット 139

Version Manager Web クライアントとデ
フォルトのパスワード 127

Version Manager Web クライアントのタイ
ムアウト 133

Version Manager Web サーバのサブ
レット 130

Version Manager Web サーバの設定、
Windows 113, 112

Web サーバ 147

Web サーバソフトウェア 147

Web ブラウザ 107

Windows 上での Version Manager Web
サーバ 111

Windows 上でのサブレット 134

Windows 上の Version Manager Web サーバサブレット 134
 インストール時のサーバ設定、Windows 112
 仮想 Web ディレクトリ 113
 サブレットのサーバ名 132
 サブレットの日付 / 時間の形式 133
 サブレットのルートパス 131
 サブレットのログインタイムアウト 133
 設定
 Version Manager Web クライアント
 デフォルトパスワード 132
 日付 / 時間の形式 133
 ログインタイムアウト 133
 Version Manager Web サーバ
 Web サーバ URL 132
 概要 130
 サーバ名 132
 サブレット URL 131
 サブレット名 130
 説明 131
 プロジェクトルート 131
 Web サーバ
 サーバ名 147
 ポート 147
 パフォーマンス最適化の推奨事項 166
 プロジェクト 126
 プロジェクトデータベースのオプション 125
 説明
 Windows での設定 135
 [Project Databases(プロジェクトデータベース)] ページに追加 131

た

タイムアウト、Version Manager Web クライアントの設定 133

つ

追加

UNIX 環境のサブレット 139
 Windows 上でのサブレット 134

て

ディレクティブ、LogIn 82
 ディレクトリ権限
 UNIX 版 72, 88
 Windows 版 89
 ディレクトリ構造
 UNIX 環境 71
 Windows インストール 55
 データ安全性保護、Web サーバ 158
 デーモン 163
 デスクトップクライアント
 アクセスコントロールデータベースのユーザを作成 83
 ログインソースの定義 84
 デフォルト
 Version Manager Web クライアントのオプション
 説明 132
 Version Manager Web クライアントのパスワード 127
 Web サーバ 200
 Web サーバの設定 147
 インストール時の NFSMAP ファイル 122
 パスワード 132
 Version Manager Web クライアント
 Windows での指定 136
 パスワードマスク 126, 127, 132
 プロジェクトデータベース 188
 テンポラリファイル
 ディスク容量に関する考慮事項 167
 ディレクトリの場所 167

と

同時使用ライセンス
 定義 31
 動的共有オブジェクトのサポート、Apache 146
 登録 60, 76
 ドキュメント
 Developer's Toolkit 192

に

認証保護、Web サーバ 158

ね

ネットワーク、クロスプラットフォーム 19

ネットワークポロジ、推奨事項 162

は

配布

Serena Configuration Builder の機能 194

Version Manager の機能 194

パスワード

Version Manager Web クライアントのデフォルトマスクの設定 132

Version Manager Web クライアントのログイン 127

Version Manager Web クライアントの使用 127

Web サーバで使用 158

プロジェクトデータベース 125

パフォーマンスについての考慮事項

システム 162

デーモン 163

ネットワークポロジ 162

ひ

日付 / 時間の形式

Windows での指定 136

評価版

Windows へのインストール 56

評価版ライセンス、アップグレード 48

表記上の規則 12

ふ

ファイアウォール 159

ファイル、格納場所についてのガイドライン 162

ファイルサーバ 94

ファイルとデータの保護

UNIX 版 88

Windows 版 89

ファイルの格納場所、推奨事項 162

ブラウザ

UNIX での設定 93

Windows での設定 93

プランニング

開発インターフェイスのインストール 24

クロスプラットフォームインストール 23

ワークステーション / サーバインストール 21

フローティングライセンス 31

プロジェクト

Version Manager Web サーバでの有効化 131

アーカイブのガイドライン 163

準備 124

設定 126

ファイルの格納場所についてのガイドライン 162

プロジェクト管理

基本的な説明 105

既存のプロジェクトデータベース 124

プロジェクトデータベース

アクセスコントロール 126

サブレット 131

タイムアウトとセッションの終了 133

定義 87

定義と概要 124

保護 87

[Project Databases (プロジェクトデータベース)] ページ

サブレットへのアクセス 144

サブレット名の割り当て 130

プロジェクトのコメントを追加 131

プロジェクトのアーカイブ、ガイドライン 163

プロジェクトファイルの推奨場所 162

プロジェクトリンク

Web サーバの IP アドレスを使用 132

Web サーバ名を使用 132

プロジェクトルート

Windows での指定 136

既存プロジェクトの使用 125

削除 125

設定 124
説明 131

へ

変更

UNIX 環境のサブレット 142
Windows 上でのサブレット 137

ほ

ポート

Web サーバ 147
番号 147

ま

マスターコンフィグレーションファイル
保護 88
マスターコンフィグレーションファイルのデ
フォルトのログインソース 85

ゆ

ユーザ

SSL を介した接続 159
Version Manager Web クライアント 156
Version Manager Web クライアントのアク
セスの設定 126

ユーザ ID 82

ユーザアカウント 71

ユーザアカウントの作成 71

ユーザ名

プロジェクトデータベース 125
プロジェクトデータベースのアクセスコント
ロール 126

ら

ライセンス 111

Developer's Toolkit の再配布 194

Serena から取得 33, 37
UNIX ワークステーション 45
Windows 版 56

管理 30

機能 30

購入時期 33

指名ユーザを自動的に設定 44

指名ユーザを手動で設定 43

選択 33

追加 40

追加購入 40

評価版のアップグレード 48

プロセスの例 32

ワークステーションインストール 45

ライセンスサーバ

インストール 33

起動と停止 41

ホスト ID、確認方法 40

ライセンスモデル

考え方 30

指名ユーザ 31

同時使用 31

浮動 31

併用 31

る

ルート、「プロジェクトルート」を参照
ルートと rootPath 設定 131

れ

レポート、ブラウザの設定 93

ろ

ログインソース

Host ID 82

LDAP ID 82

{Login (ログイン)} ダイアログボックス 82

Netware ID 82

UNIX 83

VCS ID 83

WNet ID 83

- アクセスコントロールデータベースで使用 83
- 概要 82
- コマンドラインインターフェイスによる定義 86
- デスクトップクライアントでの定義 84
- 有効なソース 86
- ログインタイムアウト
 - Windows での指定 136

わ

- ワークステーション
 - Windows でのインストールプラン 21
 - インストールの準備 61
 - 設定 64
 - セットアッププログラムの実行 65
- ワークステーションインストール、ライセンス 45
- ワークステーションのサイレントインストール
 - 実行 65
 - 準備 61
- ワークステーションのセットアップ 64